秋田県文化財調査報告書第324集

遺跡詳細分布調査報告書

２００１・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

秋田県文化財調査報告書第324集

遺跡詳細分布調査報告書

２００１・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

序

秋田県内には4,500箇所を超える遺跡の存在が知られています。それらは私たちの祖先の生活の痕跡であり、埋蔵文化財として今日まで受け継がれてきたものです。こうした大地に刻まれた歴史は、損なうことなく未来へと引き継いでいかなければなりません。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は、平成12年度に国庫補助事業として実施した県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業などの遺跡分布調査と、県道整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業・琴丘能代道路建設事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

報告書をまとめるにあたり、調査に御協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解くださいますようお願い申し上げます。

平成13年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　　言

1　本報告書は平成12年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。ただし、いずれも平成12年４月から平成12年12月までに実施した調査の結果報告である。平成13年１月以降に実施した調査については、来年度に報告する予定である。このほか、平成12年１月から３月までに実施した遺跡分布調査及び遺跡範囲確認調査の結果報告を平成11年度補足分として掲載した。

2　本報告書に記載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は主に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は遺跡分布調査については秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、遺跡範囲確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の50,000分の１及び25,000分の１地形図と、日本道路公団・国土交通省・県建設交通部・県農政部が作製した平面図である。

なお、第６図は50,000分の１を40％、第７・８図は25,000分の１を50％、第10図は25,000分の１を80％、それぞれ縮小して作製した。

目　　次

序
例言
目次

第１章　はじめに …… 1
第２章　平成12年度遺跡分布調査・
　　遺跡範囲確認調査実施要項 …… 1
　第１節　遺跡分布調査 …… 1
　第２節　遺跡範囲確認調査 …… 3
第３章　調査の記録 …… 6
　第１節　遺跡分布調査 …… 6
　　1　平成11年度補足分 …… 6
　　（１）県営土地改良総合整備事業
　　船越根木地区 …… 6
　　（２）県営ほ場整備事業　下新城西部地区 …… 6
　　（３）県営ほ場整備事業　内越地区 …… 7
　　（４）県営ほ場整備事業　新荘地区 …… 7
　　（５）県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区 …… 8
　　（６）県営ほ場整備事業　黒倉堰地区 …… 8
　　（７）水環境整備事業　挟間田地区 …… 8
　　2　平成12年度分 …… 9
　　（１）日本海沿岸東北自動車道建設事業
　　本荘岩城間 …… 9
　　（２）琴丘能代道路建設事業
　　能代南能代東間 …… 10
　　（３）琴丘能代道路建設事業
　　能代東二ツ井間 …… 10
　　（４）大館西道路建設事業 …… 12
　　（５）角館バイパス建設工事 …… 13
　　（６）湯沢横手道路建設事業
　　湯沢雄勝間 …… 14
　　（７）成瀬ダム建設事業 …… 15
　　（８）国道282号国道道路改築事業
　　（錦木バイパス） …… 16
　　（９）主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方
　　道路整備事業　（西町バイパス） …… 17
　　（10）国道105号国道道路改築工事 …… 18
　　（11）特定交通安全施設等整備工事 …… 18
　　（12）主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道
　　路整備事業 …… 19
　　（13）主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連
　　道路整備事業 …… 20
　　（14）主要地方道本荘西仙北角館線地方道
　　道路改築事業 …… 21
　　（15）砂子沢ダム建設事業 …… 21
　　（16）秋田中央道路建設事業 …… 22
　　（17）芋川災害復旧等関連緊急事業 …… 22
　　（18）県立脳血管研究センター
　　ガンマナイフ治療室増築工事 …… 23
　　（19）県健康増進交流センター（ユフォーレ）
　　温泉井掘削事業 …… 23
　　（20）県営土地改良総合整備事業
　　上仏社地区 …… 24
　　（21）県営ほ場整備事業　金岡地区 …… 24
　　（22）県営ほ場整備事業　大久保岱地区 …… 25
　　（23）県営ほ場整備事業　飯塚地区 …… 25
　　（24）県営ほ場整備事業　井川東部地区 …… 26
　　（25）県営ほ場整備事業　新荘地区 …… 26
　　（26）県営ほ場整備事業　木在地区 …… 27
　　（27）県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区 …… 28
　　（28）県営ほ場整備事業　矢島地区 …… 28
　　（29）県営ほ場整備事業　大砂川地区 …… 29
　　（30）県営ほ場整備事業　四ツ屋東部地区 …… 29
　　（31）県営ほ場整備事業　日暮地区 …… 30
　　（32）県営土地改良総合整備事業　落合地区 …… 31
　　（33）県営ほ場整備事業　白岩第一地区 …… 31
　　（34）県営ほ場整備事業　長楽寺地区 …… 32
　　（35）県営ほ場整備事業　花園地区 …… 32
　　（36）県営ほ場整備事業　中仙南部地区 …… 33
　　（37）県営ほ場整備事業　八幡地区 …… 33
　　（38）県営ほ場整備事業　駒場北地区 …… 34
　　（39）県営ほ場整備事業　土崎・小荒川地区 …… 34
　　（40）県営土地改良総合整備事業
　　西ノ又地区 …… 35
　　（41）県営ほ場整備事業　杉沢地区 …… 36
　　（42）県営ほ場整備事業　福地地区 …… 36
　　（43）県営ほ場整備事業　里見地区 …… 37
　　（44）一般農道整備事業　牧野安全寺地区 …… 38
　　（45）一般農道整備事業　東福寺地区 …… 38
　　（46）山村基幹農道整備事業　北沢４期地区 …… 39
　　（47）県立花輪高等学校改築事業 …… 40
　第２節　遺跡範囲確認調査 …… 41
　　1　平成11年度補足分 …… 41
　　（１）一般地方道森岳鹿渡線踏切除却工事 …… 41
　　①古館堤頭Ⅱ遺跡 …… 41
　　（２）主要地方道秋田昭和線地方道道路
　　改良事業 …… 49
　　①大松沢Ⅰ遺跡 …… 49
　　（３）主要地方道寺内新屋雄和線地方特定
　　道路整備工事 …… 57
　　①諏訪遺跡 …… 57
　　2　平成12年度分 …… 65
　　（１）主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方
　　道路整備事業 …… 65
　　①柴内館跡 …… 65
　　（２）国道282号国道道路改築事業 …… 71
　　①物見坂Ⅲ遺跡 …… 71
　　（３）琴丘能代道路建設事業 …… 79
　　①西ノ沢遺跡 …… 79
　　②塞ノ神遺跡 …… 82
　　（４）国道105号国道道路改築工事 …… 89
　　①諏訪岱Ⅱ遺跡 …… 89
　　②長野岱Ⅲ遺跡 …… 96
　　（５）主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連
　　道路整備事業 …… 101
　　①開防遺跡 …… 101
　　（６）主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道
　　路整備事業 …… 109
　　①一ノ関遺跡 …… 109
　　（７）県営ほ場整備事業　土崎・小荒川地区 …… 112
　　①厨川谷地・厨川谷地Ⅱ遺跡 …… 112
　　（８）日本海沿岸東北自動車道建設事業 …… 120
　　①中ノ目遺跡 …… 120
　　②上谷地遺跡 …… 123
　　（９）湯沢横手道路建設事業 …… 130
　　①堀量遺跡 …… 130

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成11年度の補足分は、県営ほ場整備事業等の遺跡分布調査７件、主要地方道道路整備事業等に係る遺跡範囲確認調査３件である。平成12年度は日本海沿岸東北自動車道建設事業、琴丘能代道路建設事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査47件と、日本海沿岸東北自動車道建設事業、琴丘能代道路建設事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡範囲確認調査12件である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員、秋田市、横手市、本荘市、男鹿市、湯沢市、鹿角市、鷹巣町の専門職員、それに地元教育委員会職員の協力を得て、平成12年１月から平成12年12月にかけて実施したものである。

第２章　平成12年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査、試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

（１）計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

（２）確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

（３）遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室（藤澤昌、谷地薫、武藤祐浩、泉田健）

秋田市教育委員会（安田忠市、伊藤武士）、横手市教育委員会（澤谷敬、石田正明）、本荘市教育委員会（長谷川潤一）、男鹿市教育委員会（泉明、竹内弘和）、湯沢市教育委員会（今野寛子）、鹿角市教育委員会（秋元信夫、藤井安正）、鷹巣町教育委員会（岩越宏典）

５　市町村教育委員会担当者

斉藤千代繁（大曲市）、亀沢修（小坂町）、大黒文平（比内町）、佐藤晋、中島英樹（上小阿仁村）、田村征孝、佐藤潤一（山本町）、米森伴宗（峰浜村）、門間裕一（飯田川町）、伊藤健一（井川町）、三浦芳春（矢島町）、佐々木武二（岩城町）、齋藤一樹（象潟町）、藤原千佳子（角館町）、高橋利省、阿部利美（中仙町）、伊藤聡（田沢湖町）、豊島勝志、柳原法子、滝沢清寿（協和町）、

佐藤正悦（南外村）、細川良隆（太田町）、煙山光成（千畑町）、皆川順子、佐藤憲雄（雄物川町）、藤木頼己（稲川町）、菅原英樹、古谷政弘（東成瀬村）

6　調査対象地域及び事業名

＊平成11年度補足分（平成12年１月～３月）

No.	事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果等
1	県農政部	県営土地改良総合整備事業　船越根木地区	男鹿市	３月８日	試掘	当面の事業地内では遺跡は確認されなかった。
2	県農政部	県営ほ場整備事業　下新城西部地区	秋田市	３月７日	試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
3	県農政部	県営ほ場整備事業　内越地区	本荘市	３月14・16・22日	踏査・試掘	平成12年度事業地内で新発見の遺跡２箇所を確認。
4	県農政部	県営ほ場整備事業　新荘地区	矢島町	２月17日	試掘	平成12年度事業地内では遺跡は確認されなかった。
5	県農政部	県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区	矢島町	２月18日	試掘	平成12年度事業地内で新発見の遺跡１箇所を確認。
6	県農政部	県営ほ場整備事業　黒倉堰地区	田沢湖町	２月３日、３月23日	試掘	事業地内で周知の遺跡３箇所を確認。
7	県農政部	水環境整備事業　挟間田地区	男鹿市	１月19・28日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。

＊平成12年度分（平成12年４月～12月）

No.	事業者	事業名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果等
1	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業　本荘岩城間	本荘市・岩城町	５月30・31日、６月２日、９月12日、10月24日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所、新発見の遺跡２箇所を確認。
2	国土交通省	琴丘能代道路建設事業　能代南能代東間	能代市	７月６・７日、８月２・３・30・31日、11月14・15・20日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡６箇所、新発見の遺跡３箇所を確認。
3	国土交通省	琴丘能代道路建設事業　能代東二ツ井間	能代市	５月11日	踏査	事業地内の踏査を行い、試掘地点を選定。
4	国土交通省	大館西道路建設事業	大館市	７月25日、８月１日、11月８日	踏査	事業地内で周知の遺跡３箇所、新発見の遺跡３箇所を確認。
5	国土交通省	角館バイパス建設工事	角館町	10月20日	踏査	事業地内の踏査を行い、試掘地点を選定。
6	国土交通省	湯沢横手道路建設事業　湯沢雄勝間	湯沢市	６月６・７・22・23日	試掘	事業地内で新発見の遺跡１箇所を確認。
7	国土交通省	成瀬ダム建設事業	東成瀬村	９月５・６日、10月18・19日	踏査	事業地内の踏査を行い、試掘地点を選定。
8	県建設交通部	国道282号国道道路改築事業（錦木バイパス）	鹿角市	５月16・23・24日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
9	県建設交通部	主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業（西町バイパス）	鹿角市	５月16・23・24日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
10	県建設交通部	国道105号国道道路改築工事	森吉町	10月24日	踏査	事業地内の踏査を行い、試掘地点を選定。
11	県建設交通部	特定交通安全施設等整備工事	比内町	９月12日	踏査	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
12	県建設交通部	主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業	秋田市	９月26日、12月12日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡２箇所を確認。
13	県建設交通部	主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業	五城目町	10月25日、11月８日	踏査	事業地内で新発見の遺跡１箇所を確認。
14	県建設交通部	主要地方道本荘西仙北角館線地方道道路改築事業	西仙北町	９月22日	踏査	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
15	県建設交通部	砂子沢ダム建設事業	小坂町	10月13日	踏査	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
16	県建設交通部	秋田中央道路建設事業	秋田市	６月26日	踏査	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
17	県建設交通部	芋川災害復旧等関連緊急事業	本荘市	12月26日	試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
18	県健康福祉部	県立脳血管研究センターガンマナイフ治療室増築工事	秋田市	４月14日	踏査	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
19	県健康福祉部	県健康増進交流センター（ユフォーレ）温泉井掘削事業	河辺町	11月22日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
20	県農政部	県営土地改良総合整備事業　上仏社地区	上小阿仁村	４月20日	試掘	平成12年度事業地内では遺跡は確認されなかった。
21	県農政部	県営ほ場整備事業　金岡地区	山本町	６月７・20・22日、11月14日、12月６日	踏査・試掘	平成12～13年度事業地内で周知の遺跡２箇所を確認。
22	県農政部	県営ほ場整備事業　大久保岱地区	峰浜村	４月25日、６月23日	踏査・試掘	平成12年度事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
23	県農政部	県営ほ場整備事業　飯塚地区	飯田川町	11月２日	踏査・試掘	平成13年度事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
24	県農政部	県営ほ場整備事業　井川東部地区	井川町	11月21日	踏査	事業地内の踏査を行い、試掘地点を選定。
25	県農政部	県営ほ場整備事業　新荘地区	矢島町	６月21日、12月７日	試掘	平成13年度事業地内で新発見の遺跡１箇所を確認。
26	県農政部	県営ほ場整備事業　木在地区	矢島町	12月21日	試掘	平成13年度事業地内で新発見の遺跡１箇所を確認。
27	県農政部	県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区	矢島町	６月８日、12月７日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
28	県農政部	県営ほ場整備事業　矢島地区	矢島町	12月21日	踏査・試掘	平成12年度事業地内で周知の遺跡２箇所を確認。
29	県農政部	県営ほ場整備事業　大砂川地区	象潟町	５月24・25日	試掘	未調査部分の内容確認。
30	県農政部	県営ほ場整備事業　四ツ屋東部地区	大曲市	５月25日、７月４・７日、12月19日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡４箇所、新発見の遺跡１箇所を確認。
31	県農政部	県営ほ場整備事業　日暮地区	協和町	７月６日	踏査・試掘	当面の事業地内では遺跡は確認されなかった。
32	県農政部	県営土地改良総合整備事業　落合地区	協和町	５月１日、６月９日	踏査・試掘	当面の事業地内では遺跡は確認されなかった。
33	県農政部	県営ほ場整備事業　白岩第一地区	角館町	11月28日	踏査・試掘	当面の事業地内では遺跡は確認されなかった。
34	県農政部	県営ほ場整備事業　長楽寺地区	中仙町	５月25日、６月16・23日、８月10日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
35	県農政部	県営ほ場整備事業　花園地区	中仙町・角館町	５月25日	踏査	事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
36	県農政部	県営ほ場整備事業　中仙南部地区	中仙町	５月25日、12月20・26日	踏査・試掘	平成13年度事業地内で周知の遺跡３箇所、新発見の遺跡１箇所確認。
37	県農政部	県営ほ場整備事業　八幡地区	中仙町	５月25日	踏査	事業地内の踏査を行い、試掘地点を選定。
38	県農政部	県営ほ場整備事業　駒場北地区	太田町	４月12日、６月２・30日	踏査・試掘	当面の事業地内で周知の遺跡１箇所、新発見の遺跡１箇所を確認。
39	県農政部	県営ほ場整備事業　土崎・小荒川地区	千畑町	12月19日	踏査・試掘	平成13年度事業地内で周知の遺跡３箇所、新発見の遺跡１箇所確認。
40	県農政部	県営土地改良総合整備事業　西ノ又地区	南外村	11月７日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１箇所、新発見の遺跡１箇所を確認。
41	県農政部	県営ほ場整備事業　杉沢地区	横手市	４月26日	踏査・試掘	当面の事業地内で周知の遺跡１箇所を確認。
42	県農政部	県営ほ場整備事業　福地地区	雄物川町	11月30日	踏査・試掘	当面の事業地内で周知の遺跡２箇所を確認。
43	県農政部	県営ほ場整備事業　里見地区	雄物川町	６月22日、10月17・18日	踏査・試掘	当面の事業地内で周知の遺跡２箇所を確認。
44	県農政部	一般農道整備事業　牧野安全寺地区	男鹿市	６月８日、７月11・12日	踏査・試掘	当面の事業地内で新発見の遺跡２箇所を確認。
45	県農政部	一般農道整備事業　東福寺地区	稲川町	10月12日	試掘	事業地内では遺跡は確認されなかった。
46	県農政部	山村基幹農道整備事業　北沢４期地区	羽後町	11月30日	踏査	事業地内では遺跡は確認されなかった。
47	教育庁	県立花輪高等学校改築事業	鹿角市	９月19日、10月26日、12月１・８日	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡１箇所を確認。

第2節　遺跡範囲確認調査

1　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域での遺物の表面採集および小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2　調査の方法

（1）地形を考慮したトレンチおよび試掘坑を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、できるかぎり面的に調査地域を広げてその確認に努める。

（2）確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などは実測図などにより記録する。また、遺跡の全景と発掘調査状況、遺構・遺物の確認状況などは写真撮影をする。

（3）使用する地形図は開発部局で作製した一番大きな縮尺図面とする。

3　事業主体者

秋田県教育委員会

4　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター

調査課長補佐　児玉準、柴田陽一郎

学芸主事　油川龍一郎、五十嵐一治、石澤宏基、泉田健、磯村亨、大森浩、利部修、河田弘幸、吉川孝、小林稔幸、齋藤重隆、鈴木茂、半田あきほ、藤原司、松本昌樹、渡邊慎一

文化財主事　宇田川浩一、小山有希、村上義直、吉川耕太郎

非常勤職員　足利直哉、伊藤一彦、伊藤景子、遠藤元、太田剛、奥山美樹、小野寺ゆかり、亀井崇晃、工藤直子、倉田伸治、栗原拓、小澤昌広、小西秀平、齊藤浩志、佐々木政任、関友明、樽川章弘、千葉史宏、豊嶋健晃、永澤智子、成田雄毅、藤原寛子、藤原泰史、山中徹、和田哲郎

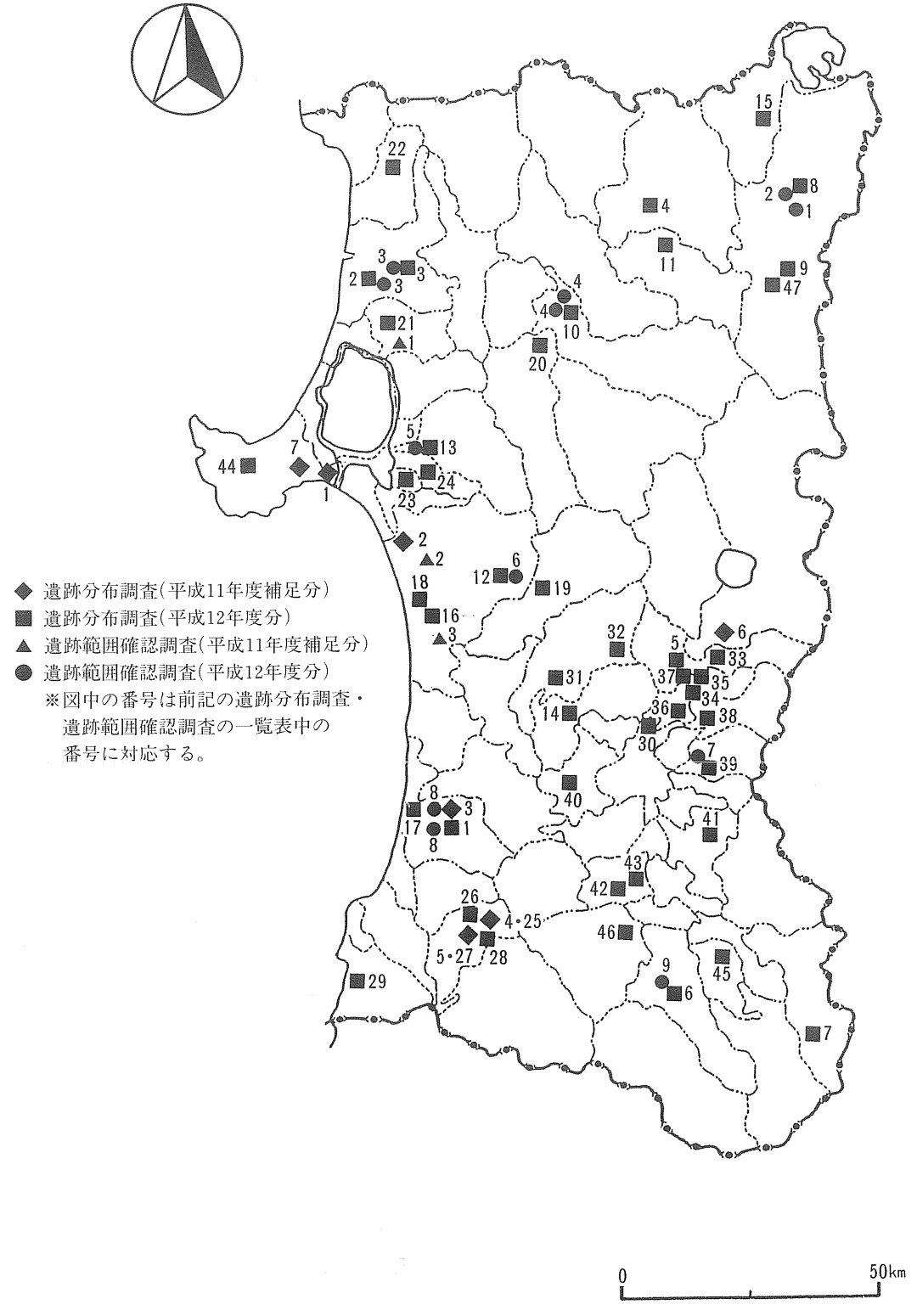
5　事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者

＊平成11年度補足分

No.	事業名	遺跡名(所在地)	調査期間	調査担当者
1	一般地方道森岳鹿渡線踏切除却工事	古館堤頭Ⅱ遺跡(山本町)	平成12年3月6日～17日	児玉・五十嵐・吉川(耕)
2	主要地方道秋田昭和線地方道道路改良事業	大松沢Ⅰ遺跡(秋田市)	平成12年3月8日～17日	磯村・泉田・半田
3	主要地方道寺内新屋雄和線地方特定道路整備工事	諏訪遺跡(秋田市)	平成12年3月6日～14・22日	柴田・藤原(司)・松本・石澤

＊平成12年度分

No.	事　業　名	遺　跡　名(所在地)	調　査　期　間	調　査　担　当　者
1	主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業	柴内館跡(鹿角市)	平成12年９月25日～10月20日	宇田川・小林(稔)
2	国道282号国道道路改築事業	物見坂Ⅲ遺跡(鹿角市)	平成12年９月25日～10月13日	河田・半田
3	琴丘能代道路建設事業	西ノ沢遺跡(能代市)	平成12年10月２日～20日	村上
		塞ノ神遺跡(能代市)	平成12年９月25日～10月20日	渡邊
4	国道105号国道道路改築工事	諏訪岱Ⅱ遺跡(森吉町)	平成12年11月13～15日	小山
		長野岱Ⅲ遺跡(森吉町)	平成12年11月８日～10日	吉川(孝)
5	主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業	開防遺跡(五城目町)	平成12年11月27日～12月１日	半田・村上
6	主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業	一ノ関遺跡(秋田市)	平成12年12月11日～15日	大森・吉川(耕)
7	県営ほ場整備事業 土崎・小荒川地区	厨川谷地・厨川谷地Ⅱ遺跡 (千畑町)	平成12年12月４日～15日	利部・齋藤(重)・鈴木
8	日本海沿岸東北自動車道建設事業	中ノ目遺跡(本荘市)	平成12年11月15日～21日	磯村・油川
		上谷地遺跡(本荘市)	平成12年11月15日～21日	磯村・油川
9	湯沢横手道路建設事業	堀量遺跡(湯沢市)	平成12年９月11日～29日	小山



第１図　遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

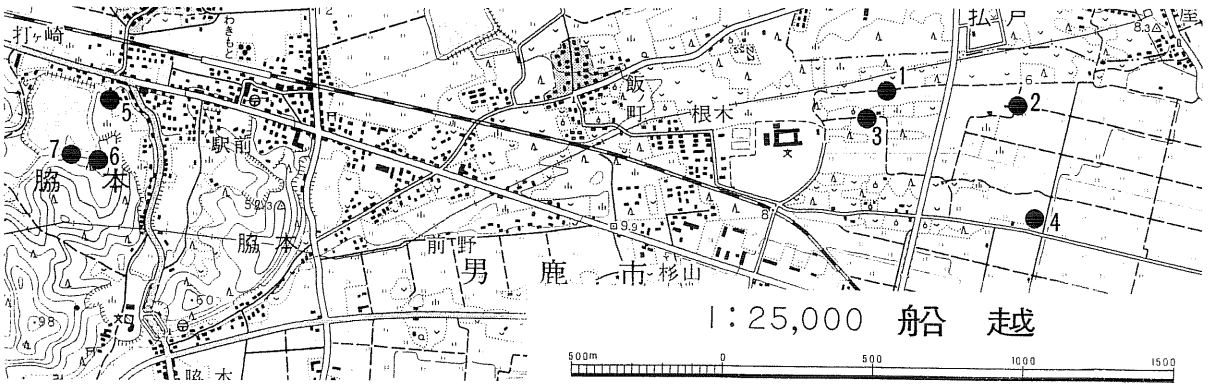
１．平成11年度補足分

（１）県営土地改良総合整備事業　船越根木地区

男鹿市船越根木地区に採択された土地改良事業で、計画面積56ha、平成15年度まで５箇年計画の事業である。事業予定地周辺には、根木Ⅰ遺跡、根木Ⅱ遺跡、根木Ⅳ遺跡が周知されている。このうち、当面の事業予定地について試掘した。

調査の結果、周知されている各遺跡は古砂丘に立地しており、遺物の表面採取が可能なことを確認したが、事業予定地である水田もしくは休耕田においては遺構の検出はできなかった。ただし、施工計画が客土及び水路整備を主としたものであることから、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	根木Ⅰ遺跡	男鹿市船越字根木	縄文	原野・畑地	縄文土器片	周知の遺跡
2	根木Ⅱ遺跡	男鹿市船越字根木	弥生	畑地	弥生土器片	周知の遺跡
3	根木Ⅳ遺跡	男鹿市船越字根木	古代	畑地・水田	・・・・	周知の遺跡
4	・・・・	男鹿市船越字根木	・・	水田	なし	



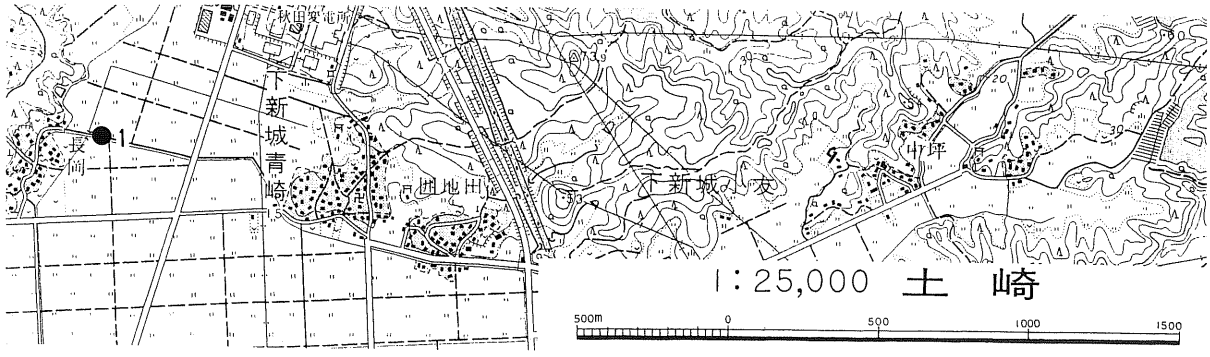
第２図　県営土地改良総合整備事業　船越根木地区・水環境整備事業　挟間田地区分布調査位置図

（２）県営ほ場整備事業　下新城西部地区

秋田市下新城西部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積220ha、平成14年度まで５箇年計画の事業である。平成11年11月に実施した試掘により、熊野田遺跡が事業予定地にあることが確認されたが、その部分の工事施工については設計変更による文化財の保全を図ることとなった。ただし、事業予定地北端の排水路設置部分について埋蔵文化財の状況把握が必要となり再試掘した。

調査の結果、一部で熊野田遺跡の遺物包含層に対応する土層が確認されたが、出土遺物が土師器片１点と少なく、遺構も確認できなかった。このため、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	熊野田遺跡	秋田市下新城長岡字熊野田	古代	水田	土師器片	周知の遺跡



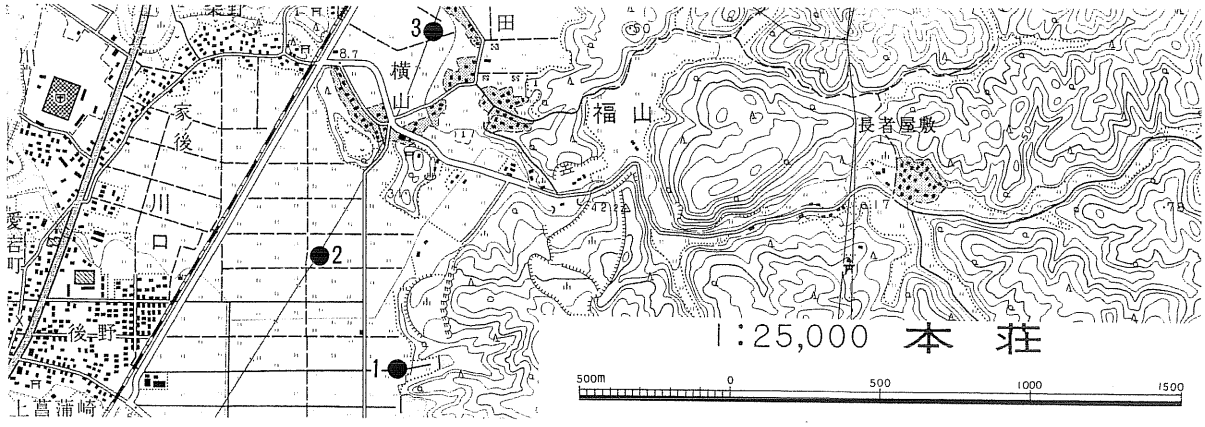
第３図　県営ほ場整備事業　下新城西部地区分布調査位置図

（３）県営ほ場整備事業　内越地区

本荘市内越地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積350ha、平成15年度まで８箇年計画の事業である。このうち平成12年度事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡２箇所が事業予定地にあることを確認した。大覚遺跡では土師器、須恵器が出土したほか土坑、柱穴を検出した。このため、原因者と施工計画について協議し、設計変更により文化財を保全することとし、工事施工にあたっては工事立会の対応をとることとした。また、新ウルイノ遺跡では土師器片、須恵器片が表面採取できたが、試掘により旧耕地整理などによる削平の著しい状況が確認されたことから、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大覚遺跡	本荘市川口字大覚	古代	水田	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡
2	・・・・	本荘市川口字石持	・・	水田	なし	
3	新ウルイノ遺跡	本荘市畑谷字新ウルイノ	古代	畑地	土師器片	周知の遺跡



第４図　県営ほ場整備事業　内越地区分布調査位置図

（４）県営ほ場整備事業　新荘地区（位置図は第29図）

矢島町新荘地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積42ha、平成15年度まで６ヵ年計画の事業である。平成12年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地での新たな遺構、遺物の確認はできなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
6	・・・・	矢島町新荘字日照平	・・	水田	・・・・	
7	・・・・	矢島町新荘字西田	・・	水田	・・・・	

（５）県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区（位置図は第31図）

矢島町針ヶ岡地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積26ha、平成15年度まで５箇年計画の事業である。平成12年度の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。下針ヶ岡遺跡では遺物の散布が希薄なこと、遺構を検出できなかったことから工事施工の対応について工事立会とした。

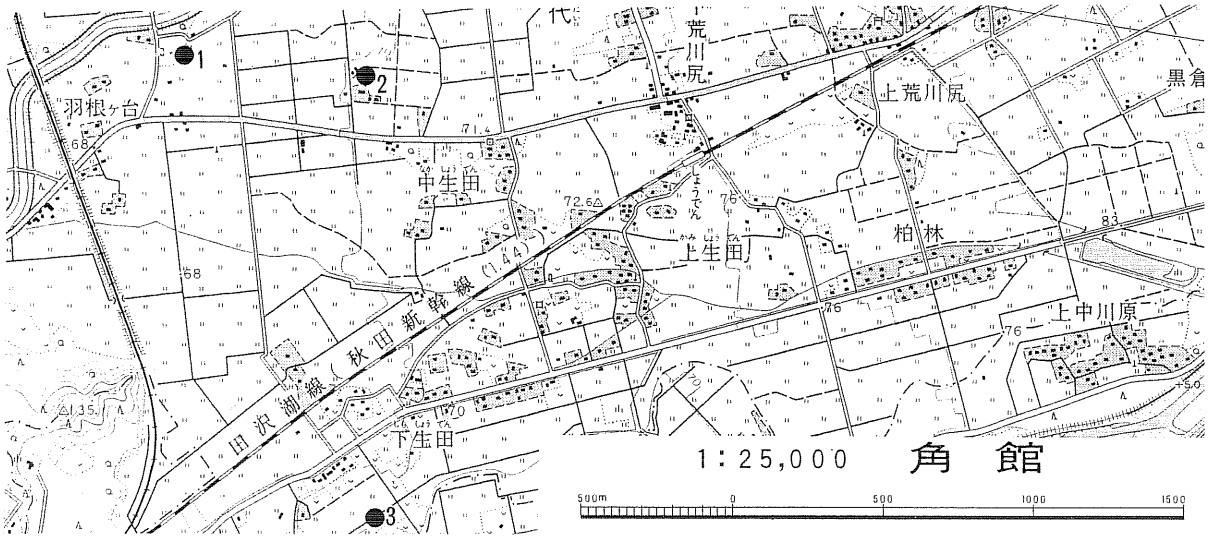
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
6	下針ヶ岡遺跡	矢島町針ヶ岡字下針ヶ岡	縄文	水田	縄文土器片	新発見の遺跡
7	・・・・	矢島町針ヶ岡字下針ヶ岡	・・	水田	なし	

（６）県営ほ場整備事業　黒倉堰地区

田沢湖町黒倉堰地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積439ha、平成16年度まで９箇年計画の事業である。平成12年度以降の事業予定地について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡３箇所を事業予定地に確認した。羽根ヶ台Ⅰ遺跡、羽根ヶ台Ⅱ遺跡では遺構、遺物を確認できなかったが、ともに遺物包含層の可能性のある土層を確認したため工事施工の対応について工事立会とした。高野遺跡では遺物包含層を確認した。この対応については協議中である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	羽根ヶ台Ⅰ遺跡	田沢湖町神代字羽根ヶ台	古代	水田	なし	周知の遺跡
2	羽根ヶ台Ⅱ遺跡	田沢湖町神代字羽根ヶ台	縄文	水田	なし	周知の遺跡
3	高野遺跡	田沢湖町神代字高野	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡



第５図　県営ほ場整備事業　黒倉堰地区分布調査位置図

（７）水環境整備事業　挟間田地区（位置図は第２図）

男鹿市挟間田地区に採択された農村生活環境整備を目的とした事業である。事業予定地について踏査及び試掘を行った。事業予定地周辺には、周知の遺跡３箇所がある。

調査の結果、事業予定地が脇本乍木Ⅰ遺跡には及ばないこと、脇本打ヶ崎遺跡では土師器片の出土、脇本城跡では土坑などを確認した。この結果を踏まえ、工事方法について協議し、工事方法の変更により文化財を保全することとし、工事施工にあたっては工事立会の対応をとることとした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
5	脇本乍木Ⅰ遺跡	男鹿市脇本脇本字乍木	・・	宅地	・・・・	周知の遺跡
6	脇本打ヶ崎遺跡	男鹿市脇本脇本字打ヶ崎	古代	杉林	土師器片	周知の遺跡
7	脇本城跡	男鹿市脇本脇本字挟間田	中世	杉林・堤防	土坑・整地面	周知の遺跡

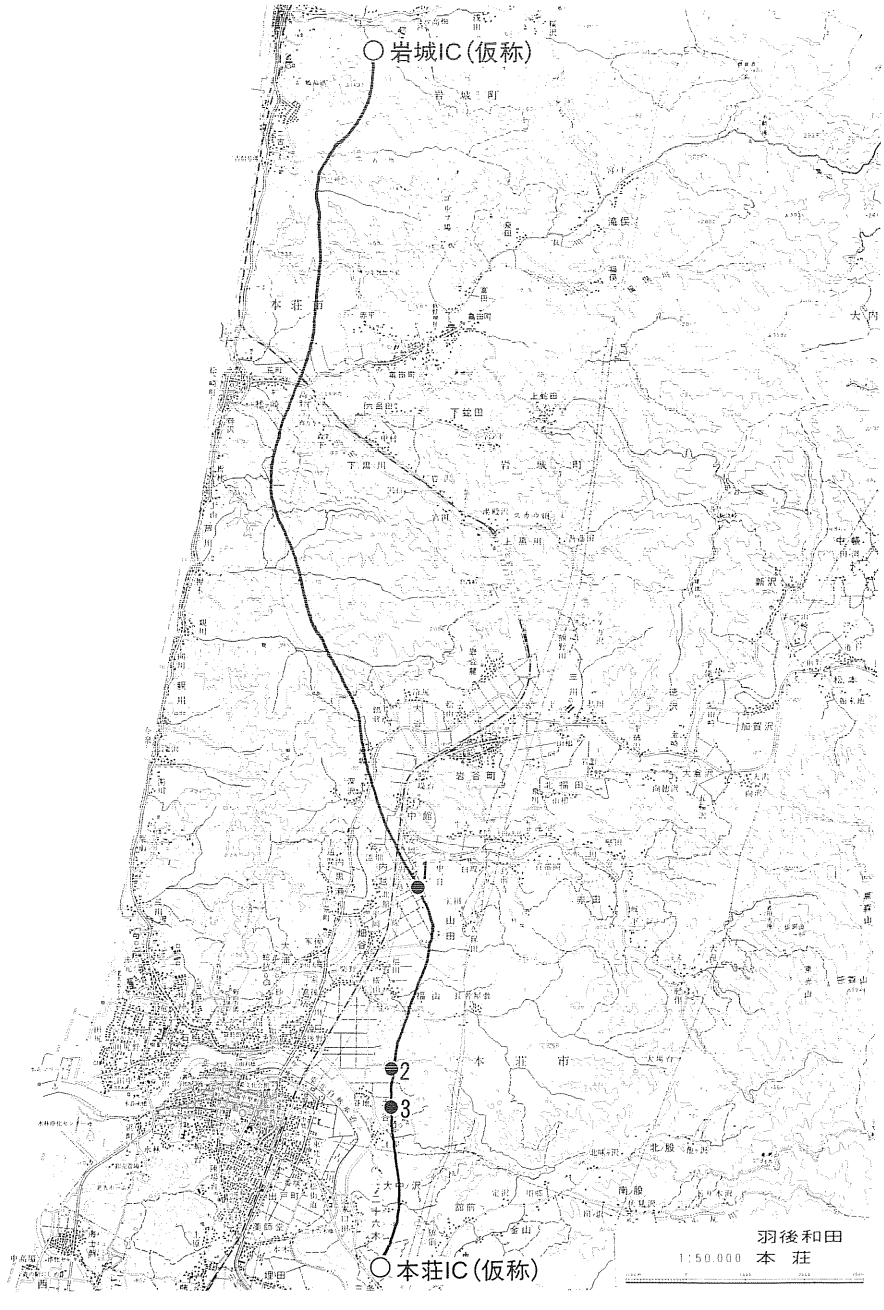
２．平成12年度分

（１）日本海沿岸東北自動車道建設事業　本荘岩城間

岩城町の岩城ＩＣから本荘市の本荘ＩＣまでの21.3kmのうち、未踏査部分の踏査及び試掘をした。

調査の結果、周知の遺跡１箇所、新発見の遺跡２箇所を事業予定地に確認した。３遺跡については今後範囲確認調査を実施する必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	中ノ目遺跡	本荘市内越字中ノ目	平安	水田	須恵器片	新発見の遺跡
2	新谷地遺跡	本荘市土谷字新谷地	平安	水田・畑地	須恵器片	新発見の遺跡
3	上谷地遺跡	本荘市土谷字上谷地	平安	水田・山林	須恵器片	周知の遺跡



第６図　日本海沿岸東北自動車道建設事業　本荘岩城間遺跡分布調査位置図

（２）琴丘能代道路建設事業　能代南能代東間

琴丘能代道路建設事業予定地で、能代市の能代南ＩＣから能代東ＩＣまでの6.7㎞の区間について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡６箇所と新発見の遺跡３箇所を事業予定地に確認した。このうち塞ノ神遺跡、西ノ沢遺跡については、平成12年度内に遺跡の確認後に範囲確認調査が行われた。此掛沢Ⅲ遺跡については遺構・遺物ともに検出されず、工事施工の対応としては工事立会とした。また、清水上遺跡については、土地改良時における地形改変等の影響が大きく原地形を確認するに至らなかったことから、周知されていた遺跡推定範囲が事業予定地まで拡がらないことを確認した。残る５箇所については範囲確認調査が必要である。なお、残る能代市鰄渕地区の水田部分については、今後試掘を予定している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	清水上遺跡	能代市浅内字清水上	縄文・古代	畑地・水田	なし	周知の遺跡
2	横長根Ａ遺跡	能代市浅内字横長根	古代	畑地	土師器片	周知の遺跡
3	ムサ岱遺跡	能代市浅内字ムサ岱	古代	畑地	竪穴住居跡・土師器片	周知の遺跡
4	上ノ山Ⅱ遺跡	能代市浅内字上ノ山	古代	畑地・原野	土坑	周知の遺跡
5	此掛沢Ⅲ遺跡	能代市浅内字此掛沢	縄文・古代	畑地・山林	なし	周知の遺跡
6	塞ノ神Ⅱ遺跡	能代市字塞ノ神	縄文	畑地・山林	縄文土器片・石器	新発見の遺跡
7	塞ノ神遺跡	能代市字塞ノ神	古代	山林・原野	柱穴跡・土師器片	周知の遺跡
8	西ノ沢遺跡	能代市河戸川字西ノ沢	縄文	山林	土坑・縄文土器片	新発見の遺跡
9	柏子所Ⅱ遺跡	能代市字柏子所	縄文・古代	山林・原野	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡
10	・・・・	能代市鰄渕字堤下	・・・・	水田	なし	
11	・・・・	能代市鰄渕字苗代沢	・・・・	水田・山林	なし	

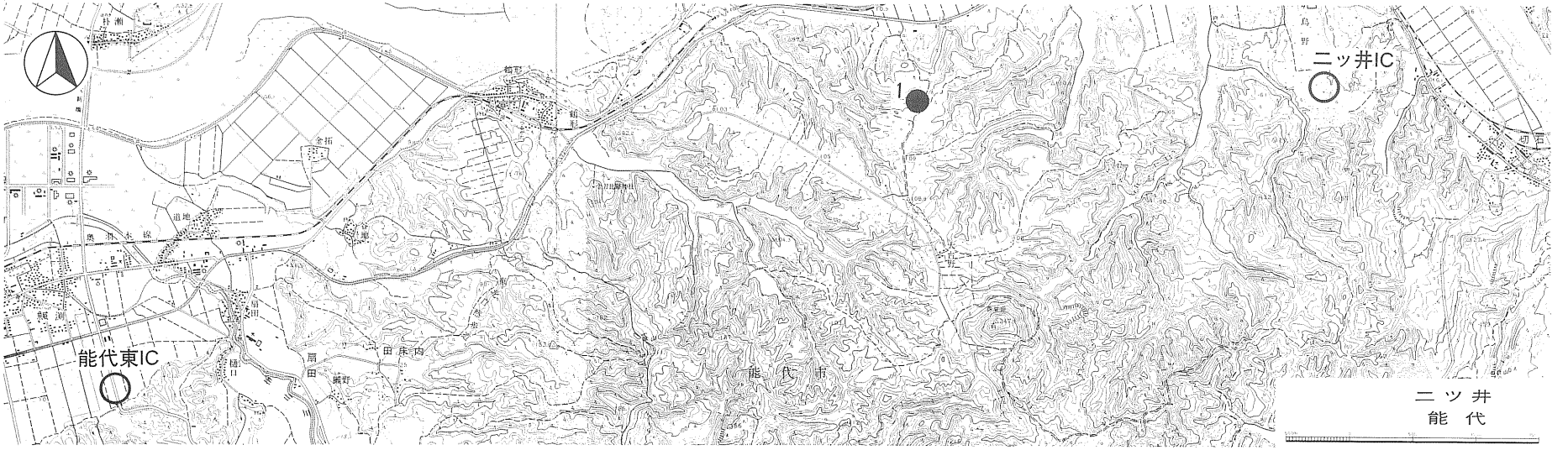
（３）琴丘能代道路建設事業　能代東二ツ井間

琴丘能代道路建設事業予定地で、能代市の能代東ＩＣから二ツ井町の二ツ井ＩＣまでの10㎞のうち、昨年度までに踏査を終えている能代市鶴形地区及び二ツ井ＩＣ周辺地区を除いた市町境から東側約2.5㎞の区間について踏査した。

調査の結果、周知の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。また、試掘必要箇所の選定を行い、昨年度の踏査区間と併せて事業予定地全区間の踏査・試掘必要箇所の選定を終了した。この区間については、今後試掘を予定している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	芹沢館跡	能代市鶴形字大野台	中世	山林・原野	・・・・	周知の遺跡

第7図　琴丘能代道路建設事業　能代南能代東間遺跡分布調査位置図



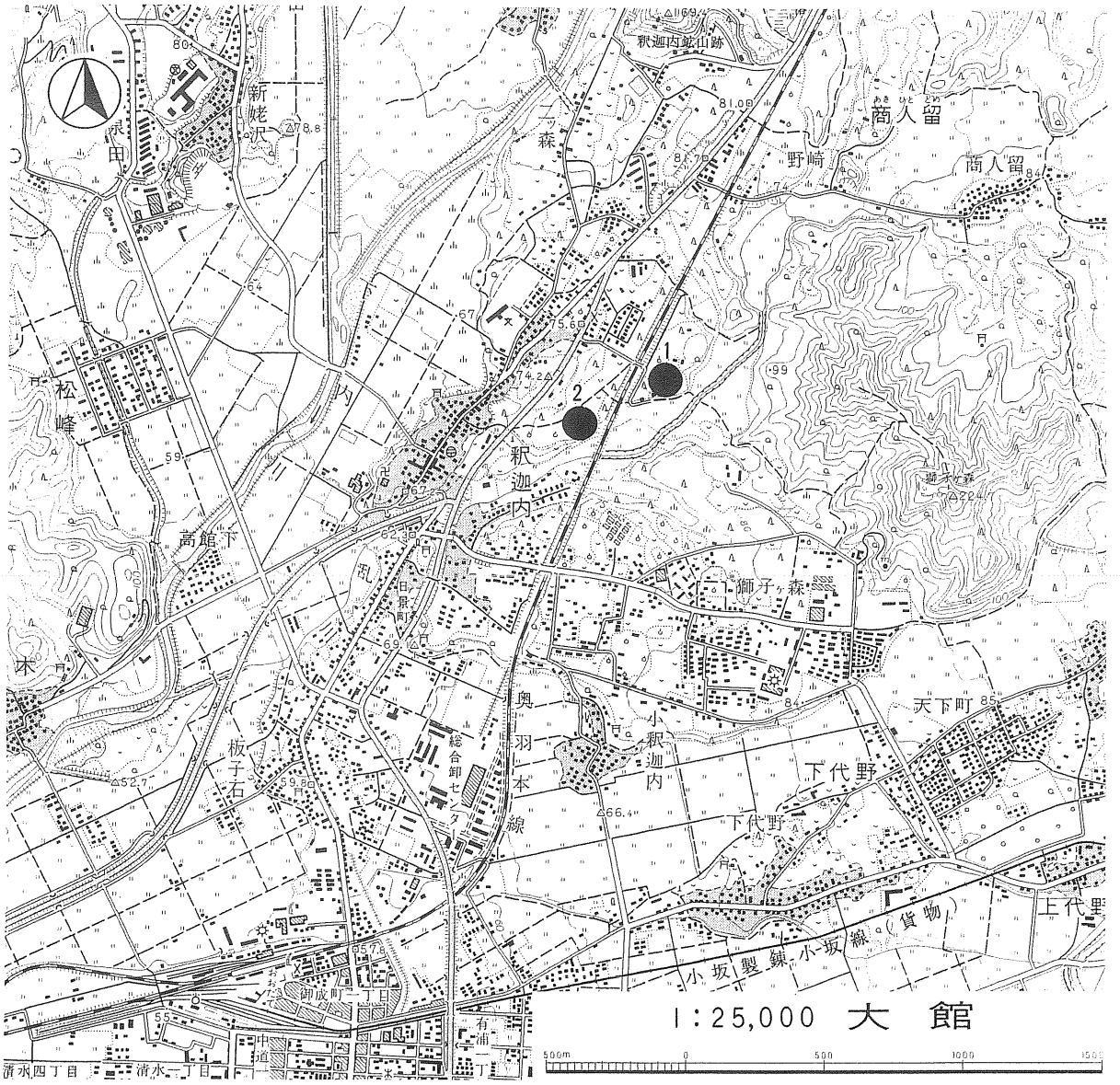
第8図　琴丘能代道路建設事業　能代東二ツ井間遺跡分布調査位置図

（４）大館西道路建設事業

大館市の大館西道路建設事業予定地6.2㎞のうち、現在暫定供用されている南側4.6㎞を除いた大館北ＩＣ予定地へ至る1.6㎞について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２箇所を事業予定地に確認した。釈迦内中台Ⅰ遺跡、釈迦内中台Ⅱ遺跡については今後範囲確認調査が必要である。なお、大館北ＩＣ予定地については今後試掘を予定している。

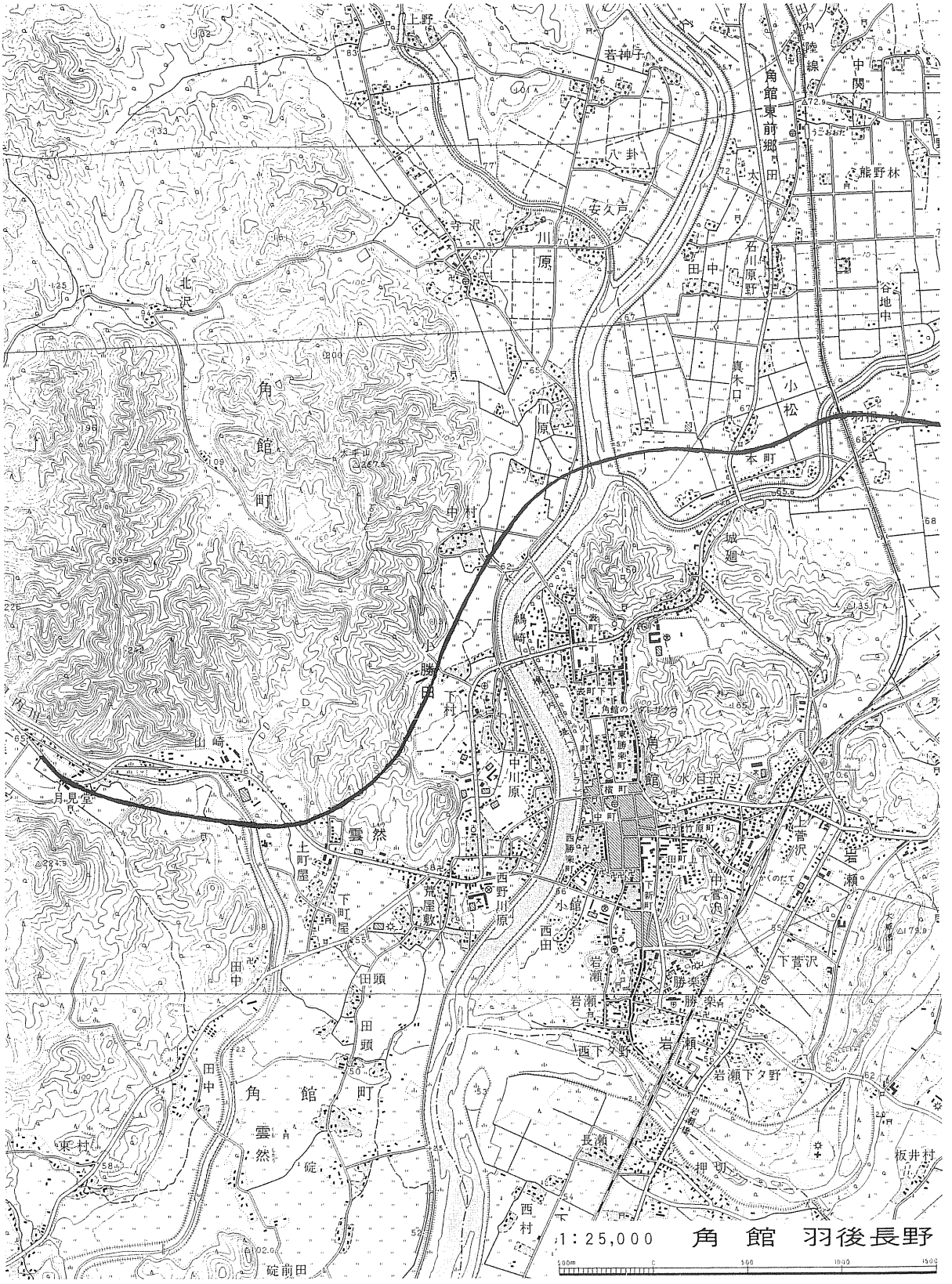
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	釈迦内中台Ⅰ遺跡	大館市釈迦内字中台	古代	山林・原野	竪穴住居跡・土師器片	周知の遺跡
2	釈迦内中台Ⅱ遺跡	大館市釈迦内字中台	縄文	畑地・原野	縄文土器片	周知の遺跡



第９図　大館西道路建設事業遺跡分布調査位置図

（５）角館バイパス建設工事

田沢湖町羽根ヶ台を起点に角館町月見堂を終点とする6.1kmの事業予定地全線の踏査を行い、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。



第10図　角館バイパス建設工事遺跡分布調査位置図

（６）湯沢横手道路建設事業　湯沢雄勝間

湯沢市の湯沢ＩＣから雄勝町の雄勝ＩＣまでの工事延長13.2kmのうち、湯沢市関口から湯沢市上関までの約3.9kmについて踏査及び試掘を行った。

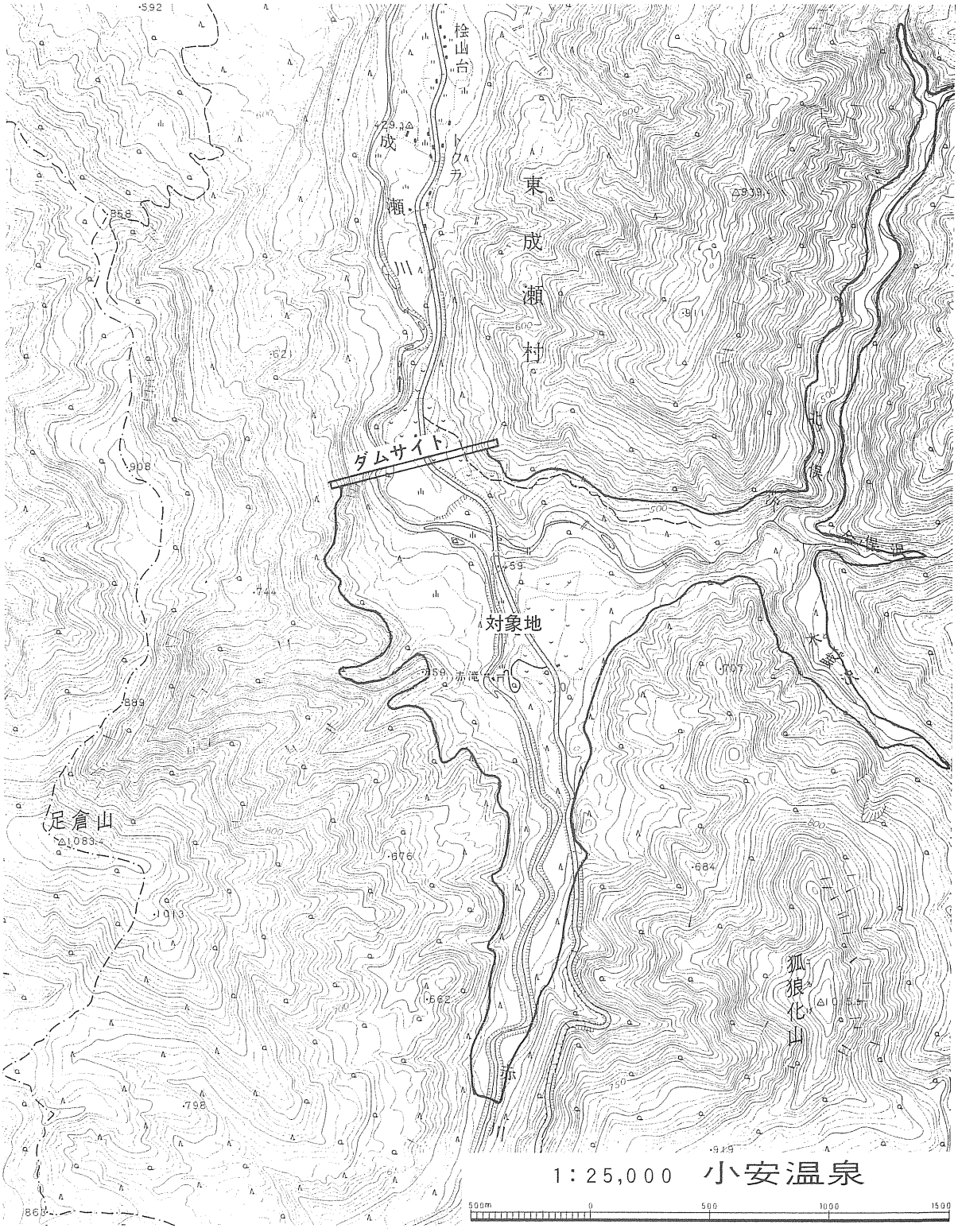
調査の結果、新発見の遺跡１箇所を事業予定地を確認した。堀量遺跡については平成12年度内に範囲確認調査を行った。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	堀量遺跡	湯沢市関口字堀量	縄文	荒蕪地	竪穴住居跡・縄文土器片	新発見の遺跡

第11図　湯沢横手道路建設事業　湯沢雄勝間遺跡分布調査位置図

（７）成瀬ダム建設事業

成瀬川上流部の東成瀬村椿側地先にダムサイトを建設し、常時満水位の計画標高519.5m、湛水面積2.35㎢の多目的ダムを建設する事業である。成瀬川とその上流の赤川の左右両岸の平坦地全域について踏査を行い、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については、今後試掘する予定である。



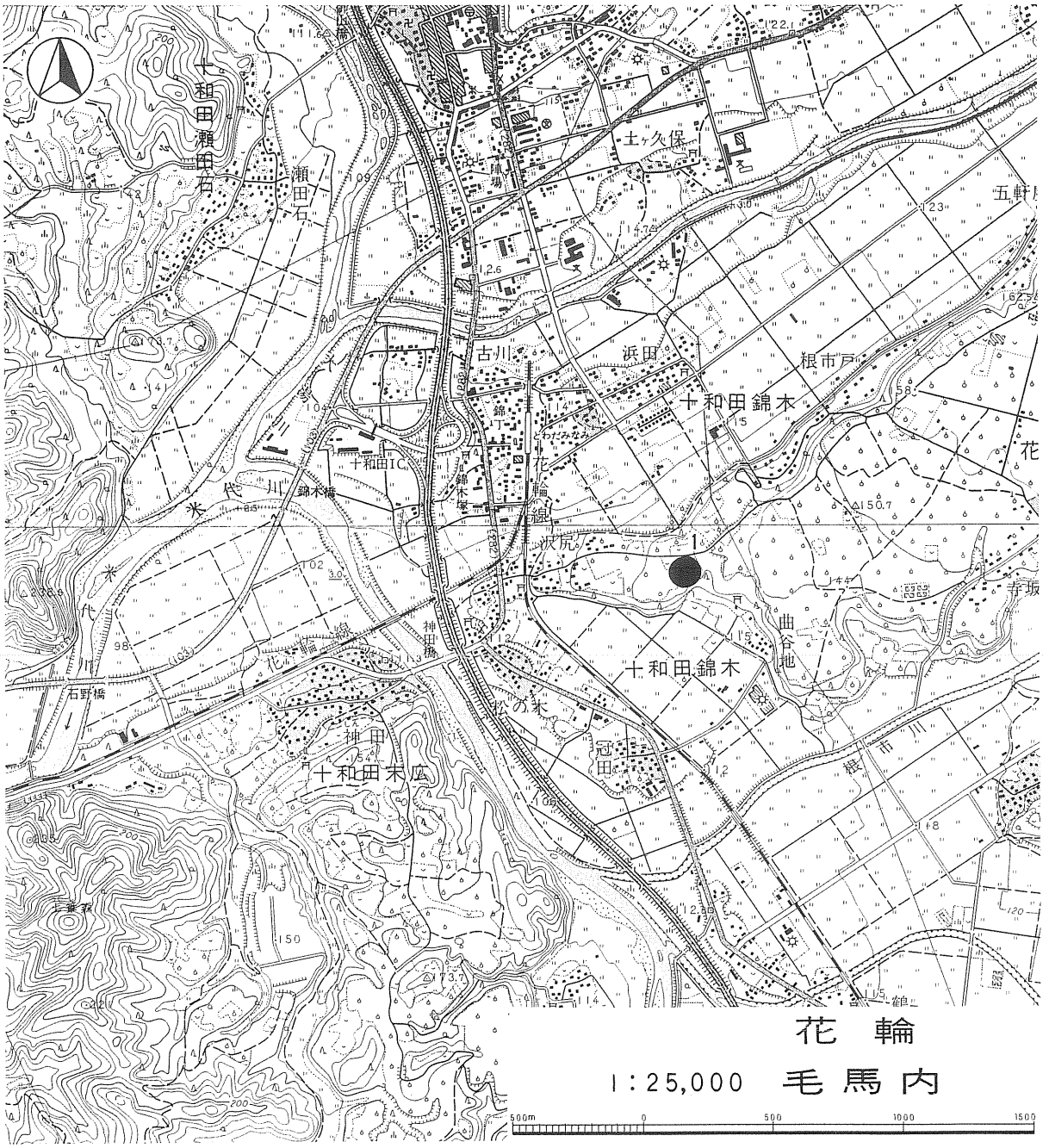
第12図　成瀬ダム建設事業遺跡分布調査位置図

（８）国道282号国道道路改築事業（錦木バイパス）

鹿角市の国道282号国道道路改築事業のバイパス道路予定地3.8㎞内について、踏査及び試掘した。

調査の結果、事業予定地に隣接する周知の遺跡１箇所について、周知されている範囲より事業予定地内へ拡がる事を確認した。物見坂Ⅲ遺跡については、平成12年度内に範囲確認調査が行われた。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	物見坂Ⅲ遺跡	鹿角市十和田錦木字下野	古代	畑地・原野	竪穴住居跡・土師器片	周知の遺跡



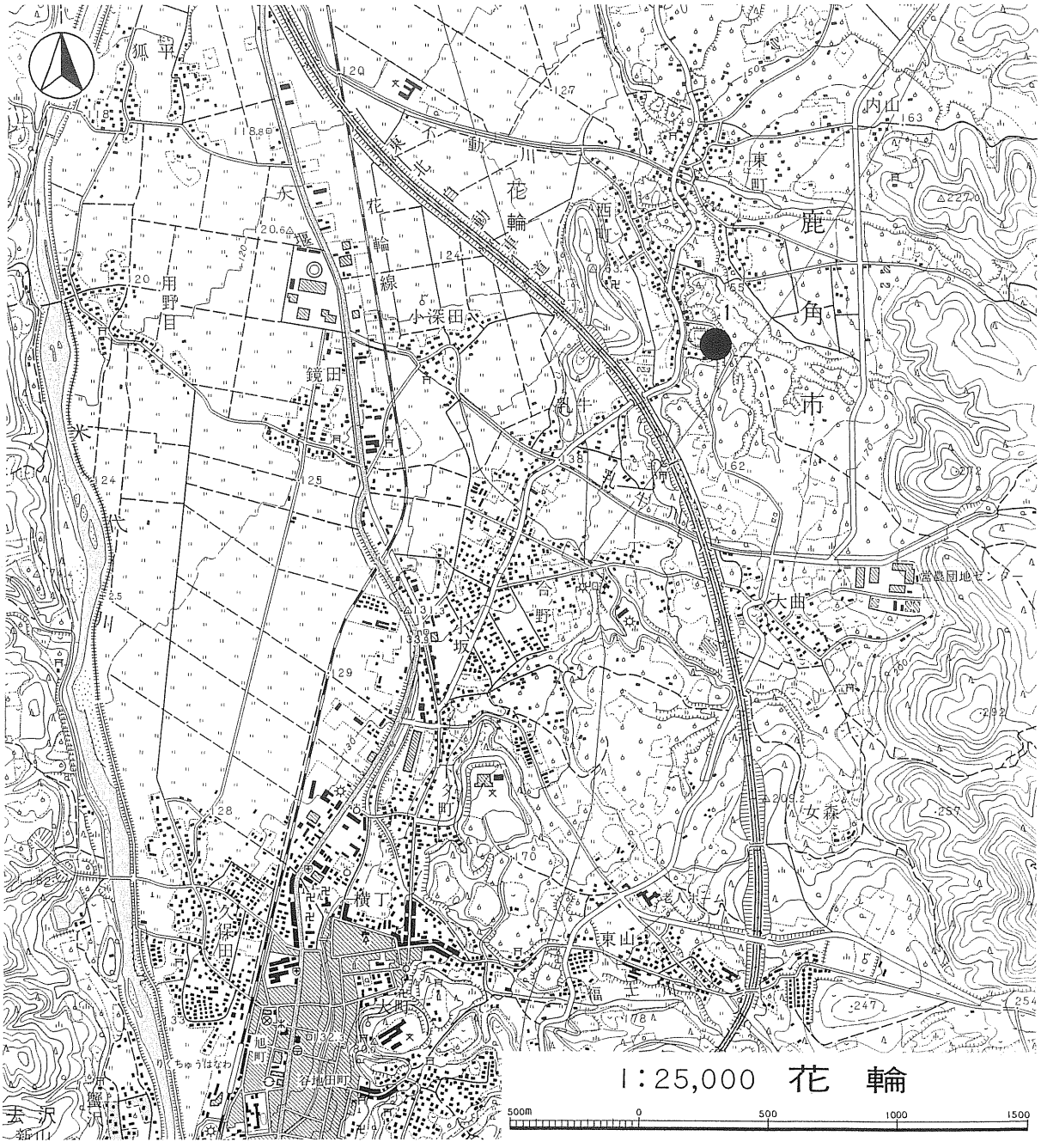
第13図　国道282号国道道路改築事業（錦木バイパス）遺跡分布調査位置図

（９）主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業（西町バイパス）

鹿角市の主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業予定地1.3km内について、踏査及び試掘した。

調査の結果、事業予定地に隣接する周知の遺跡１箇所について、周知されている範囲より事業予定地内へ拡がる事を確認した。柴内館跡については、平成12年度内に範囲確認調査を行い、遺跡の一部の発掘調査を行った。

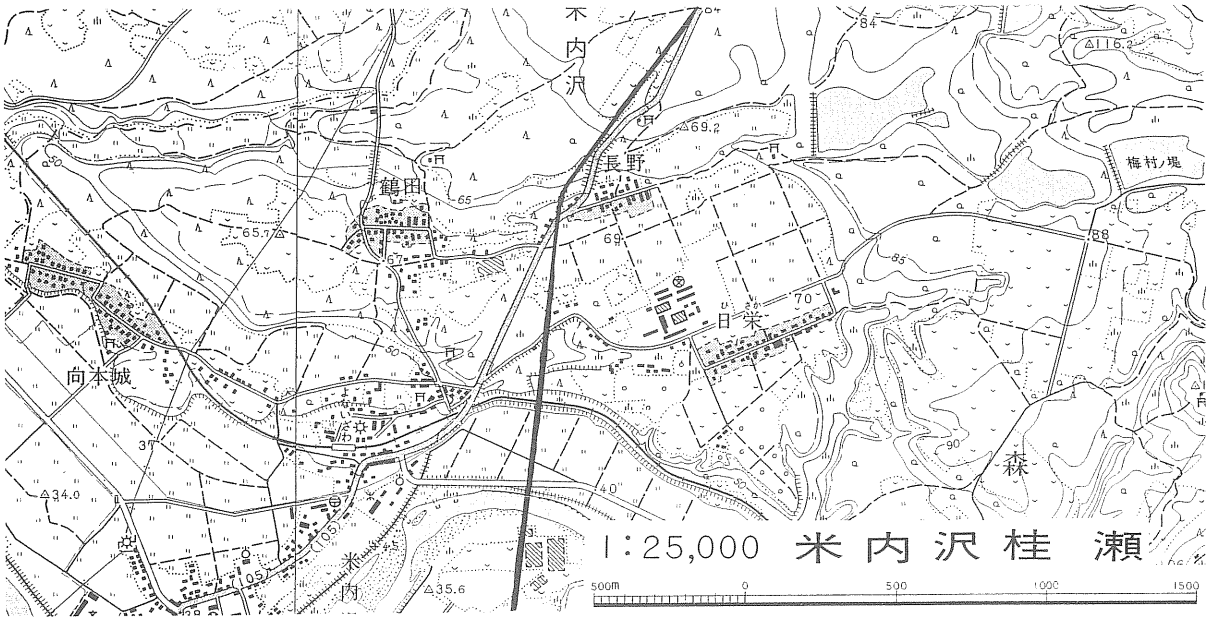
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	柴内館跡	鹿角市花輪字乳牛平	中世	畑地・山林	帯郭・溝跡・柱穴跡	周知の遺跡



第14図　主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業（西町バイパス）遺跡分布調査位置図

(10) 国道105号国道道路改築工事

森吉町内の事業予定地3.55㎞のうち森吉町長野地区の踏査を行い、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。

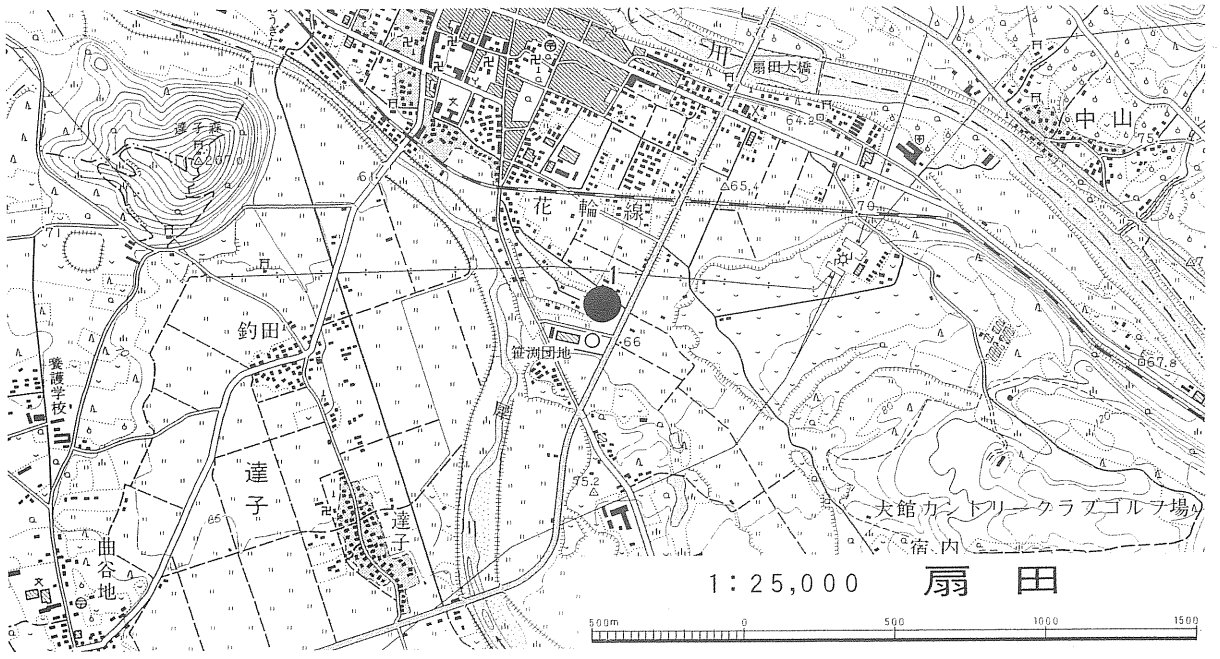


第15図　国道105号国道道路改築工事遺跡分布調査位置図

(11) 特定交通安全施設等整備工事

比内町長岡で計画されている、将来「道の駅」となる予定の特定交通安全施設の建設予定地内の踏査を行い、周知の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。長岡城跡は、工事による影響がきわめて小さいことから工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	長岡城跡	比内町扇田字長岡	中世	山林	曲輪跡	周知の遺跡



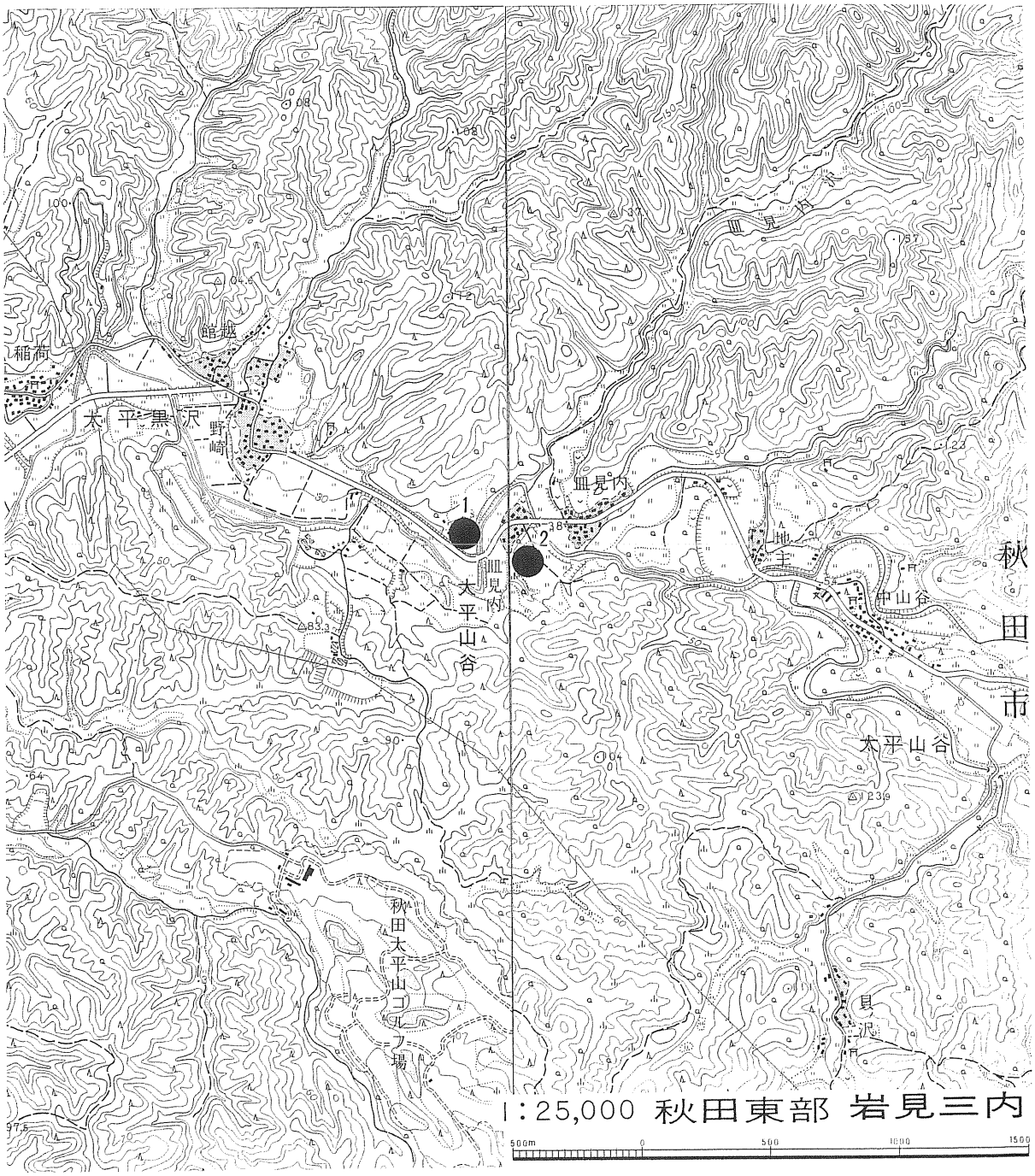
第16図　特定交通安全施設等整備工事遺跡分布調査位置図

(12) 主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業

秋田市太平山谷字一ノ関を起点に、秋田市太平山谷字中山谷を終点とする工事延長1.7㎞の事業予定地の踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２箇所を事業予定地に確認したほか、試掘必要箇所の選定を行った。一ノ関遺跡については、平成12年度に範囲確認調査が行われた。上皿見内遺跡については、今後範囲確認調査が必要である。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	一ノ関遺跡	秋田市太平山谷字一ノ関	縄文	畑地	石器	周知の遺跡
2	上皿見内遺跡	秋田市太平山谷字下皿見内	・・・	山林・畑地	焼土遺構	周知の遺跡

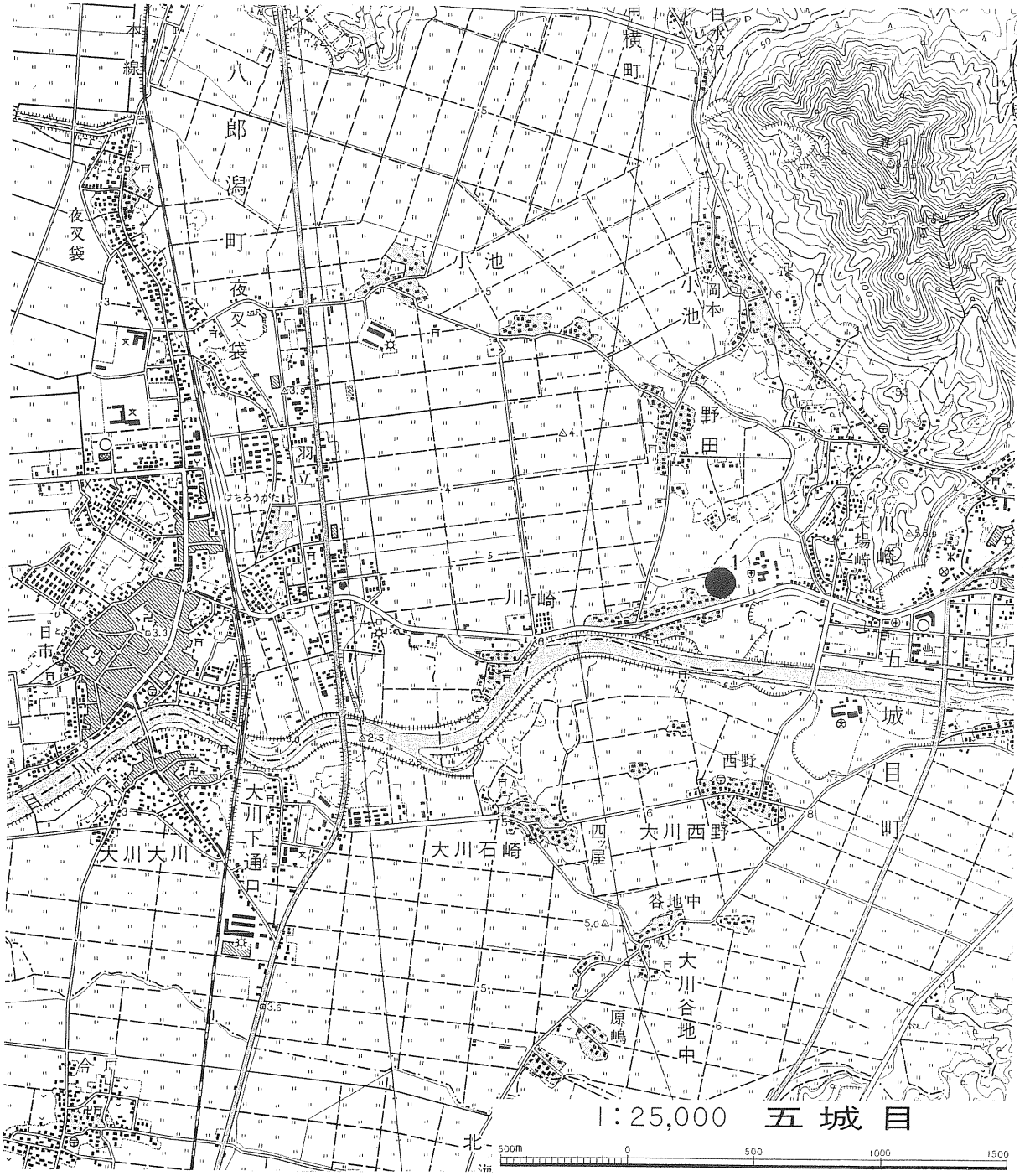


第17図　主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業遺跡分布調査位置図

（13）主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業

日本海沿岸東北自動車道五城目ＩＣと国道７号及び国道285号を結ぶことを目的とし、八郎潟町夜叉袋を起点に、八郎潟町川崎を終点とする工事延長2.11㎞の県道整備事業である。事業予定地の東側部分0.48㎞の踏査を行い、新発見の遺跡１箇所を確認したほか、試掘必要箇所の選定を行った。開防遺跡については、平成12年度に範囲確認調査が行われた。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	開防遺跡	五城目町小池字開防	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡

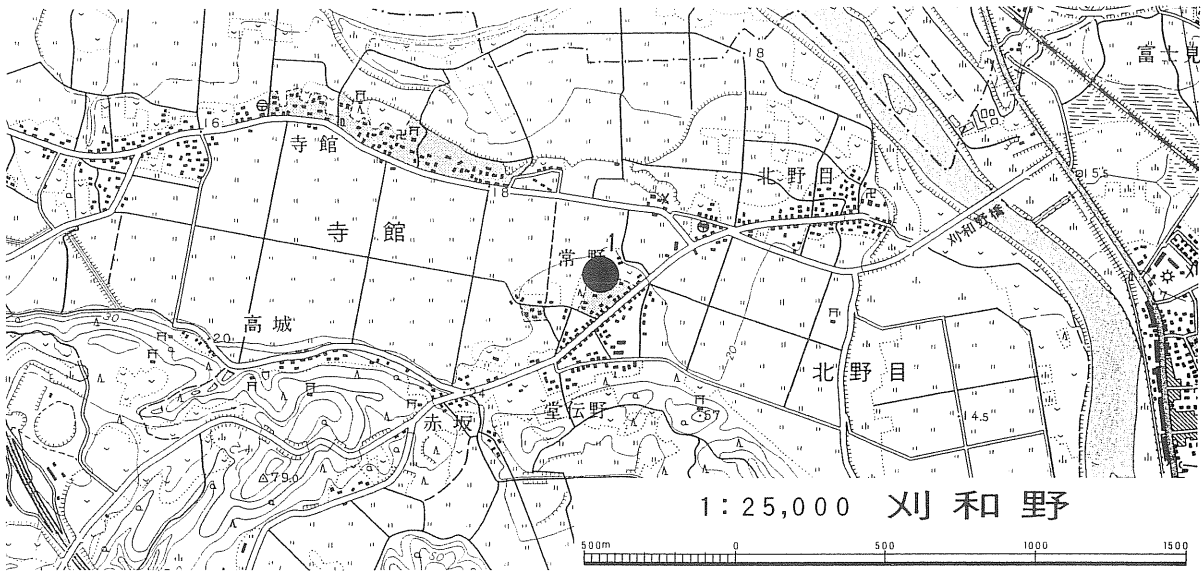


第18図　主要地方道秋田八郎潟線高速関連道路整備事業遺跡分布調査位置図

（14）主要地方道本荘西仙北角館線地方道道路改築事業

西仙北町野田を起点に、西仙北町四ッ谷を終点とする工事延長1.55kmの事業予定地の踏査を行い、周知の遺跡１箇所を確認したほか、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	常野遺跡	西仙北町寺館字常野	縄文	畑地	石器・縄文土器片	周知の遺跡

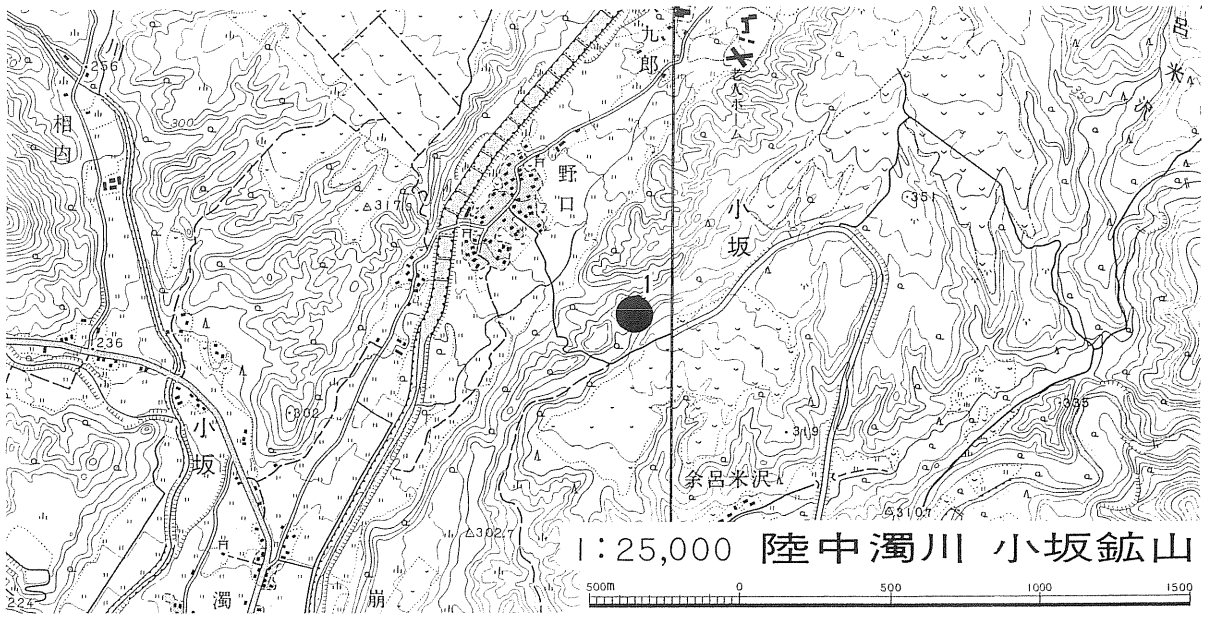


第19図　主要地方道本荘西仙北角館線地方道道路改築事業遺跡分布調査位置図

（15）砂子沢ダム建設事業

砂子沢ダム建設事業の工事残土置場の予定地を踏査し、周知の遺跡１箇所を確認したほか、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	台作館跡	小坂町野口字台作	中世	山林	曲輪跡	周知の遺跡



第20図　砂子沢ダム建設事業遺跡分布調査位置図

（16）秋田中央道路建設事業

秋田市旭北錦町を起点に、秋田市手形字西谷地を終点とする工事延長2.41㎞の事業予定地のうち、開削工事となる千秋公園の堀部分について、踏査及びボーリング調査結果の確認を行った。

試掘調査の方法等については今後協議する必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	近世	公園	堀、曲輪跡	周知の遺跡

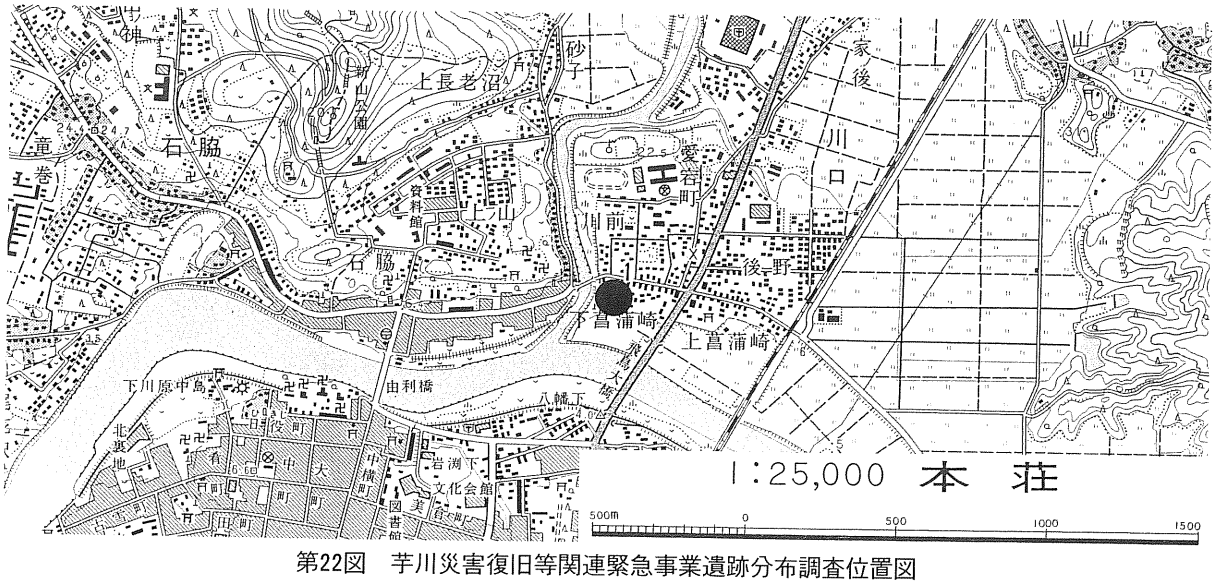
第21図　秋田中央道路建設事業、県立脳血管研究センターガンマナイフ治療室増築工事遺跡分布調査位置図

（17）芋川災害復旧等関連緊急事業

本荘市川口の芋川と子吉川の合流点から芋川橋までの左岸の事業予定地の一部について試掘を行った。

調査の結果、菖蒲崎貝塚の一部が北側に広がり、事業予定地に及ぶことを確認した。この遺跡については、今後さらに試掘が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	菖蒲崎貝塚	本荘市川口字菖蒲崎	中世	畑地	掘立柱建物跡、珠洲系陶器片	周知の遺跡



第22図　芋川災害復旧等関連緊急事業遺跡分布調査位置図

（18）県立脳血管研究センターガンマナイフ治療室増築工事（位置図は第21図）

増築予定地の踏査を行い、周知の遺跡１箇所を確認した。増築予定地について、現在の建物の設計図書及び施工管理書類を照合した結果、現在の建物の建設によって既に遺跡が消滅している区域に含まれる可能性が高いことから、工事施工の対応については工事立会とした。

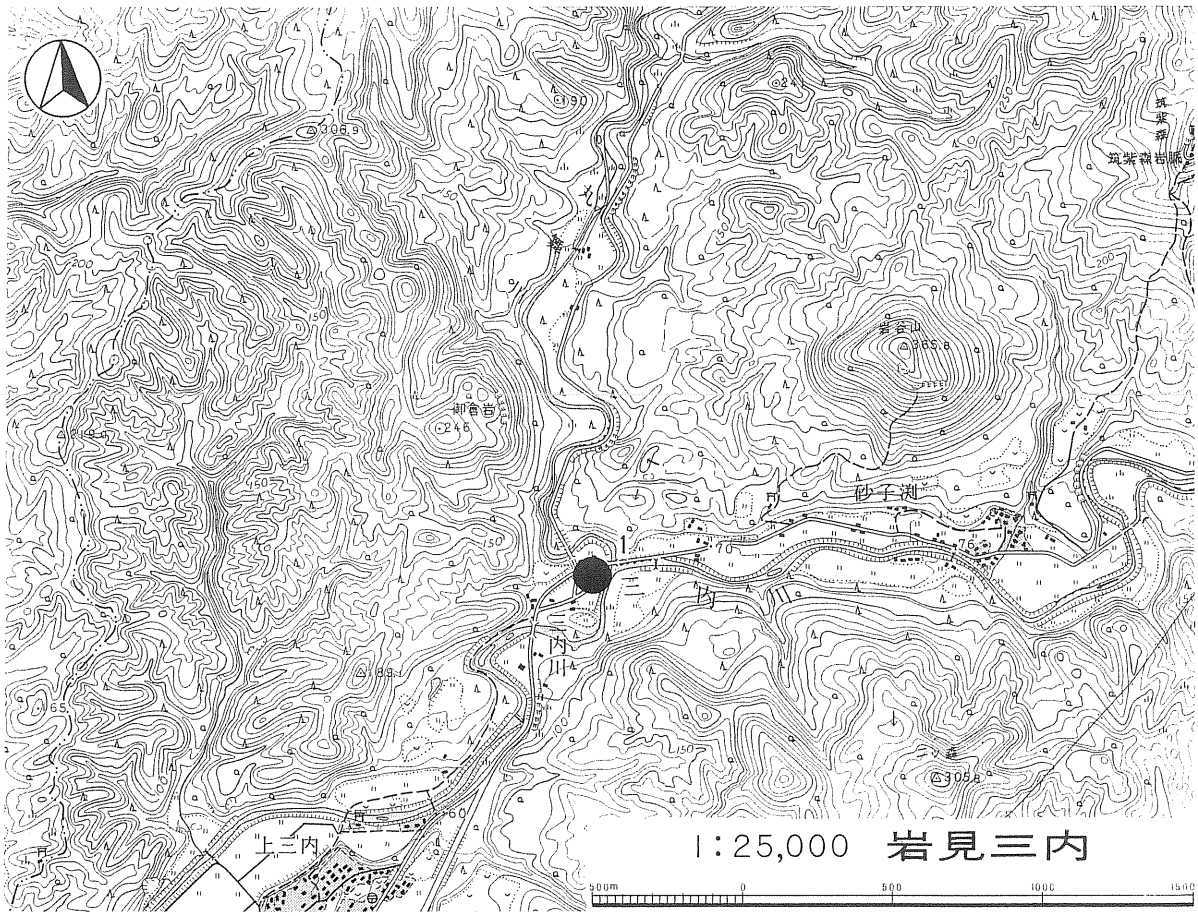
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
2	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	近世	公園	堀、曲輪跡	周知の遺跡

（19）県健康増進交流センター（ユフォーレ）温泉井掘削事業

河辺町の県健康増進交流センター温泉井掘削工事（ボーリング）予定地について、温泉井戸及びポンプ施設を伴う制御施設の建設が予定されていることから、予定地の踏査及び試掘した。

調査の結果、予定地において遺構・遺物とも発見されず、また立地が三内川と丸舞川合流地点に形成された河原跡であることがわかり、工事施工の対応は終了した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	河辺町三内字丸舞口	・・・・	水田	なし	



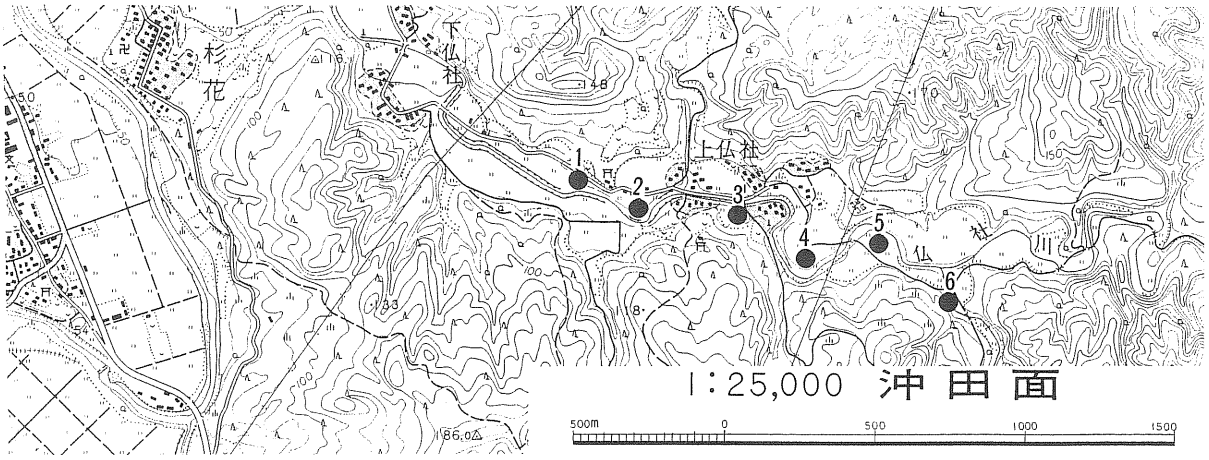
第23図　県健康増進交流センター（ユフォーレ）温泉井掘削事業遺跡分布調査位置図

（20）県営土地改良総合整備事業　上仏社地区

上小阿仁村上仏社地区で実施されている土地改良事業で、計画面積26ha、平成15年度まで６箇年計画の事業である。このうち平成12年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	上小阿仁村仏社字日影	・・	水田	なし	
2	・・・・	上小阿仁村仏社字田ノ沢	・・	水田	なし	
3	・・・・	上小阿仁村仏社字脇ノ田	・・	水田	なし	
4	・・・・	上小阿仁村仏社字小沢口	・・	水田	なし	
5	・・・・	上小阿仁村仏社字梨木台	・・	水田	なし	
6	・・・・	上小阿仁村仏社字下合地	・・	水田	なし	



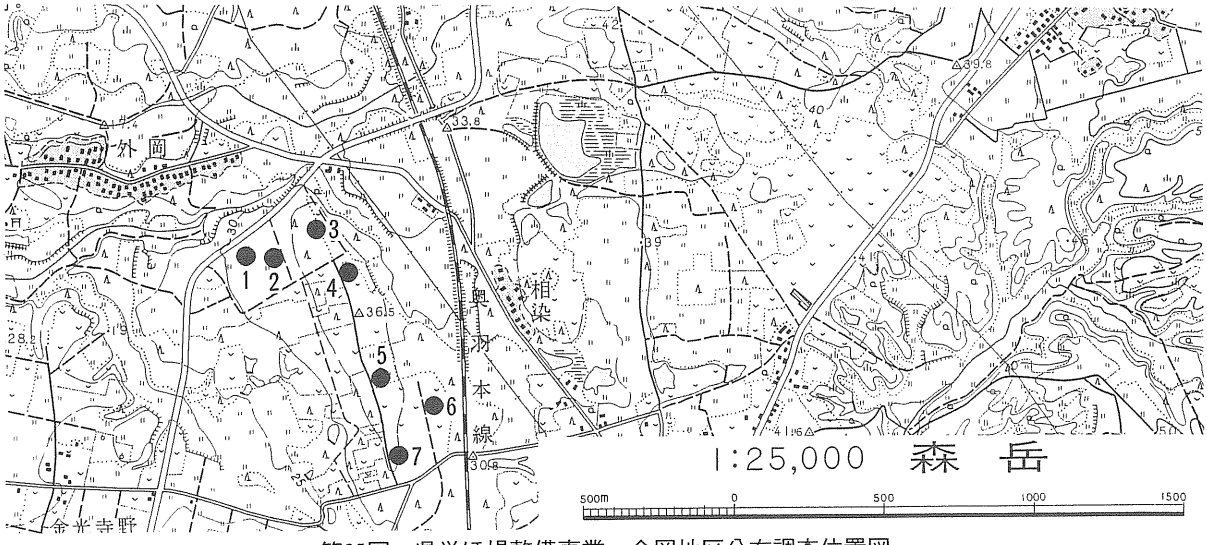
第24図　県営土地改良総合整備事業　上仏社地区分布調査位置図

（21）県営ほ場整備事業　金岡地区

山本町金岡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積490ha、平成16年度まで８箇年計画の事業である。このうち、平成12～13年度事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２箇所を事業予定地に確認した。長峰台遺跡では、旧耕地整理の盛土下に縄文土器片を確認。この遺跡の取り扱いについては原因者と協議中である。また、乗越遺跡では、旧耕地整理の盛土に混入する形で土師器細片を確認したのみで、ほかに遺構、遺物とも検出できなかったことから、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	山本町外岡字長峰台	・・	水田	なし	
2	・・・・	山本町外岡字長峰台	・・	水田	・・	
3	長峰台遺跡	山本町外岡字乗越	縄文	杉林	縄文土器片	周知の遺跡
4	・・・・	山本町外岡字乗越	・・	水田	・・	
5	乗越遺跡	山本町外岡字乗越	古代	水田	土師器片	周知の遺跡
6	・・・・	山本町外岡字乗越	・・	畑地	なし	
7	・・・・	山本町外岡字乗越	・・	畑地	なし	



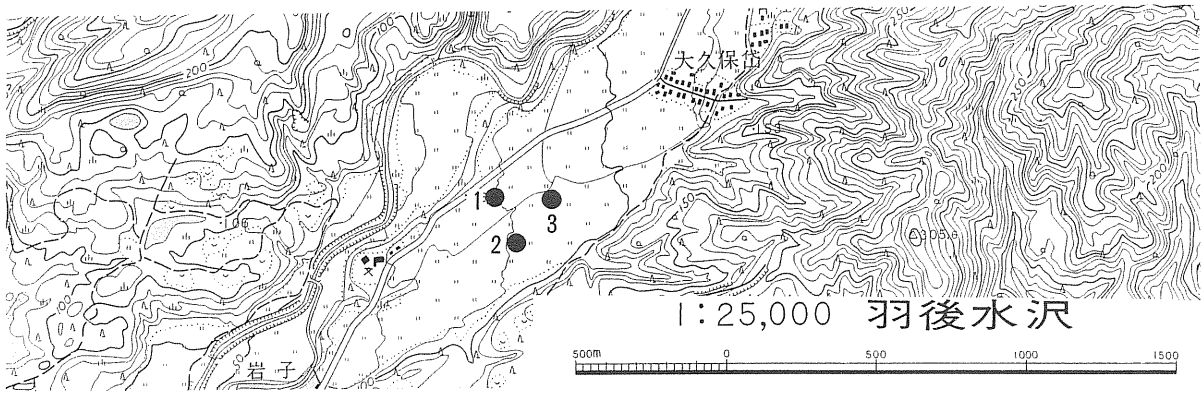
第25図　県営ほ場整備事業　金岡地区分布調査位置図

（22）県営ほ場整備事業　大久保岱地区

峰浜村大久保岱地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積61ha、平成14年度まで６箇年計画の事業である。このうち平成12年度事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。棚ノ木沢遺跡では、縄文土器片の出土により遺物包含層を確認。ただし、遺物包含層が施工計画より深い位置にあることから、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	棚ノ木沢遺跡	峰浜村目名潟字栩木台	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
2	・・・・	峰浜村目名潟字栩木台	・・	水田	なし	
3	・・・・	峰浜村目名潟字栩木台	・・	水田	なし	



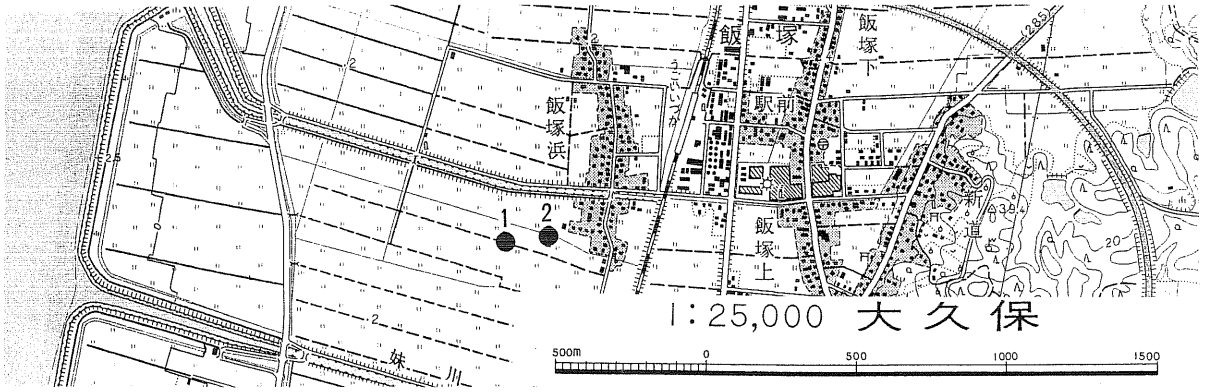
第26図　県営ほ場整備事業　大久保岱地区分布調査位置図

（23）県営ほ場整備事業　飯塚地区

飯田川町飯塚地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積114ha、平成15年度まで６箇年計画の事業である。このうち平成13年度事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡１箇所を事業予定地に確認したが、観音寺遺跡の試掘では遺構、遺物とも確認できなかった。このため、工事施工の対応については工事立会とした。なお、地元の情報では、今後の事業予定地に遺跡が確認される可能性があり、今後事業予定地についてあらためて調査する必要がある。

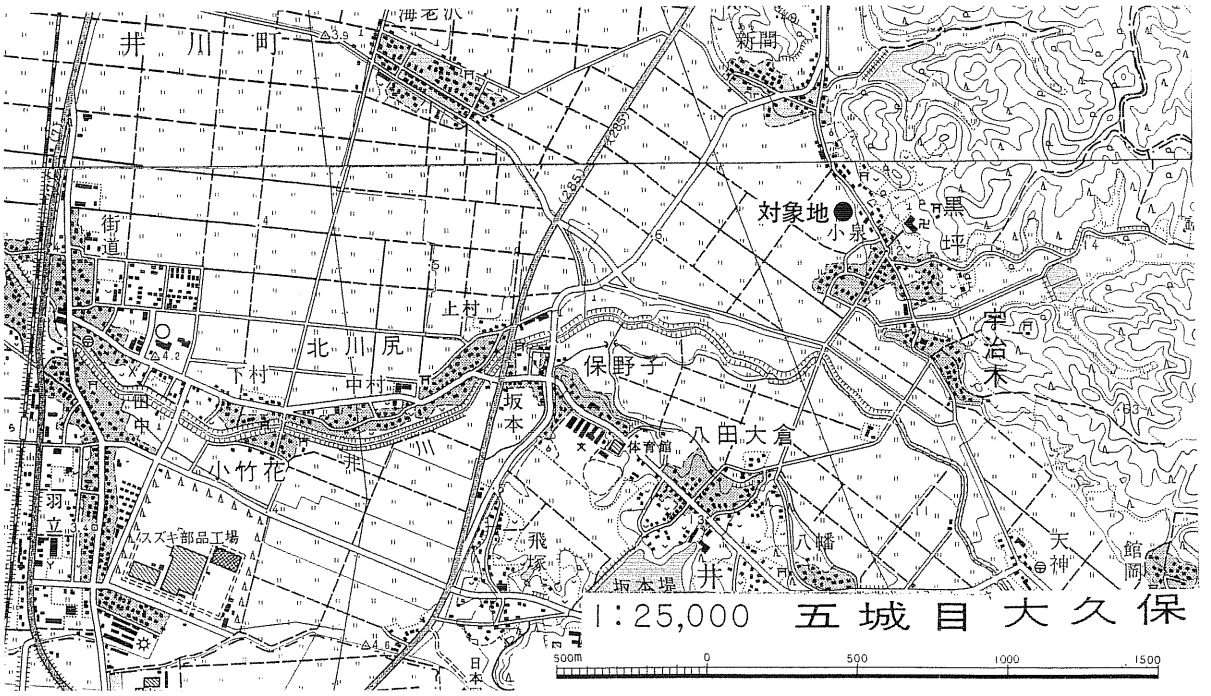
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	観音寺遺跡	飯田川町飯塚字観音尻	・・	水田	なし	周知の遺跡
2	・・・・	飯田川町飯塚字観音尻	・・	水田	なし	



第27図　県営ほ場整備事業　飯塚地区分布調査位置図

（24）県営ほ場整備事業　井川東部地区

井川町井川東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積122ha、平成16年度まで７箇年計画の事業である。当面の事業予定地について踏査により試掘地点の選定を行った。試掘地点については、今後試掘する予定である。



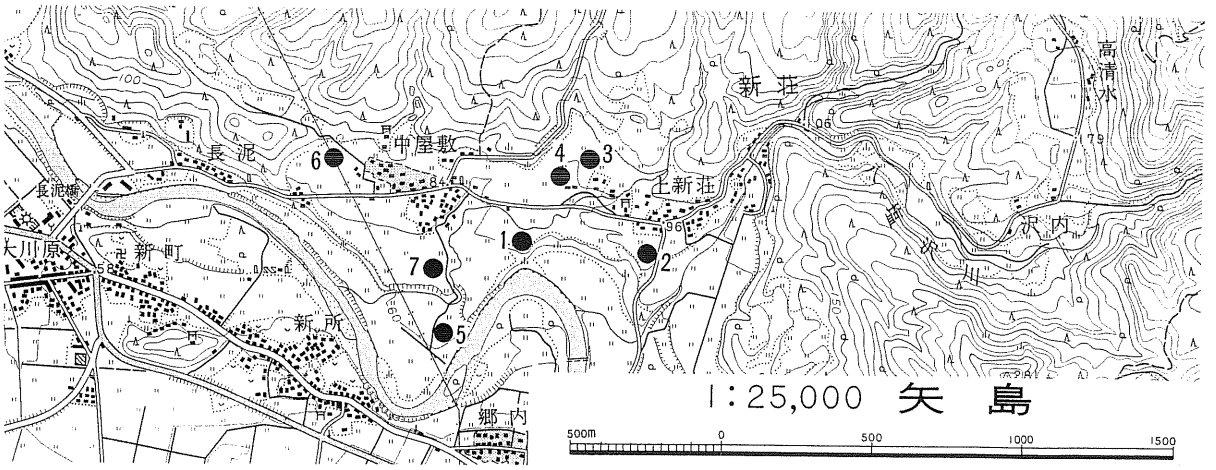
第28図　県営ほ場整備事業　井川東部地区分布調査位置図

（25）県営ほ場整備事業　新荘地区

矢島町新荘地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積42ha、平成15年度まで６箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。下沖田遺跡は、中世陶器片が表採されたことで新たに確認されたものだが、試掘による遺構、遺物の確認はできなかった。このため、工事施工の対応については工事立会とした。なお、地元情報で中世陶器片が確認された新発見の遺跡（上川原遺跡）を合わせて掲載する。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	下沖田遺跡	矢島町新荘字下沖田	中世	水田・畑地	中世陶器片	新発見の遺跡
2	・・・・	矢島町新荘字沖田	・・	水田・休耕田	なし	
3	・・・・	矢島町新荘字中岩ノ沢	・・	水田	なし	
4	・・・・	矢島町新荘字下岩ノ沢	・・	水田	なし	
5	上川原遺跡	矢島町新荘字上川原	中世	水田	中世陶器片	新発見の遺跡



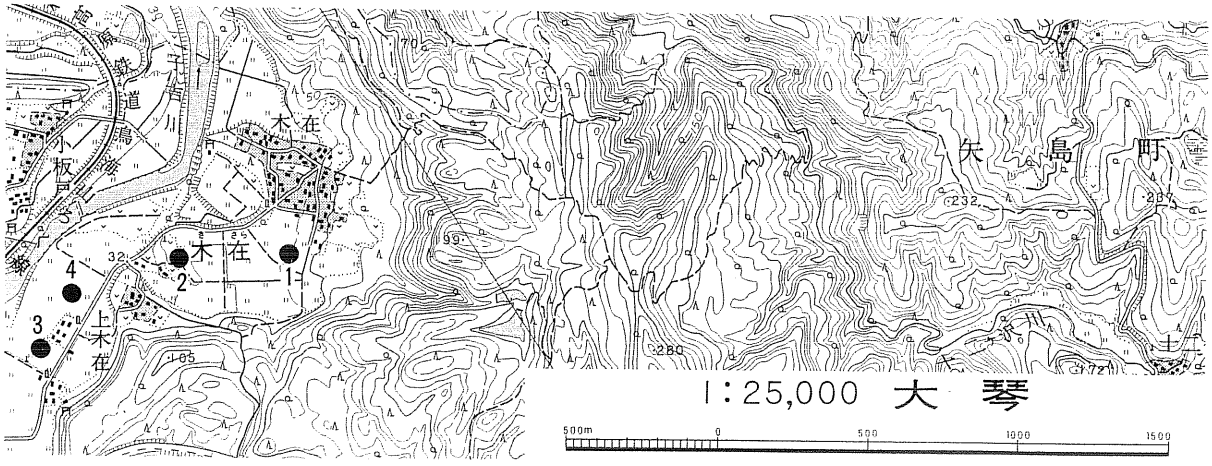
第29図　県営ほ場整備事業　新荘地区分布調査位置図

(26) 県営ほ場整備事業　木在地区

矢島町木在地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積41ha、平成15年度まで5箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。山ノ田遺跡は、石器の散布で新たに確認されたものだが、試掘による遺構、遺物包含層の確認はできなかった。このため、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	矢島町木在字漆保	・・	休耕田	なし	
2	山ノ田遺跡	矢島町木在字山ノ田	縄文	水田・畑地	石器	新発見の遺跡
3	・・・・	矢島町木在字上木在	・・	水田	なし	
4	・・・・	矢島町木在字中村	・・	水田	なし	



第30図　県営ほ場整備事業　木在地区分布調査位置図

（27）県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区

矢島町針ヶ岡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積26ha、平成15年度まで５箇年計画の事業である。事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

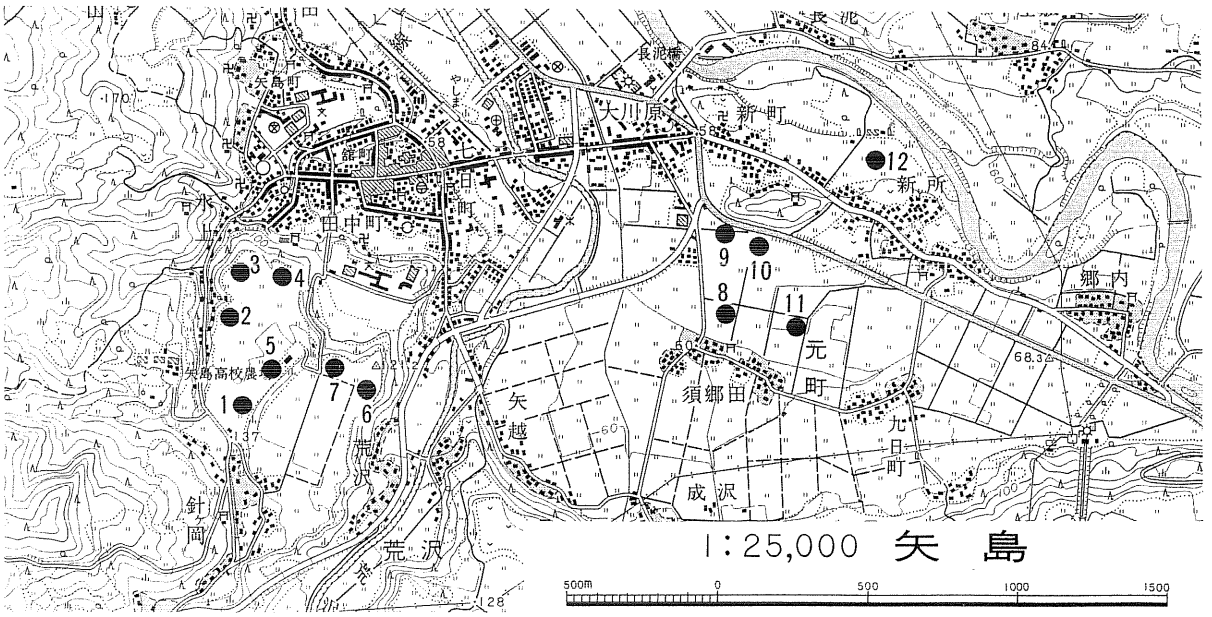
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	矢島町城内字上野	・・	水田	なし	
2	・・・・	矢島町城内字上野	・・	水田	なし	
3	・・・・	矢島町城内字上野	・・	水田	なし	
4	・・・・	矢島町城内字上野	・・	水田	なし	
5	・・・・	矢島町城内字上野	・・	水田	なし	

（28）県営ほ場整備事業　矢島地区

矢島町矢島地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積89ha、平成16年度まで５箇年計画の事業である。平成12年度事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２箇所を事業予定地に確認した。相庭館Ⅰ遺跡では、畑で中世陶器片を表採したが、試掘による遺構・遺物の確認はできなかった。また、根井館Ⅰ遺跡では、遺構、遺物とも確認できなかった。試掘したいずれの地点でも、旧耕地整理による造成の痕跡が顕著に認められており、周知の遺跡にかかる当面の工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
8	相庭館Ⅰ遺跡	矢島町元町字相庭館	中世	水田・畑地	中世陶器片	周知の遺跡
9	根井館Ⅰ遺跡	矢島町元町字谷地	・・	水田	なし	周知の遺跡
10	・・・・	矢島町元町字新所	・・	水田	なし	
11	・・・・	矢島町元町字清水渕	・・	水田	なし	
12	・・・・	矢島町元町字沼ノ袋	・・	水田	なし	

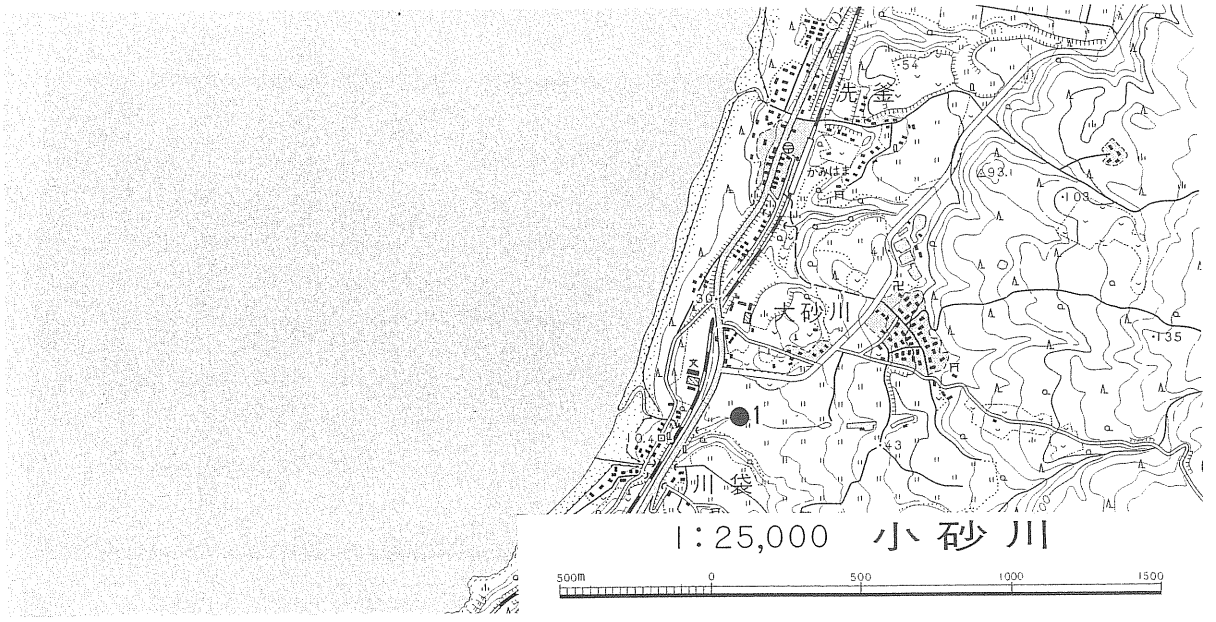


第31図　県営ほ場整備事業　針ヶ岡地区・矢島地区分布調査位置図

（29）県営ほ場整備事業　大砂川地区

象潟町大砂川地区で実施されているほ場整備事業で、対象面積30ha、平成14年度まで５箇年計画の事業である。これまでの試掘・確認調査で、事業予定地に確認されたヲフキ遺跡については、設計変更と一部発掘調査の実施で事業対応を進めている。計画変更により盛土施工とした部分の内、これまで未調査だった部分について、内容を確認するため試掘した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	ヲフキ遺跡	象潟町大砂川字ヲフキ	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡



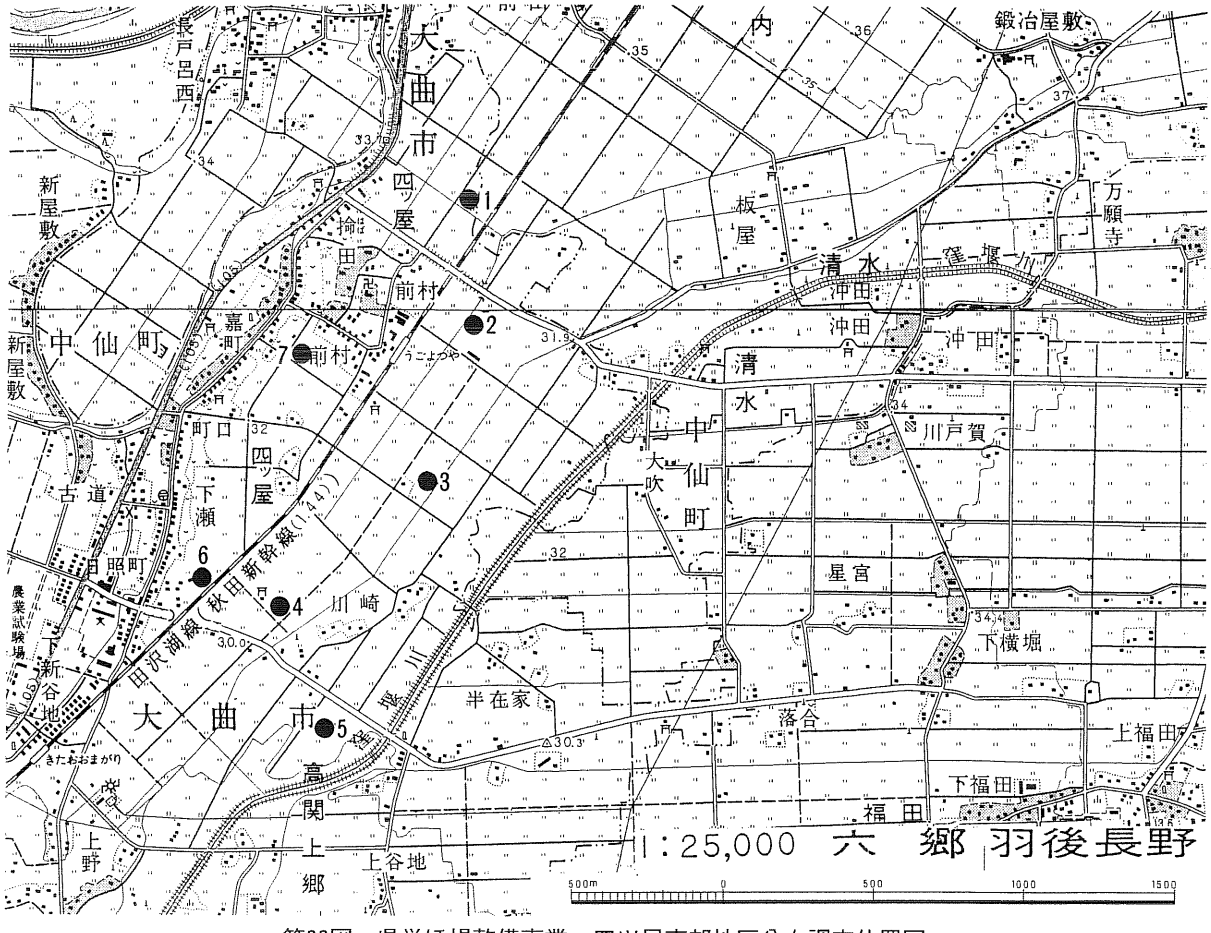
第32図　県営ほ場整備事業　大砂川地区分布調査位置図

（30）県営ほ場整備事業　四ツ屋東部地区

大曲市から中仙町にかけての四ツ屋東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積248ha、平成16年度まで７箇年計画の事業である。当面の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡４箇所を事業予定地内に、また新発見の遺跡１箇所を事業予定地隣接地に確認した。中嶋遺跡は、土師器片の出土により確認されたものだが、試掘による遺物包含層及び遺構を確認できなかったことから、工事施工の対応について工事立会とした。いずれも土師器片の出土により新たに確認された上嘉町遺跡、下嘉町遺跡、鳥屋場遺跡の取り扱いについては、施工方法を含めて原因者と協議中である。また、事業予定地に隣接する休耕田で、土師器片・須恵器片の散布により新たに切上遺跡を発見した。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	中嶋遺跡	大曲市四ツ屋字中嶋	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡
2	切上遺跡	大曲市四ツ屋字切上	古代	休耕田	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡
3	上嘉町遺跡	大曲市四ツ屋字上嘉町	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡
4	下嘉町遺跡	大曲市四ツ屋字下嘉町	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡
5	鳥屋場遺跡	大曲市四ツ屋字鳥屋場	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡
6	・・・・	大曲市四ツ屋櫛ノ木	・・	水田	なし	
7	・・・・	大曲市四ツ屋下前村	・・	水田	なし	



第33図　県営ほ場整備事業　四ツ屋東部地区分布調査位置図

（31）県営ほ場整備事業　日暮地区

協和町日暮地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積41ha、平成14年度まで５箇年計画の事業である。当面の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、試掘による遺構、遺物の確認はできなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	協和町上淀川字日暮	・・	水田	なし	
2	・・・・	協和町上淀川字日暮	・・	水田	なし	
3	・・・・	協和町上淀川字野山口	・・	水田	なし	
4	・・・・	協和町上淀川字野山口	・・	水田	なし	

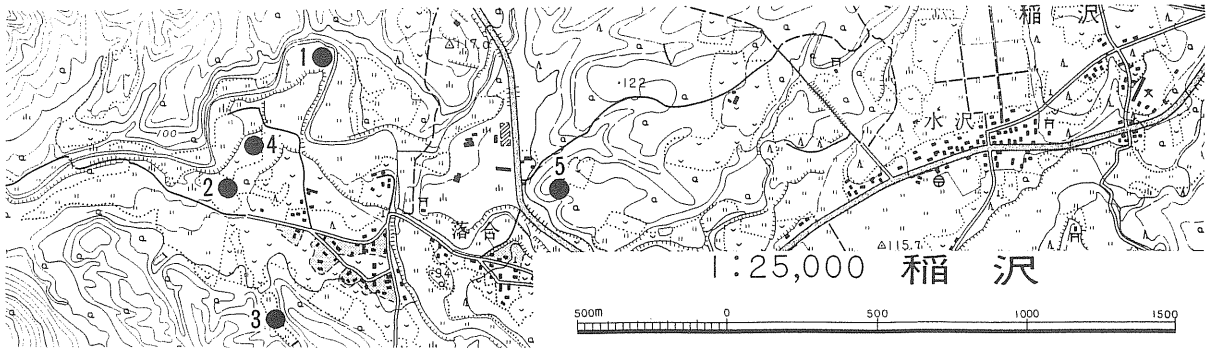
第34図　県営ほ場整備事業　日暮地区分布調査位置図

（32）県営土地改良総合整備事業　落合地区

協和町落合地区で実施されている土地改良事業で、計画面積39ha、平成15年度まで６箇年計画の事業である。当面の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、試掘による遺構、遺物の確認はできなかった。なお、事業予定地周辺の踏査により新発見の遺跡２箇所を確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	協和町稲沢字長者森	・・	水田	なし	
2	・・・・	協和町稲沢字長者森	・・	水田	なし	
3	・・・・	協和町稲沢字見付田	・・	水田	なし	
4	長者森Ⅱ遺跡	協和町稲沢字長者森	縄文	畑地	縄文土器片	新発見の遺跡
5	台林遺跡	協和町稲沢字台林	縄文	畑地	縄文土器片	新発見の遺跡



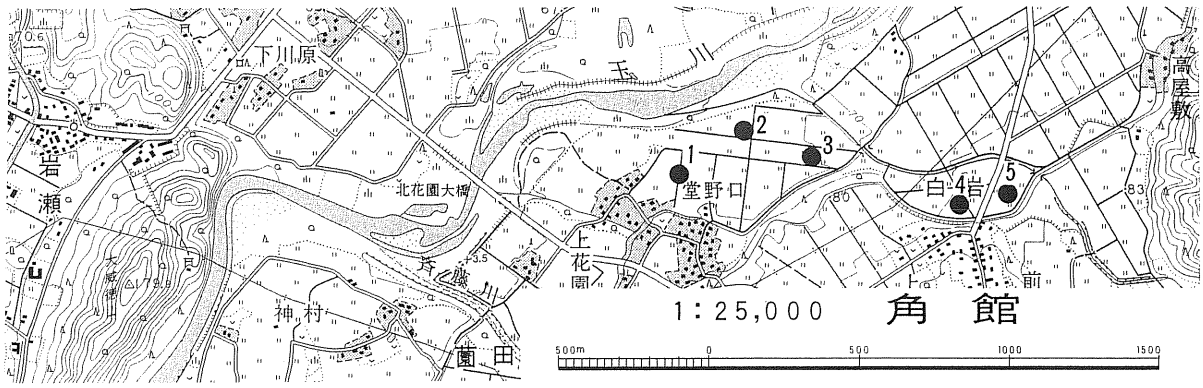
第35図　県営土地改良総合整備事業　落合地区分布調査位置図

（33）県営ほ場整備事業　白岩第一地区

角館町白岩第一地区で採択されたほ場整備事業で、計画面積103ha、平成16年度まで５箇年計画の事業である。当面の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、試掘による遺構、遺物の確認はできなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	角館町白岩字新堂野口	・・	水田	なし	
2	・・・・	角館町白岩字新堂野口	・・	水田	なし	
3	・・・・	角館町白岩字新堂野口	・・	水田	なし	
4	・・・・	角館町白岩字新下掵	・・	水田	なし	
5	・・・・	角館町白岩字新下掵	・・	水田	なし	



第36図　県営ほ場整備事業　白岩第一地区分布調査位置図

（34）県営ほ場整備事業　長楽寺地区

中仙町長楽寺地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積48ha、平成14年度まで５箇年計画の事業である。事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。熊野堂遺跡は、土師器片の出土により新たに確認されたものだが、ほかの出土遺物、遺構ともなく、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	熊野堂遺跡	中仙町豊川字熊野堂	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡
2	・・・・	中仙町豊川字後田	・・	水田	なし	
3	・・・・	中仙町豊川字野田	・・	水田	なし	

（35）県営ほ場整備事業　花園地区

角館町から中仙町にかかる花園地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積119ha、平成15年度まで６箇年計画の事業である。事業予定地について踏査し、試掘地点の選定を行った。

踏査により、周知の遺跡１箇所を事業予定地内に、また周知の遺跡１箇所を事業予定地隣接地に確認した。試掘地点については今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
4	遠藤野城跡	中仙町鶯野上遠藤	中世	水田	・・・・	周知の遺跡
5	田川遺跡	中仙町豊川字田川	・・	水田	・・・・	周知の遺跡

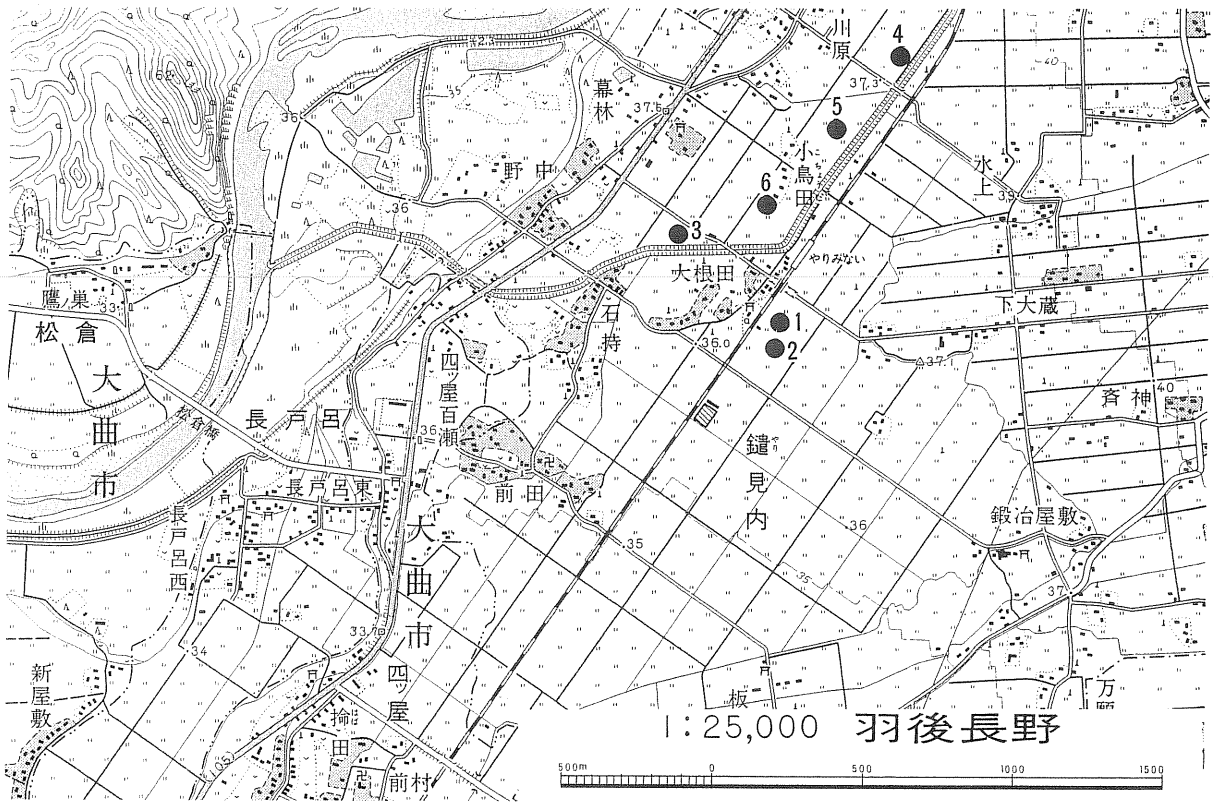
第37図　県営ほ場整備事業　長楽寺地区・花園地区・八幡地区分布調査位置図

（36）県営ほ場整備事業　中仙南部地区

中仙町中仙南部地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積481ha、平成17年度まで７箇年計画の事業である。このうち、平成13年度事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡３箇所、新発見の遺跡３箇所を事業予定地に確認した。大根田遺跡、下谷地遺跡では、ともに遺構、遺物による遺跡の確認はできなかったものの、柱穴状のプランを検出した地点もあり、工事施工の対応について工事立会とした。また、鑓見内城跡でも、遺構、遺物を確認できず、周辺において過去に砂利採取が行われていた経緯を踏まえ、工事施工の対応について慎重工事とした。いずれも土師器片の出土により新たに確認された下道満遺跡、小鳥田Ⅰ遺跡、小鳥田Ⅱ遺跡の取り扱いについては、施工方法を含めて原因者と協議中である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大根田遺跡	中仙町鑓見内字大根田	・・	水田	なし	周知の遺跡
2	下谷地遺跡	中仙町鑓見内字下谷地	・・	水田	なし	周知の遺跡
3	鑓見内城跡	中仙町鑓見内字暮林	・・	水田	なし	周知の遺跡
4	下道満遺跡	中仙町鑓見内字下道満	・・	水田	土師器片	新発見の遺跡
5	小鳥田Ⅰ遺跡	中仙町鑓見内字小鳥田	・・	水田	土師器片	新発見の遺跡
6	小鳥田Ⅱ遺跡	中仙町鑓見内字小鳥田	・・	水田	土師器片	新発見の遺跡



第38図　県営ほ場整備事業　中仙南部地区分布調査位置図

（37）県営ほ場整備事業　八幡地区（位置図は第37図）

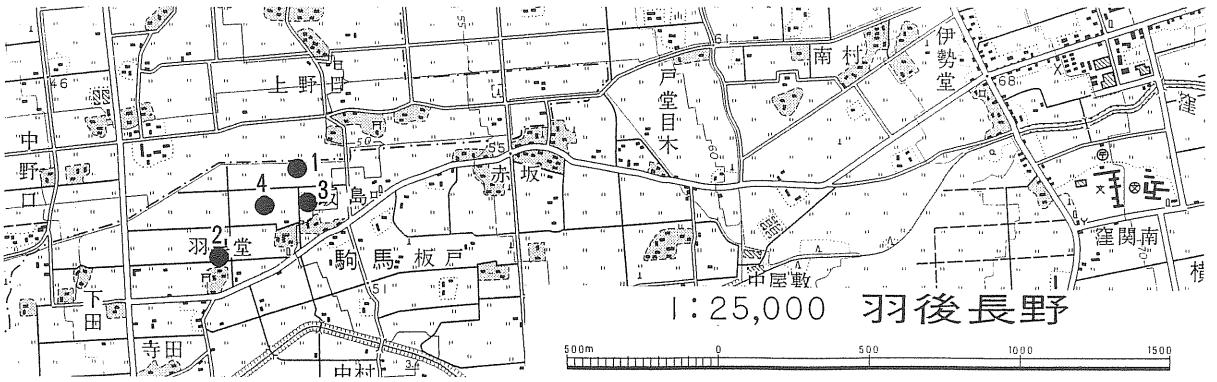
中仙町八幡地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積48ha、平成16年度まで５箇年計画の事業である。事業予定地について踏査し、試掘地点の選定を行った。試掘地点については今後試掘する予定である。

（38）県営ほ場整備事業　駒場北地区

太田町駒場北地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積73ha、平成14年度まで６箇年計画の事業である。当面の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２箇所、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。飯嶋遺跡では、縄文時代中期の土器片の出土により遺跡を確認したが、遺物包含層が施工計画より深い位置にあることから、工事施工の対応について工事立会とした。羽黒堂遺跡では、遺構、遺物の確認ができず、当面の工事施工の対応について工事立会とした。また須恵器片、土師器片の出土により新たに確認された飯嶋Ⅱ遺跡については、遺物包含層の確認はできたものの遺物は希薄であり、遺構も確認できなかったこと、さらに施工計画が遺物包含層に及ばないことから、工事施工の対応について工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	飯嶋遺跡	太田町駒場字飯嶋	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
2	羽黒堂遺跡	太田町駒場字下田	・・	水田	なし	周知の遺跡
3	飯嶋Ⅱ遺跡	太田町駒場字飯嶋	・・・	水田	須恵器片・土師器片	新発見の遺跡
4	・・・・	太田町駒場字飯嶋	・・・	水田	なし	



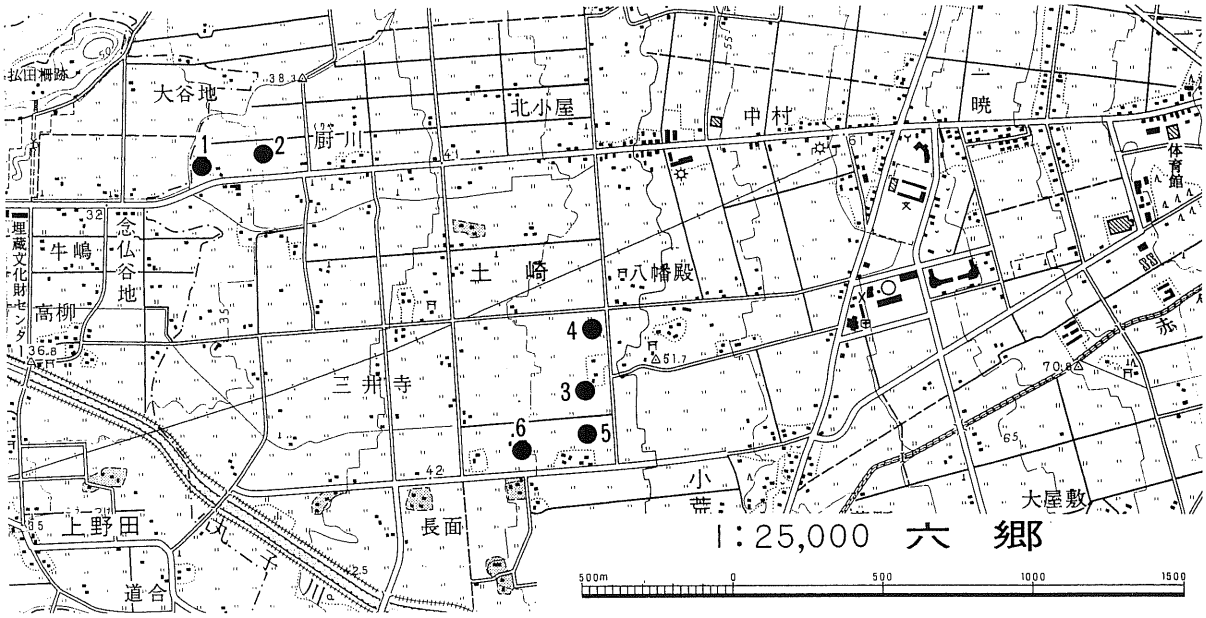
第39図　県営ほ場整備事業　駒場北地区分布調査位置図

（39）県営ほ場整備事業　土崎・小荒川地区

千畑町土崎小荒川地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積329ha、平成16年度まで７箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡３箇所、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。厨川谷地遺跡については、事業対応の緊急性から確認調査を実施した。この確認調査に合わせて新たに厨川谷地Ⅱ遺跡が確認された（第２節参照）。また中屋敷Ⅰ遺跡、中屋敷Ⅱ遺跡の試掘では、前者で石器が出土し、後者では縄文土器片の出土及び竪穴住居跡の検出により遺跡を確認した。いずれの遺跡も取り扱いについては原因者と協議中である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	厨川谷地遺跡	千畑町土崎字厨川谷地	古代	水田	土師器片	周知の遺跡
2	厨川谷地Ⅱ遺跡	千畑町土崎字厨川谷地	古代	水田	土坑	新発見の遺跡
3	中屋敷Ⅰ遺跡	千畑町土崎字中屋敷	縄文	水田	石器	周知の遺跡
4	中屋敷Ⅱ遺跡	千畑町土崎字中屋敷	縄文	水田	縄文土器片・竪穴住居跡	周知の遺跡
5	・・・・	千畑町土崎字野田	・・	水田	なし	
6	・・・・	千畑町土崎字谷地中	・・	水田	なし	



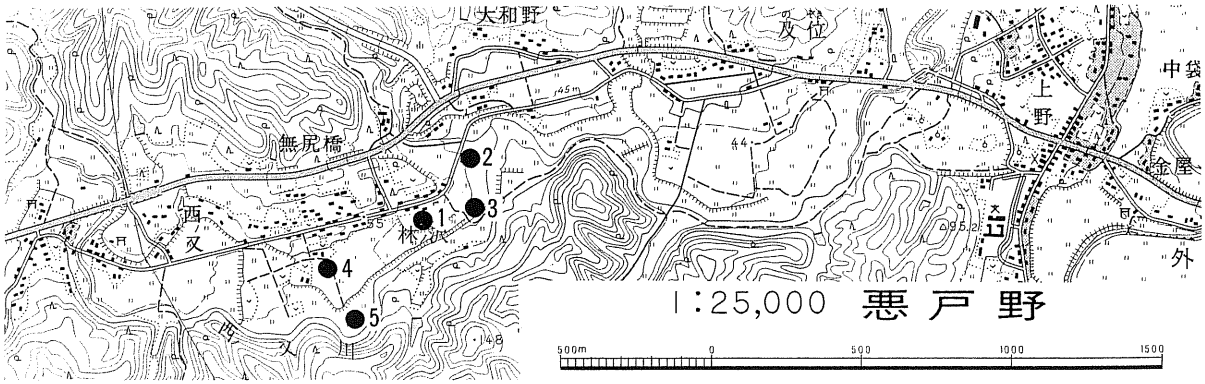
第40図　県営ほ場整備事業　土崎・小荒川地区分布調査位置図

（40）県営土地改良総合整備事業　西ノ又地区

南外村西ノ又地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積は22ha、平成16年度まで６箇年計画の事業である。事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡１箇所、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認した。林ノ沢遺跡は事業予定地に隣接する宅地内で石器等の遺物の散布が顕著であるものの、試掘した水田においては遺物包含層を確認できず、旧耕地整理時の削平が著しいこと、また検出した柱穴が１基のみであることから工事施工の対応については工事立会とした。縄文土器片の出土により新たに確認された林ノ沢Ⅱ遺跡については、試掘した状況から旧耕地整理による造成が顕著であること、遺物包含層と考えられる土層を確認したが出土遺物が希薄なこと、遺構を検出できなかったことから、工事施工の対応について工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	林ノ沢遺跡	南外村字林ノ沢	縄文	水田・休耕田	縄文土器片・柱穴	周知の遺跡
2	林ノ沢Ⅱ遺跡	南外村字林ノ沢	縄文	水田	縄文土器片	新発見の遺跡
3	・・・・	南外村字向大小手	・・	水田	なし	
4	・・・・	南外村字無尻橋	・・	水田	なし	
5	・・・・	南外村字無尻橋	・・	水田	なし	



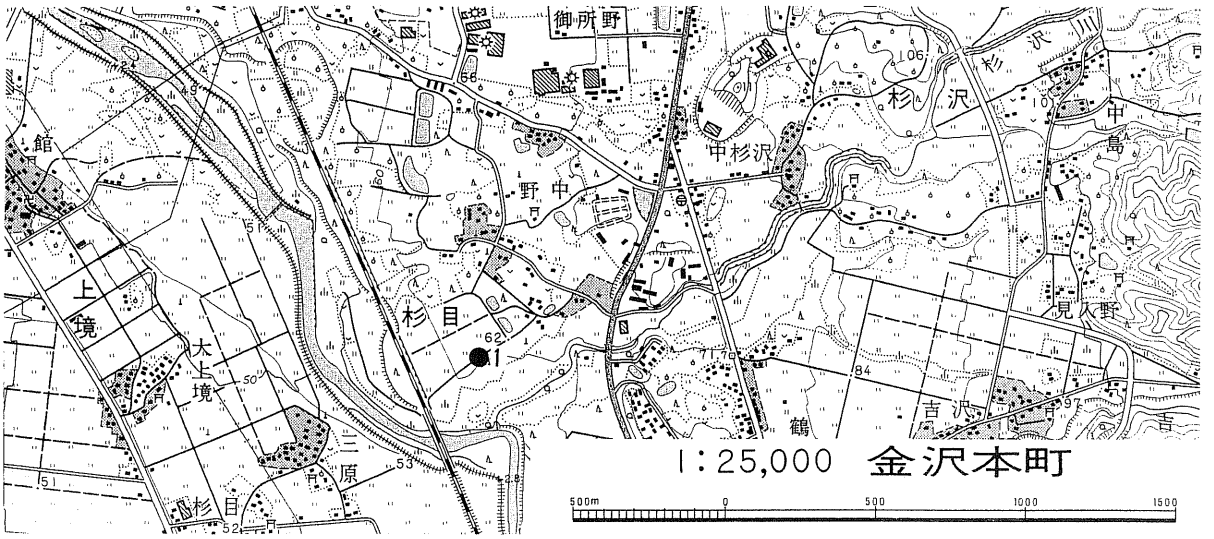
第41図　県営土地改良総合整備事業　西ノ又地区分布調査位置図

（41）県営ほ場整備事業　杉沢地区

横手市杉沢地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積192ha、平成18年度まで８箇年計画の事業である。当面の事業予定地について、踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡１箇所が事業予定地にかかることを確認した。前通遺跡では、土師器片、竪穴住居跡などを検出し、遺跡の広がりを確認した。この遺跡については、原因者との協議を経て、平成12年度に発掘調査を実施した。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	前通遺跡	横手市杉目字前通	古代	水田	土師器片・竪穴住居跡	周知の遺跡



第42図　県営ほ場整備事業　杉沢地区分布調査位置図

（42）県営ほ場整備事業　福地地区（位置図は第43図）

雄物川町福地地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積は375ha、平成18年度まで10箇年計画の事業である。当面の事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２箇所を事業予定地に確認した。上西野遺跡では、遺構、遺物とも確認できず、工事施工の対応について工事立会とした。常野遺跡では、土師器片・石器が表採され、試掘により縄文時代の竪穴住居跡を検出した。この遺跡の取り扱いについては、原因者と協議中である。また、事業予定地に隣接して悪戸城跡が周知されているが、周辺の試掘では、遺構、遺物とも確認できず、悪戸城跡は事業予定地まで広がらないものと判断した。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

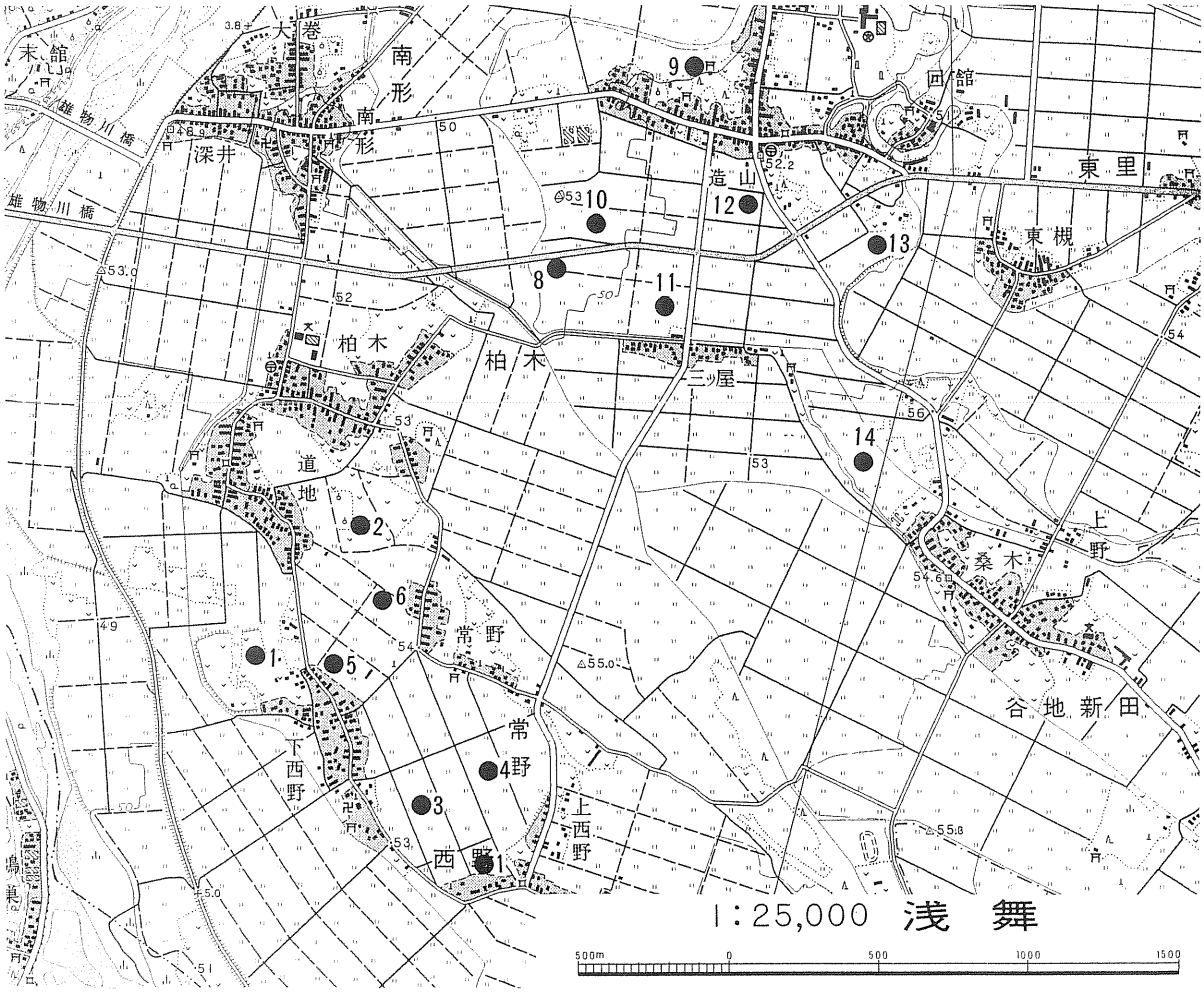
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	上西野遺跡	雄物川町西野字西野	・・	水田	なし	周知の遺跡
2	常野遺跡	雄物川町柏木字歌舞妓野	縄文・古代	畑	縄文土器片・竪穴住居跡	周知の遺跡
3	・・・・	雄物川町西野字樋向	・・	水田	なし	
4	・・・・	雄物川町西野字大福谷地	・・	水田	なし	
5	・・・・	雄物川町西野字大塚	・・	水田	なし	
6	・・・・	雄物川町常野字常野	・・	水田	なし	
7	悪戸城跡	雄物川町西野字悪戸	中世	水田	・・・・	周知の遺跡

（43）県営ほ場整備事業　里見地区

雄物川町里見地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積は351ha、平成16年度まで5箇年計画の事業である。当面の事業予定地について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡2箇所を事業予定地に確認した。蝦夷塚古墳群では、水田より土師器片を表採したほか、溝状の遺構を検出した。造山遺跡では、砥石の出土により遺跡を確認した。これらの遺跡の取り扱いについては原因者と協議中である。なお、事業予定地には、今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
8	蝦夷塚古墳群	雄物川町造山字蝦夷塚	古代	水田	土師器片・溝跡	周知の遺跡
9	造山遺跡	雄物川町造山字造山	古代	水田	砥石	周知の遺跡
10	・・・・	雄物川町造山字南田	・・	水田	なし	
11	・・・・	雄物川町造山字南田	・・	水田	なし	
12	・・・・	雄物川町造山字社ノ前	・・	水田	なし	
13	・・・・	雄物川町造山字栗林	・・	水田	なし	
14	・・・・	雄物川町造山字大関端	・・	水田	なし	



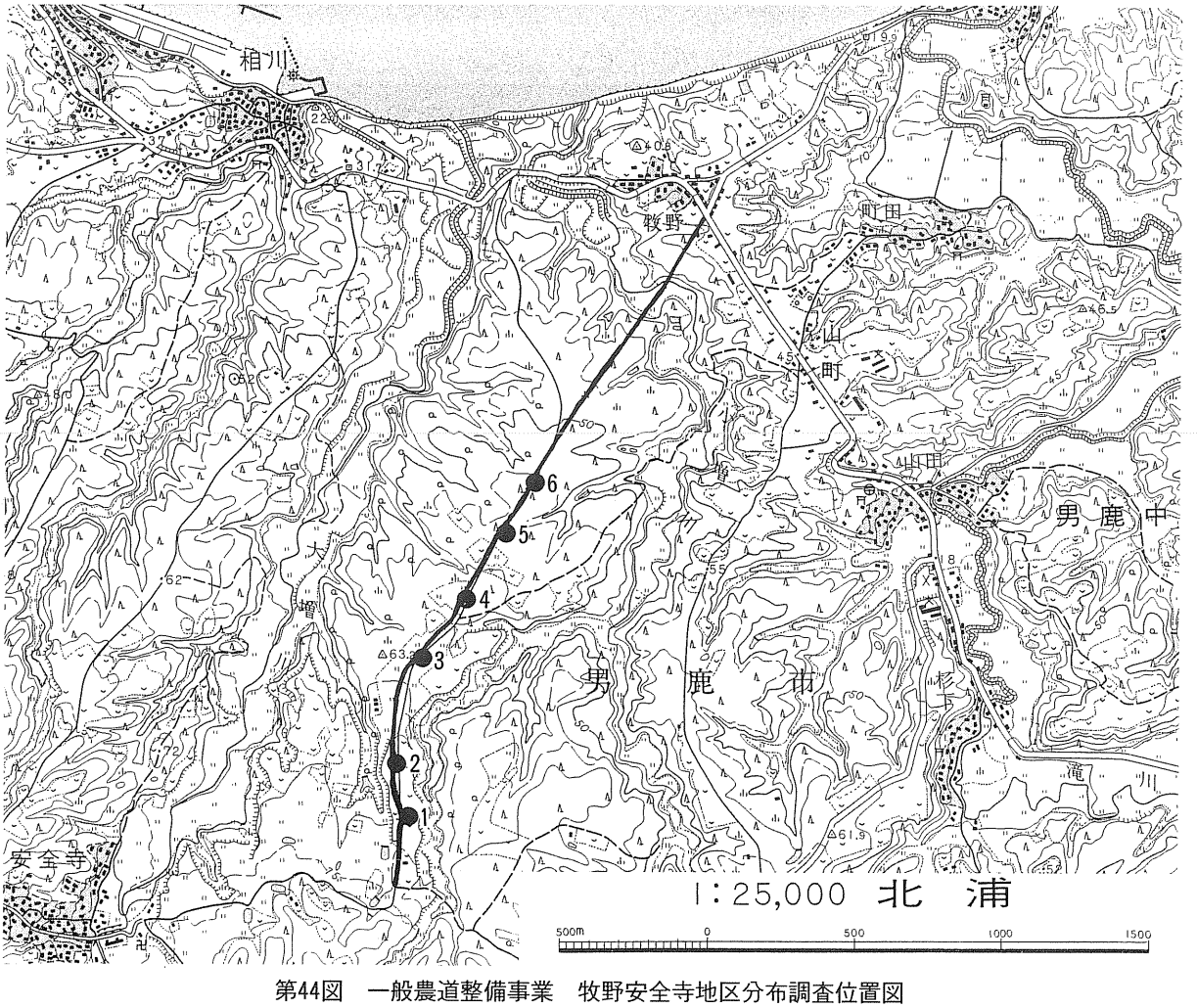
第43図　県営ほ場整備事業　福地地区・里見地区分布調査位置図

（44）一般農道整備事業　牧野安全寺地区

男鹿市牧野安全寺地区に計画された延長1.61㎞、幅員７ｍの計画路線の内、南側0.8㎞について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡２箇所を事業予定地に確認した。鳶ヶ沢遺跡については、平成12年度試掘後に男鹿市教育委員会が発掘調査を行った。向台遺跡については、事業予定地が極めて狭い範囲に限られることから、工事施工の対応について工事立会とした。なお、事業予定地には、今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	鳶ヶ沢遺跡	男鹿市男鹿中山町鳶ヶ沢	縄文	畑地	土坑・縄文土器片	新発見の遺跡
2	向台遺跡	男鹿市北浦相川字向台	縄文	畑地	石器	新発見の遺跡
3	・・・・	男鹿市北浦相川字向台	・・	水田	なし	
4	・・・・	男鹿市北浦相川字向台	・・	休耕田	なし	
5	・・・・	男鹿市北浦相川字神田	・・	杉林	なし	
6	・・・・	男鹿市男鹿中山町字鳥越長根	・・	杉林	なし	

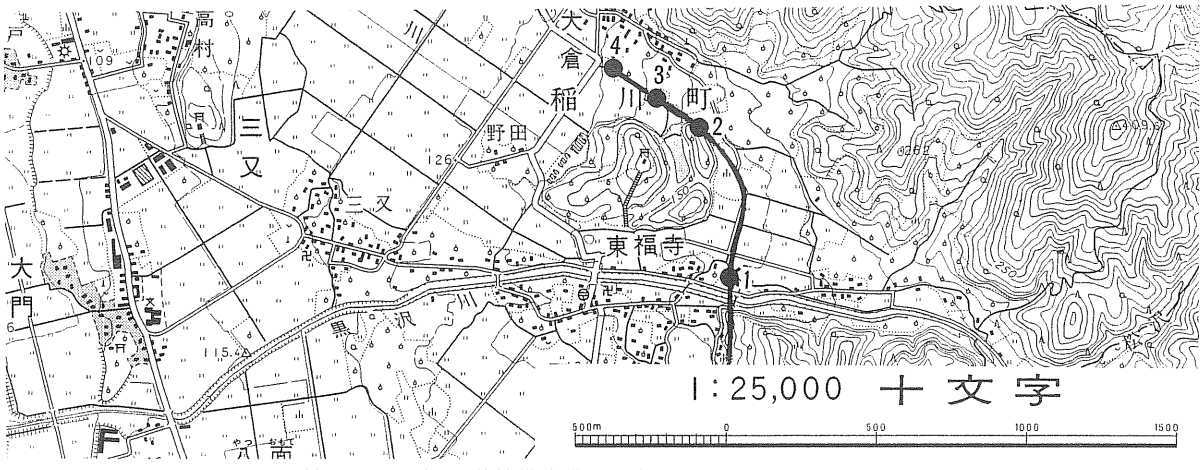


第44図　一般農道整備事業　牧野安全寺地区分布調査位置図

（45）一般農道整備事業　東福寺地区

稲川町東福寺地区に計画された延長1.5㎞、幅員７ｍの計画路線の一部について平成11年度に引き続き再試掘した。調査の結果、新たな遺構、遺物は確認できなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	上村遺跡	稲川町東福寺字上村	古代	畑地	なし	周知の遺跡
2	・・・・	稲川町大倉字岩ノ下	・・	果樹園	なし	
3	・・・・	稲川町大倉字下岩ノ下	・・・	畑地	なし	
4	・・・・	稲川町大倉字下岩ノ下	・・・	畑地	なし	



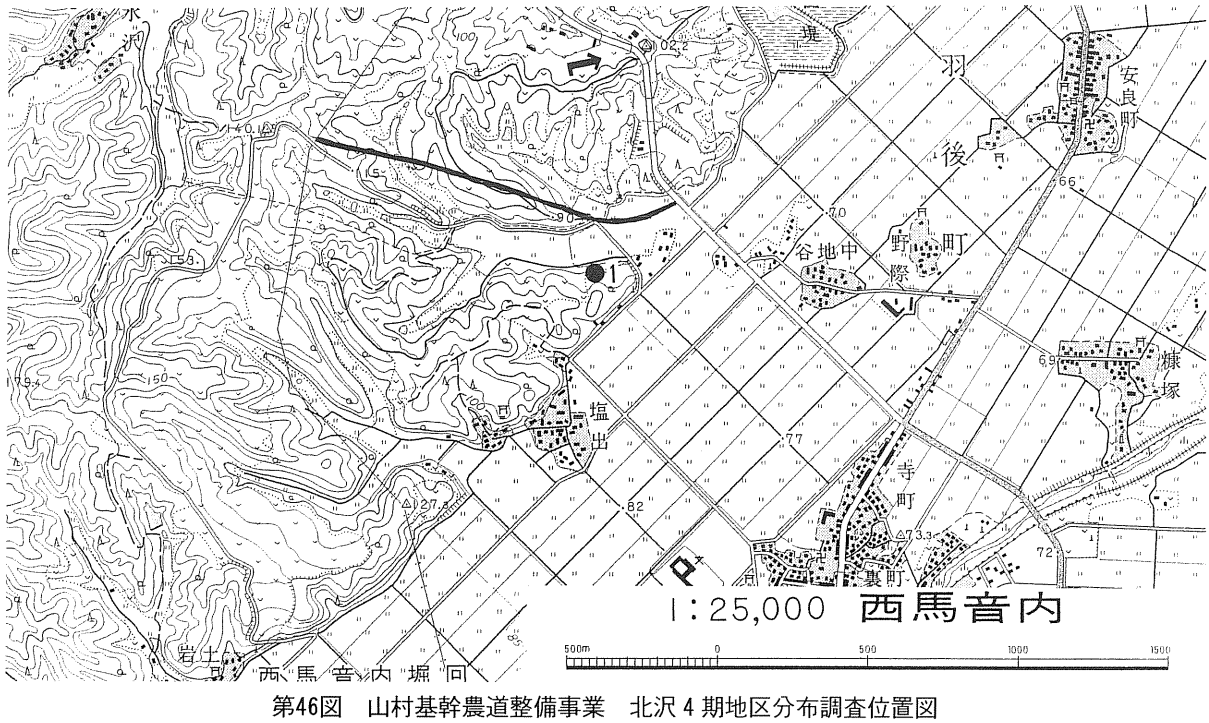
第45図　一般農道整備事業　東福寺地区分布調査位置図

（46）山村基幹農道整備事業　北沢４期地区

羽後町北沢地区に計画された農道で延長1.45km、幅員5.5mの計画路線について踏査した。

事業予定地周辺には塩出平山遺跡が周知されているが、調査の結果、塩出平山遺跡は計画路線にかからないこと、事業予定地の大部分がこれまでの開発事業により大きく地形改変されていることを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	塩出平山遺跡	羽後町西馬音内堀廻字塩出平山	古代	原野・畑地	・・・・	周知の遺跡



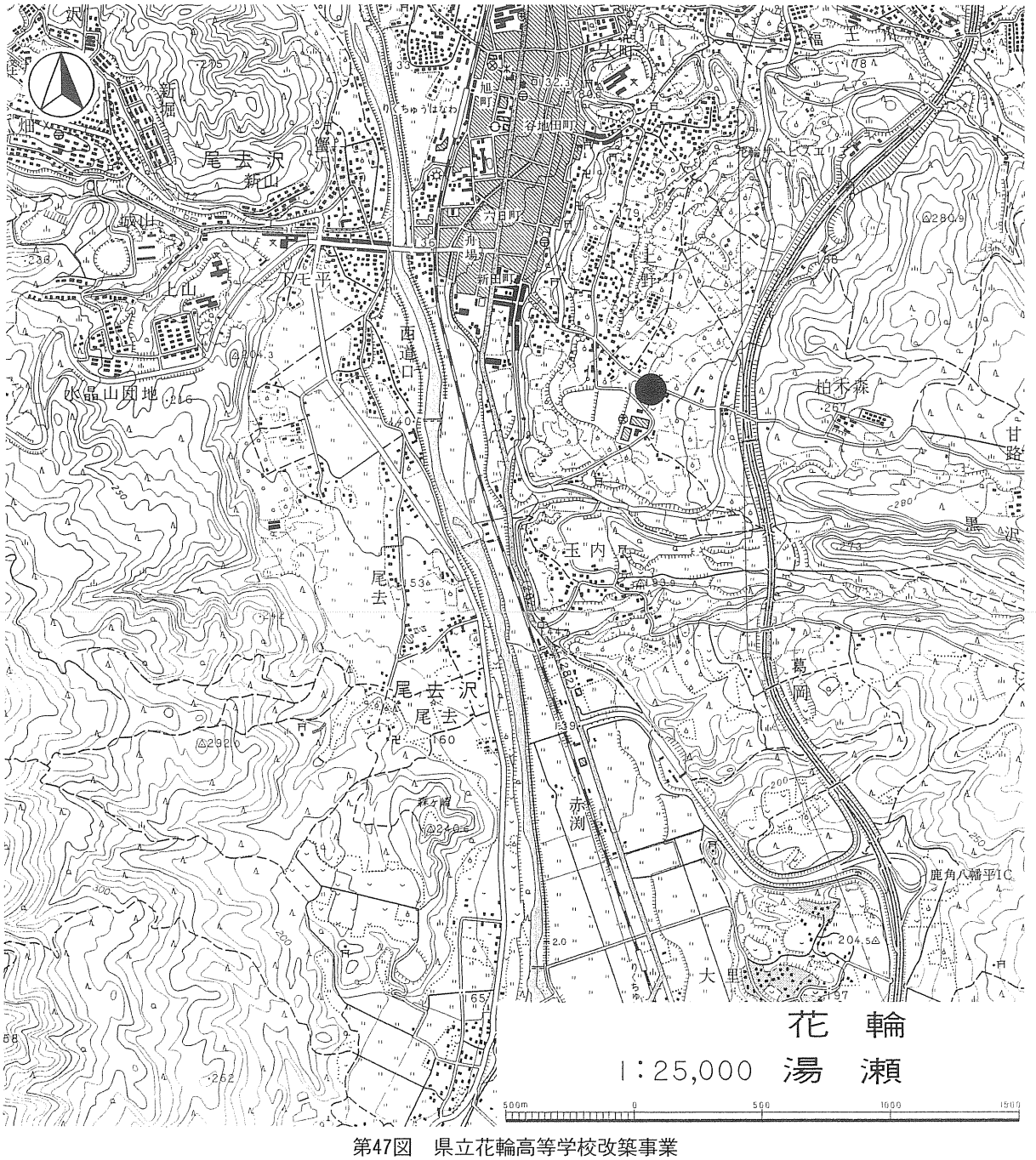
第46図　山村基幹農道整備事業　北沢４期地区分布調査位置図

（47）県立花輪高等学校改築事業

秋田県立花輪高等学校校舎棟等の建設予定地について、踏査及び試掘した。

調査の結果、少量の縄文土器・石器・土師器等を出土し、新発見の遺跡１箇所を事業予定地に確認したが、検出した遺構が柱穴跡１基のみと極めて希薄な確認状況であり、集落跡等が存在する可能性は極めて低いものと判断されることから、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	明堂長根Ⅱ遺跡	鹿角市花輪字明堂長根	縄文・古代	果樹園	縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡



第47図　県立花輪高等学校改築事業

第２節　遺跡範囲確認調査

１　平成11年度補足分

（１）一般地方道森岳鹿渡線踏切除却工事

①古館堤頭Ⅱ遺跡

1	遺跡所在地	秋田県山本郡山本町森岳字古館堤頭10－２外
2	範囲確認調査期間	平成12年３月６日～３月17日
3	範囲確認調査対象面積	3,050㎡
4	工事区域内遺跡面積	3,050㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

古館堤頭Ⅱ遺跡は八郎潟残存湖の北東部、ＪＲ奥羽本線森岳駅の南方約2.5㎞の地点に位置する。遺跡は古館堤と呼ばれる農業用堤の東に位置する堤の堤頭部に立地するが、本来この堤は下刻による小谷状地形であり、遺跡はそれに臨む小丘様を呈している。

本遺跡の立地する森岳段丘は層厚５ｍ以上の砂層（砂礫層）で構成される。下位の段丘面である金光寺野段丘構成層から降下火山灰（Toya）が検出されていることから、森岳段丘は南関東における下末吉段丘に相当するものと考えられる。本遺跡における地山（第Ⅴ層）は段丘構成層の上に堆積する風成土であることが、近接する琴丘町家の下遺跡の調査で確認されている。

b　現況

本遺跡の工事用地にかかる部分は大半が松と杉の植林地であるが、調査に先だって伐採は完了している。なお、調査区南縁を林道が横断している。この林道をはさんで南側は平成11年12月に範囲確認調査を実施済みである。

6　範囲確認調査の方法

調査は計画路線に平行および直交する方向に、幅１ｍのトレンチを設定しておこなった。トレンチには、前回調査のトレンチに続けて№11～№40までの番号を付した。トレンチの総延長は425ｍで、対象面積の13.9％にあたる。調査の結果、遺構と認めた部分についてはその種別を確認するように努め、平面図作成および写真撮影により記録した。出土した遺物にはトレンチ名と出土地点を付し、位置を記録した。また、旧石器時代の遺物の有無を確認するため、調査区中央部から南側の斜面にかけて、試掘坑を９カ所設定して調査をおこなった。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

第Ⅰ層　表土層。層厚10～15㎝。

第Ⅱ層　黒褐色シルト。層厚10～30㎝。

第Ⅲ層　暗褐色シルト。層厚５～20㎝。

第Ⅳ層　漸移層。層厚10～15㎝。

第Ⅴ層　黄褐色粘土～シルト（地山）。層厚30～50㎝

第Ⅵ層　浅黄褐色粘土～シルト（地山）。

調査区内における各層序の層相および層厚は上記のとおりである。調査区内の地形には起伏があり、それに応じて層厚は変化する。調査区北側および南側は層厚が厚く、反対に調査区中央部ではⅢ層がほとんど認められず浅い。遺跡の主たる時期である縄文時代中期後葉の遺物はⅡ層、Ⅲ層から主に出土しており、とくにⅢ層上面に遺物が集中する。前回の調査では、Ⅲ層中から遺構が構築されているとの結果が得られているが、今回の調査では明確にとらえることができなかった。

b　検出遺構と遺物

調査区各所で縄文時代の竪穴住居跡２軒、土坑13基、柱穴74基を検出した。

縄文時代の土器・石器は調査区中央部付近においてとくに多く出土し、調査区北側および南側では若干希薄となる。土器は大木９式に比定され、遺構の大半は縄文時代中期後葉に属すると考えられる。旧石器時代の遺物は出土しなかった。

8　所見

a　遺跡の種類

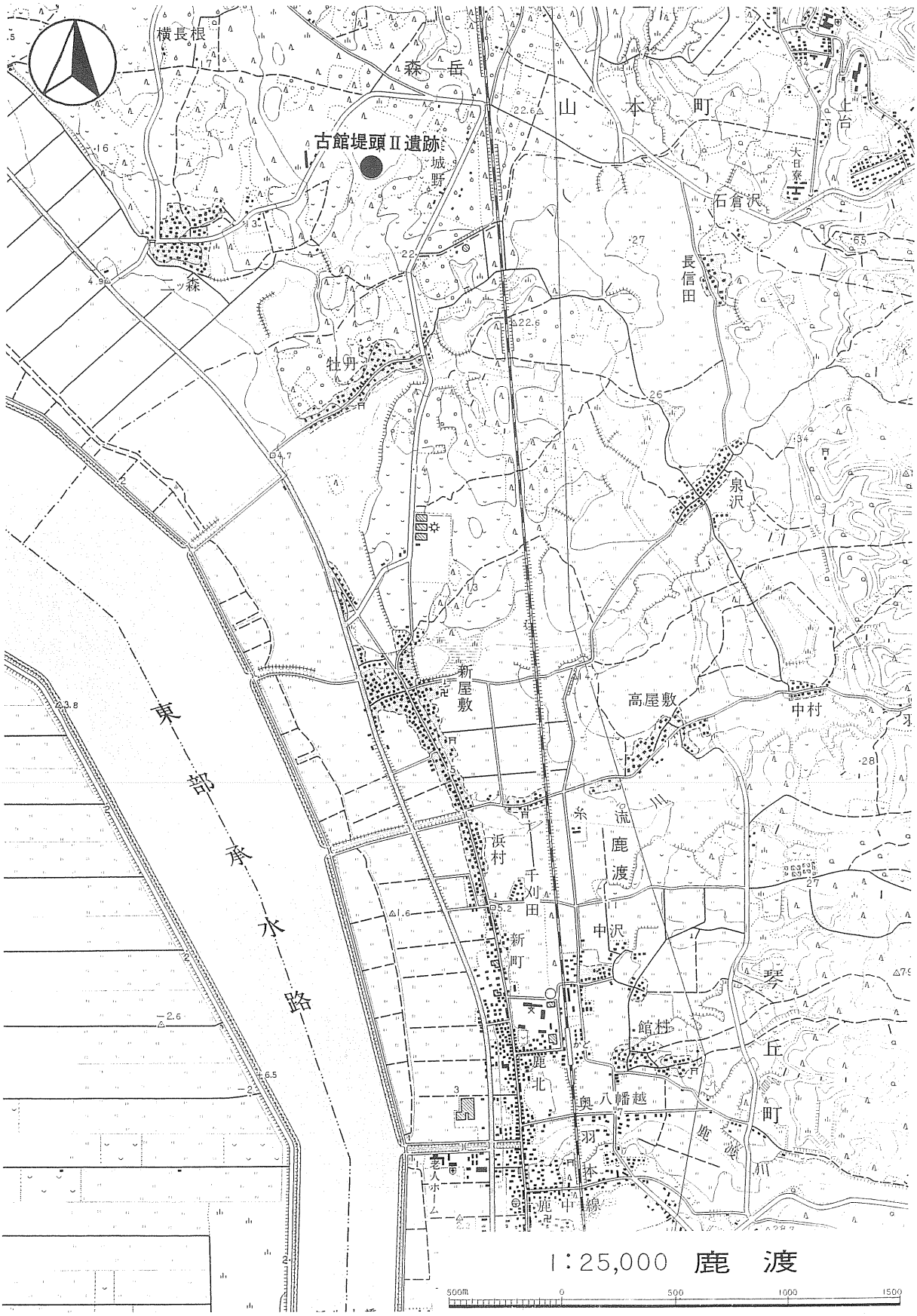
縄文時代中期後葉の集落跡である。

b　遺跡の範囲と工事区域

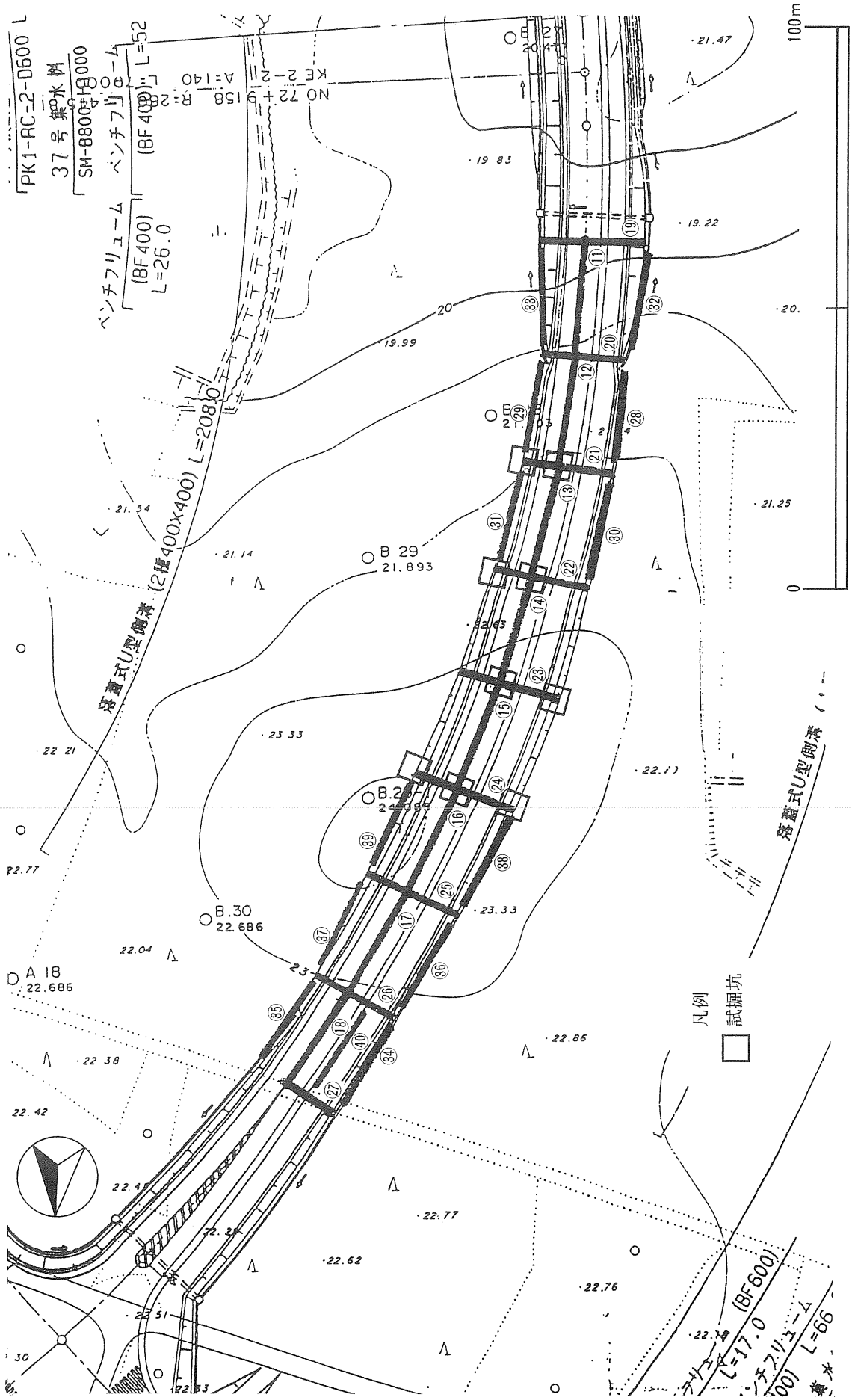
今回の範囲確認調査の対象地区全域が遺跡である。前回の調査結果と併せ、5,050㎡が当該工事区域に係る本調査の範囲となる。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

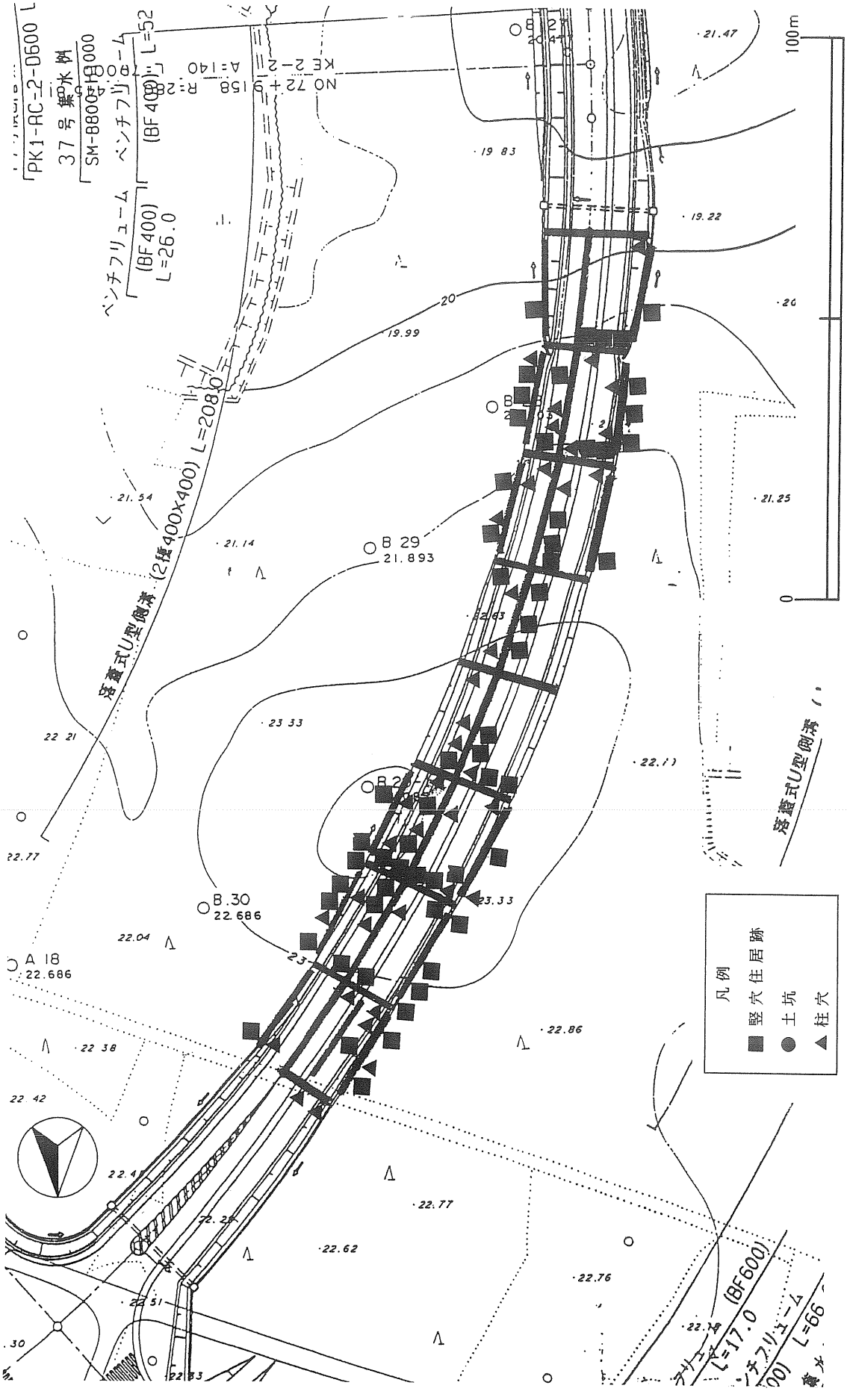
縄文時代中期後葉の竪穴住居跡、土坑（フラスコ状土坑）、柱穴、焼土遺構を多数検出することが予想される。遺物も該期の土器・石器が多く出土することが予想される。



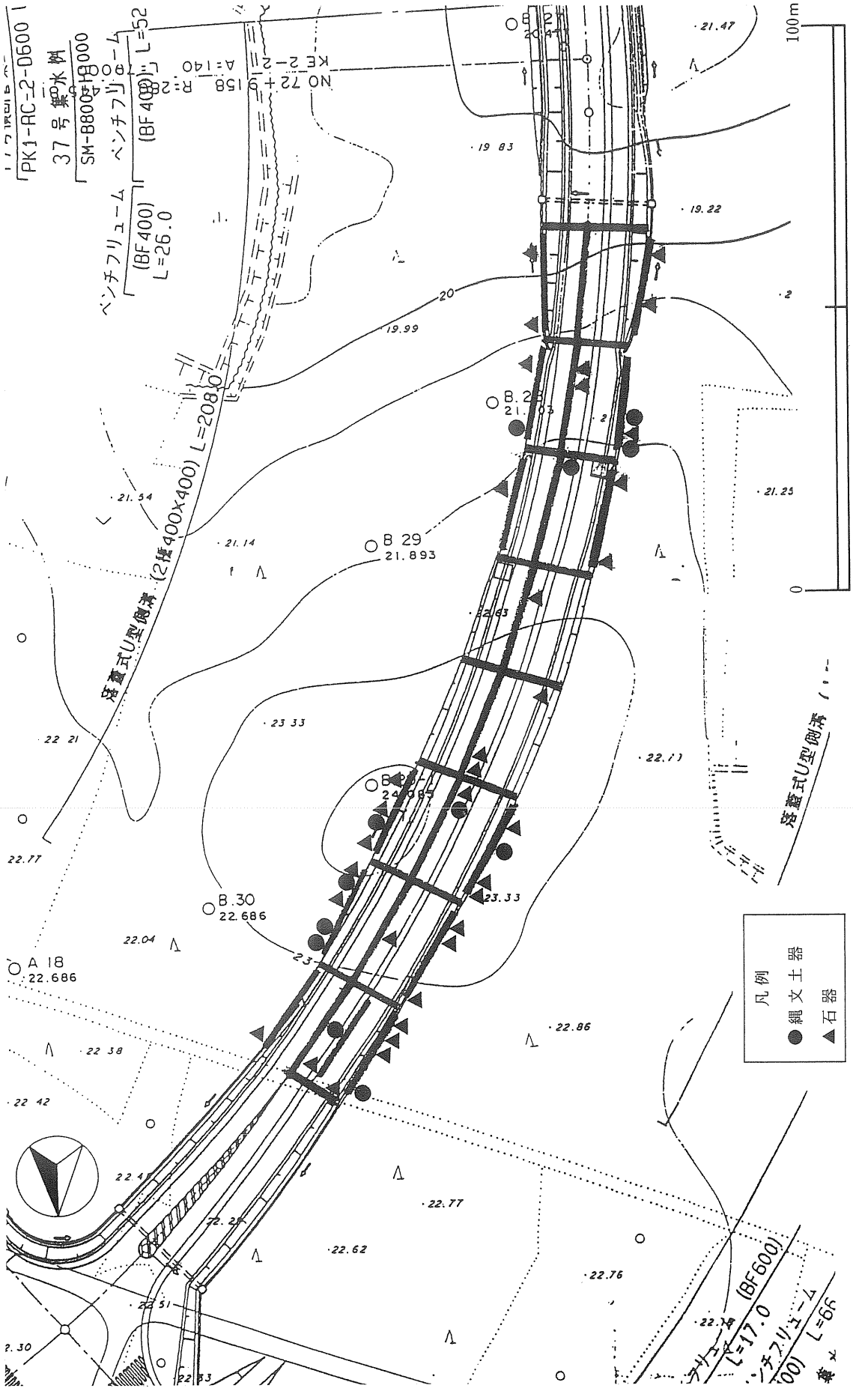
第48図　古館堤頭Ⅱ遺跡位置図



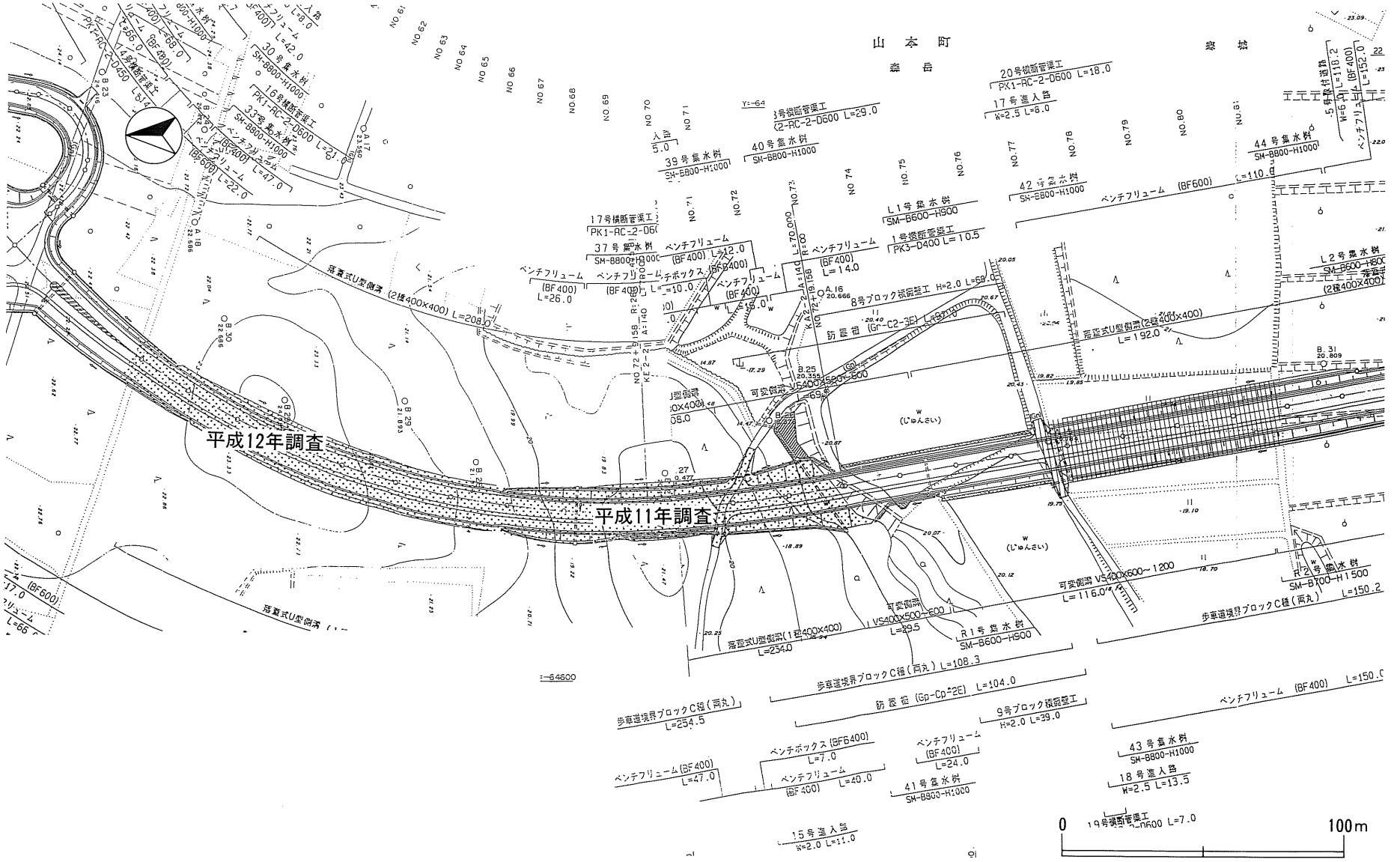
第49図　古館堤頭Ⅱ遺跡トレンチ位置図



第50図　古館堤頭Ⅱ遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第51図　古館堤頭Ⅱ遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



第52図　古館堤頭Ⅱ遺跡範囲図

調査風景(北から)

土坑検出状況(南から)

遺物出土状況(南から)

（２）主要地方道秋田昭和線地方道道路改良事業

①大松沢（おおまつざわ）Ⅰ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県秋田市手形字大松沢100-30外

2　範囲確認調査期間　　平成12年３月８日～３月17日

3　範囲確認調査対象面積　　4,250㎡

4　工事区域内遺跡面積　　2,300㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡はＪＲ奥羽本線秋田駅から北北東約2.7㎞に位置し、手形山台地の南西縁、標高50～60ｍに立地する。調査区は、北側から浸食された沢地が中央に形成されており、東部は沢地に向かって東から西に傾斜する。沢地の南側では地滑りによる地割れが南北に走る。西部は大部分が平坦地となっており、これに隣接する路線部分は平成５年度に発掘調査が行われている。

b　現況

山林・原野である。

6　範囲確認調査の方法

調査は、遺構の確認が不可能な地滑り部分を除いた地域について、平坦地・傾斜地には幅1.6ｍのトレンチ、沢地には２ｍ四方の試掘坑を設定し、表土除去終了後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認して行った。トレンチの表土除去はすべて重機で行った。実質調査面積は339㎡、対象面積の8.0％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

基本層序は以下の通りである。

［沢地・傾斜地］

第Ⅰ層　黒褐色土（10YR２/２）。表土。層厚10㎝～20㎝。

第Ⅱ層　暗褐色土（10YR３/３）～褐色土（10YR４/４）。漸移層。層厚10～30㎝。

第Ⅲ層　にぶい黄褐色土（10YR５/４）～黄褐色土（10YR５/６）。地山。

［平坦地］

第Ⅰ層　褐色土（10YR４/４）～暗褐色土（10YR３/４）。地すべりによる再堆積土。層厚20～40㎝。

第Ⅱ層　黒褐色土（10YR２/２）。旧表土。層厚20～30㎝。

第Ⅲ層　褐色土（10YR４/４）。層厚10㎝。部分的に赤味がかったところがあり、全体的に炭化物が１％混入している。

第Ⅳ層　黒褐色土（10YR３/２）。層厚30㎝。炭化物粒子をわずかに含む。

第Ⅴ層　にぶい黄褐色土（10YR５/４）～黄褐色土（10YR５/６）。地山。

平坦地については第Ⅰ層は東側に、第Ⅱ・Ⅲ層は北東側に堆積している。また所々に地滑りの影響と思われる地山の盛り上がりが認められる。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は平坦地西縁部で炭焼成遺構2基、傾斜地北側で土坑1基、溝跡1条を検出した。遺物は沢地付近の平坦地・傾斜地から縄文時代の土器、平坦地東側から近世陶磁器が出土した。沢地から出土した土器は磨滅しており、周辺からの流れ込みと判断した。

8　所見

a　遺跡の種類

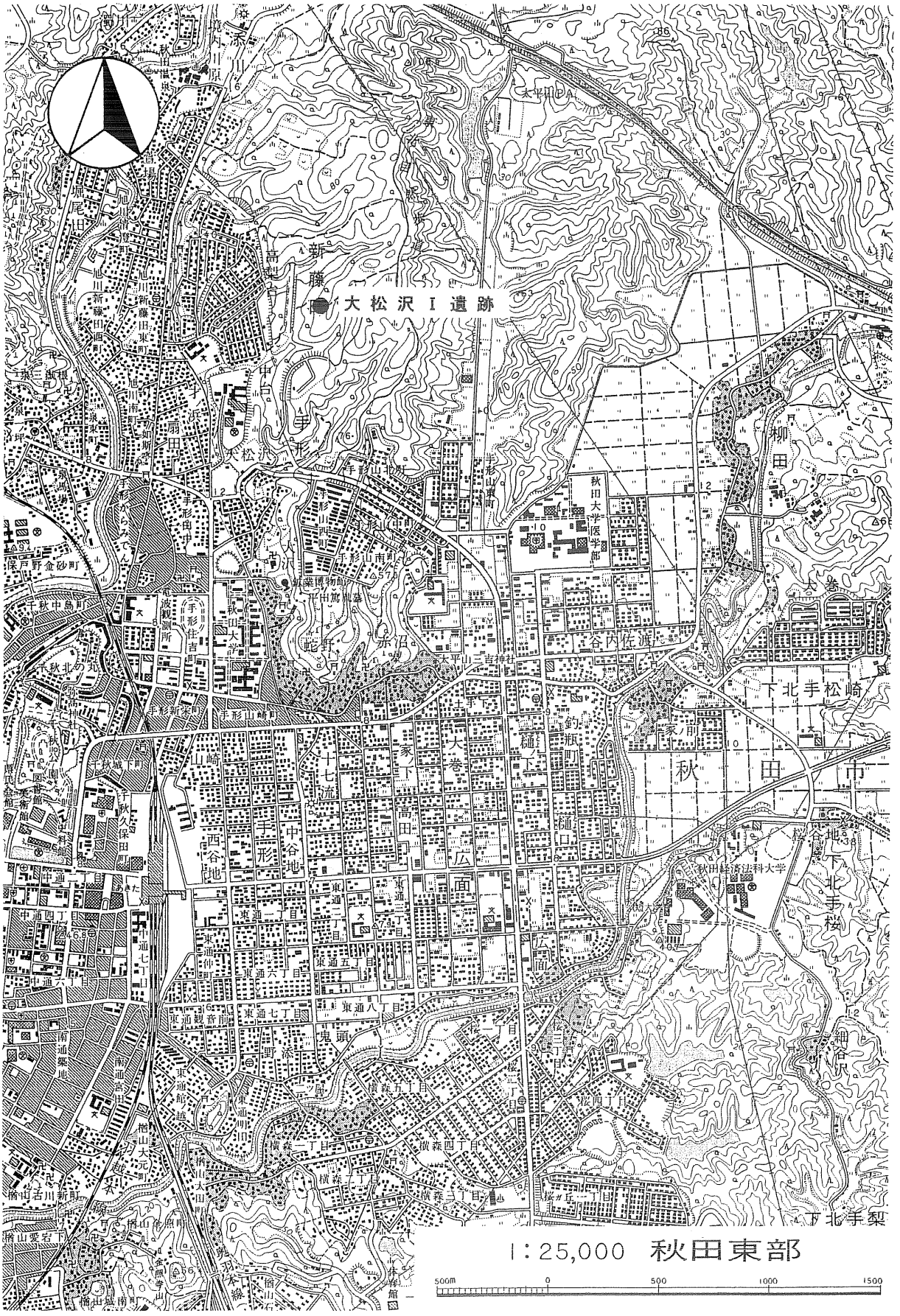
縄文時代の遺物包含地、古代以降の生産遺跡と判断される。

b　遺跡の範囲と工事区域

平成5年度調査区の東側に隣接した区域のうち、沢地および中央部の地割れ部分を除いた平坦地と傾斜地である。

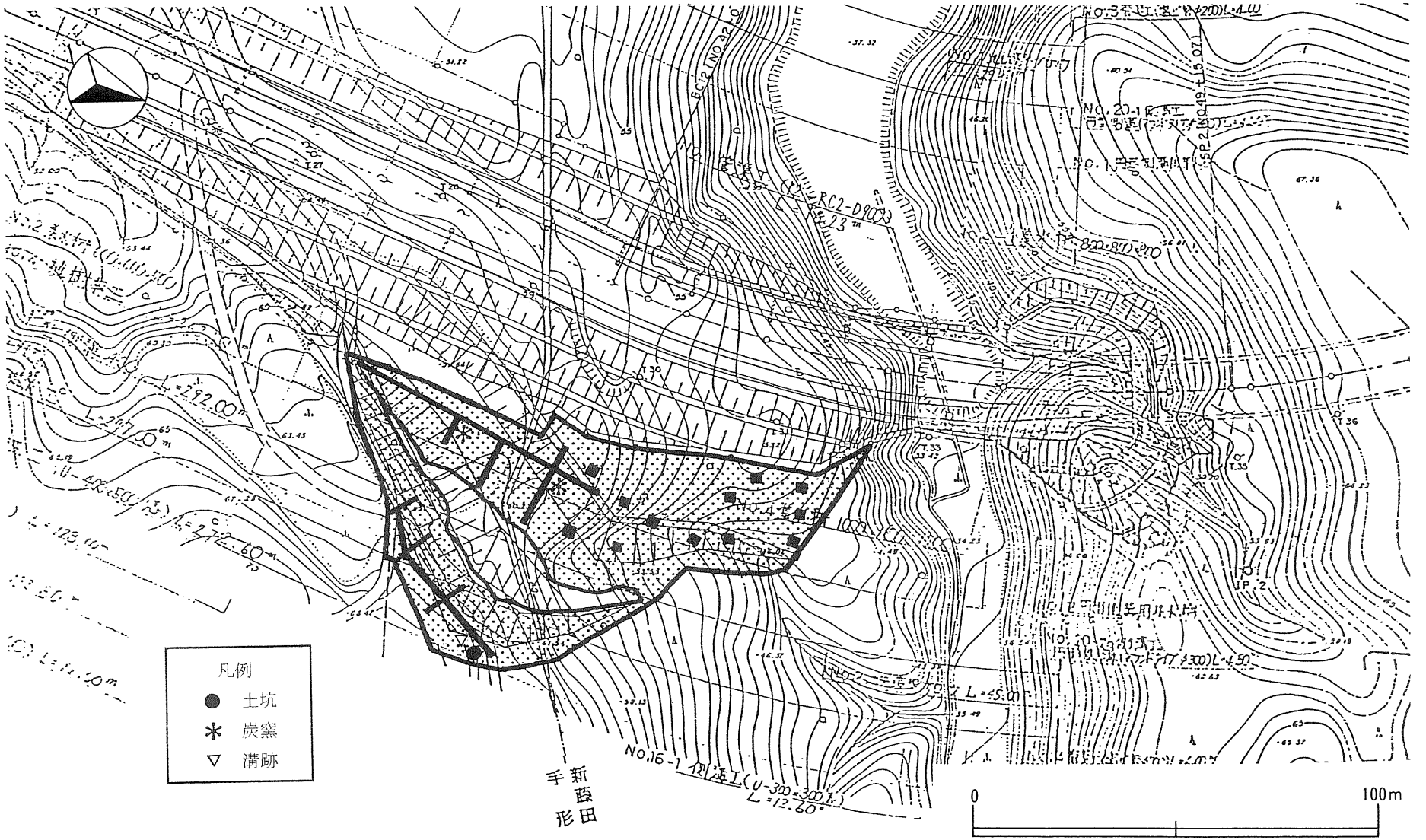
c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

平坦地では古代以降の炭窯、傾斜地では時期不明の土坑、溝跡が検出されるものと考える。遺物は縄文時代の土器・石器、近世以降の陶磁器の出土が予想される。

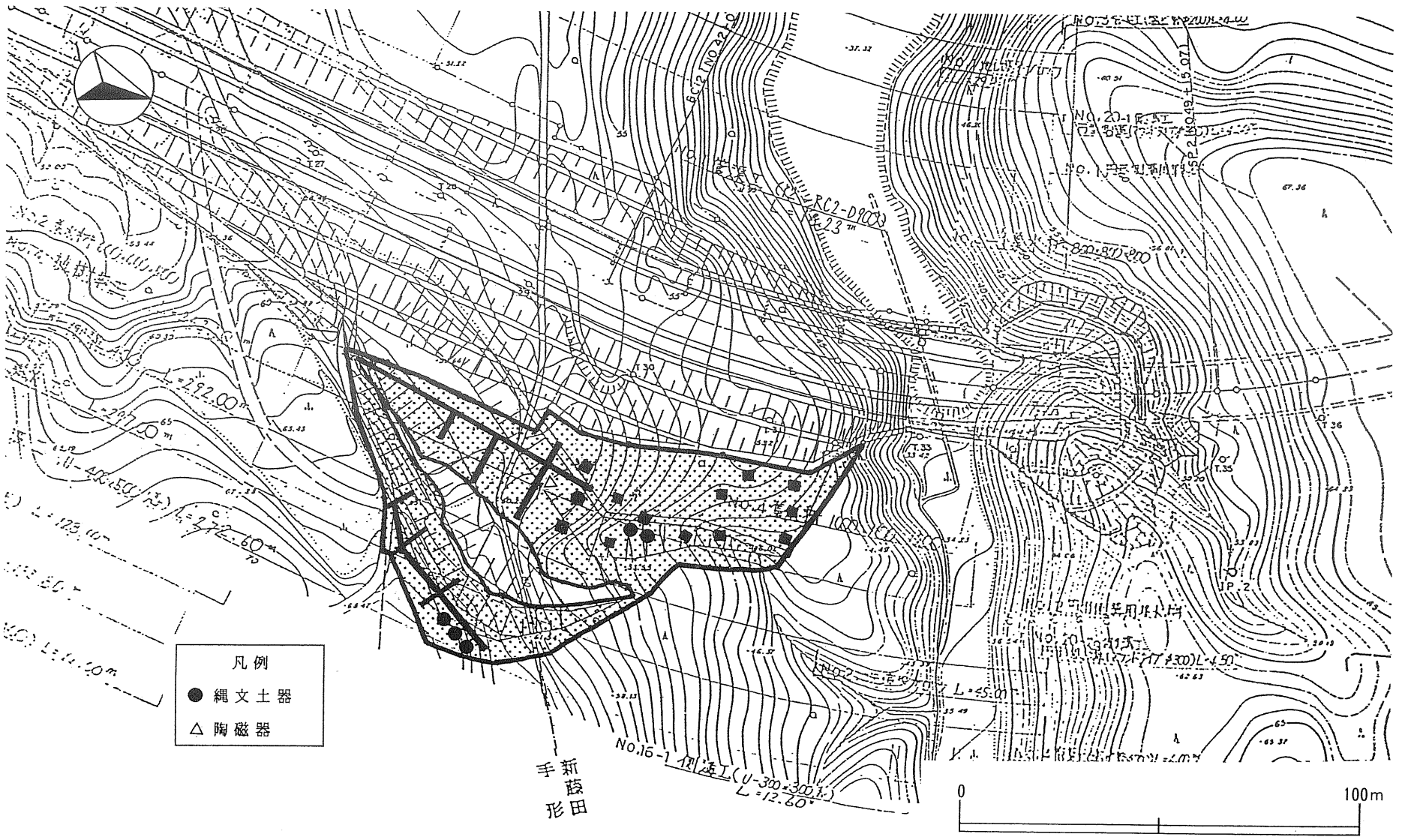


第53図　大松沢Ⅰ遺跡位置図

第54図　大松沢Ⅰ遺跡範囲確認調査範囲とトレンチ位置図



第55図　大松沢Ⅰ遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）

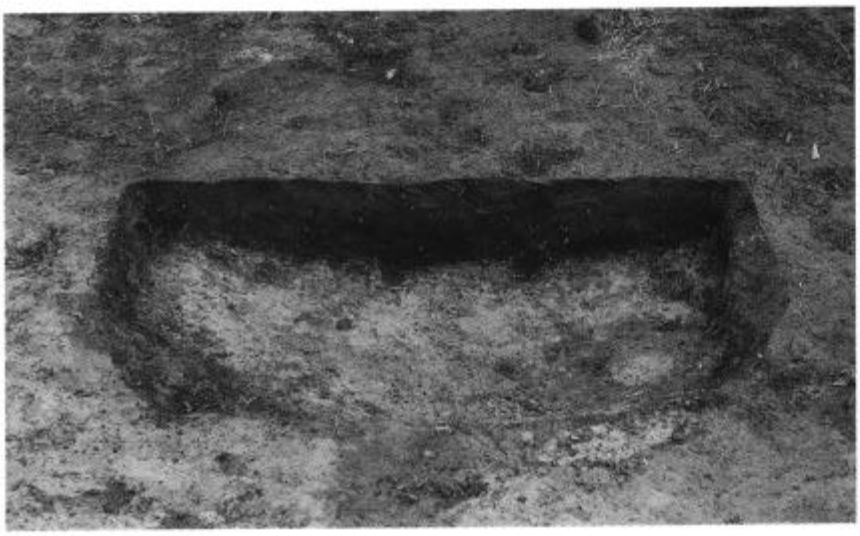


第56図　大松沢Ⅰ遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）

第57図　大松沢Ⅰ遺跡範囲図

大松沢Ⅰ遺跡
遠景(西から)

大松沢Ⅰ遺跡
溝跡検出状況(南から)



大松沢Ⅰ遺跡
炭焼成遺構半截状況
(東から)

（３）主要地方道寺内新屋雄和線地方特定道路整備工事

①諏訪遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県秋田市豊岩豊巻字諏訪139－２外

2　範囲確認調査期間　　平成12年３月６日～３月14日・３月22日

3　範囲確認調査対象面積　　3,200㎡

4　工事区域内遺跡面積　　1,700㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡はＪＲ奥羽本線四ツ小屋駅から南西に約３km、雄物川の左岸に位置する。遺跡の東には隣接して主要地方道寺内新屋雄和線が通る。西には日本海沿岸の海岸線に沿って発達した丘陵が位置する。この丘陵には北東あるいは東に向かって沢が形成され、沢頭部分には石田坂大堤・管沢堤・中沢大堤等の堤が数カ所に設けられている。遺跡は管沢堤からのびた沢を取り囲む丘陵の先端に位置し、標高８～16mの段丘上に立地する。調査区南の丘陵上には須恵器が出土している古代の杉の下遺跡や中世の白華城が位置する。

b　現況

遺跡の現況は、段丘上部は山林、段丘低部は畑地、沖積地は水田である。

6　範囲確認調査の方法

調査は地形を考慮してトレンチまたは試掘坑を設定して行った。畑の平坦部では１～２m幅のトレンチを、丘陵上では立木等の制約から２×２あるいは３×３mの試掘坑を設け、壁面及びⅢ層・Ⅳ層上面で遺構・遺物の有無を確認した。

調査区は段丘の平坦面から大きく４地区に分けられる。調査区南端の南部平坦面（８・９坑）、南部平坦面から尾根に沿って北東に広がる東部平坦面（３～７トレンチ・12坑）、東部平坦面から西に１～２段下がった北西部平坦面（１・２・10・11トレンチ）、北西部平坦面からさらに北に１段下がった北部平坦面（13トレンチ）である。東部平坦面と北西部平坦面の間には沢が入り込んでいる。

範囲確認調査における延べ試掘面積は290㎡で、調査対象面積の9.0％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

第Ⅰ層　耕作土。黒褐色土。

第Ⅱ層　黒褐色土。径１～３mmの赤褐色土粒や炭化物・小石を含む。遺物包含層。

第Ⅲ層　にぶい黄褐色土。漸移層。地山を斑状に多く含む。遺物包含層。遺構確認面。

第Ⅳ層　黄褐色土。地山。

調査区内の地区ごとの堆積状況は以下の通りである。

［南部・東部平坦面］

Ⅰ層が20～40cm堆積している。Ⅱ・Ⅲ層は確認されず、Ⅰ層下がⅣ層の地山層である。東部平坦面西側の３・５・６トレンチではⅠ層が20cmであるのに対して東側の４トレンチでは厚く30～40cm堆積しており、西から東に向かって傾斜しているのが確認された。

［北西部平坦面］

畑地として利用されていた部分である。Ⅰ層が20cm、Ⅱ層が15～25cm、Ⅲ層が10～15cm堆積している。1トレンチ南端ではⅠ層が東壁で20cmであるに対し、西壁では40～50cm堆積しており、西に向かって急傾斜していることが確認された。遺物はⅡ・Ⅲ層から出土し、遺構はⅢ層上面で検出した。

［北部平坦面］

Ⅰ層が20～30cm、Ⅲ層が5～10cm堆積している。北東隅にのみⅡ層が確認された。厚さは60cm以上ある。このⅡ層が確認された部分は段丘平坦面端の斜面近くのみである。旧斜面に上部から崩落したⅡ層が自然堆積したものか、あるいは畑地として利用するために削平したⅡ層を埋め立てた可能性が考えられる。

b　検出遺構と出土遺物

検出した遺構は竪穴住居跡2軒、焼土遺構1基、土坑3基、柱穴4基である。住居跡のうち1軒には部分的に焼土が確認され、さらに数軒の重複があると考えられる。これらの遺構が確認されたのは調査区北西部平坦面である。

遺物は主に土師器・須恵器が出土し、他に鉄製品・鉄滓・剥片・縄文土器が数点確認されている。大部分が遺構の検出された北西部平坦面からの出土である。北西部平坦面以外では、東部平坦面Ⅰ層直下から瓦が1点、南部平坦面から剥片が数点出土している。南部平坦面の東は急斜面になっており斜面下には民家と道路が接している。剥片のみの出土で遺構は確認されておらず、主体部はこれらの道路等により削平されている可能性が考えられる。北部平坦面からも土師器や剥片が数点出土しているが、上部の北西部平坦面からの流入と考えられる。

8　所見

a　遺跡の種類

遺跡は古代の集落跡であると考えられる。

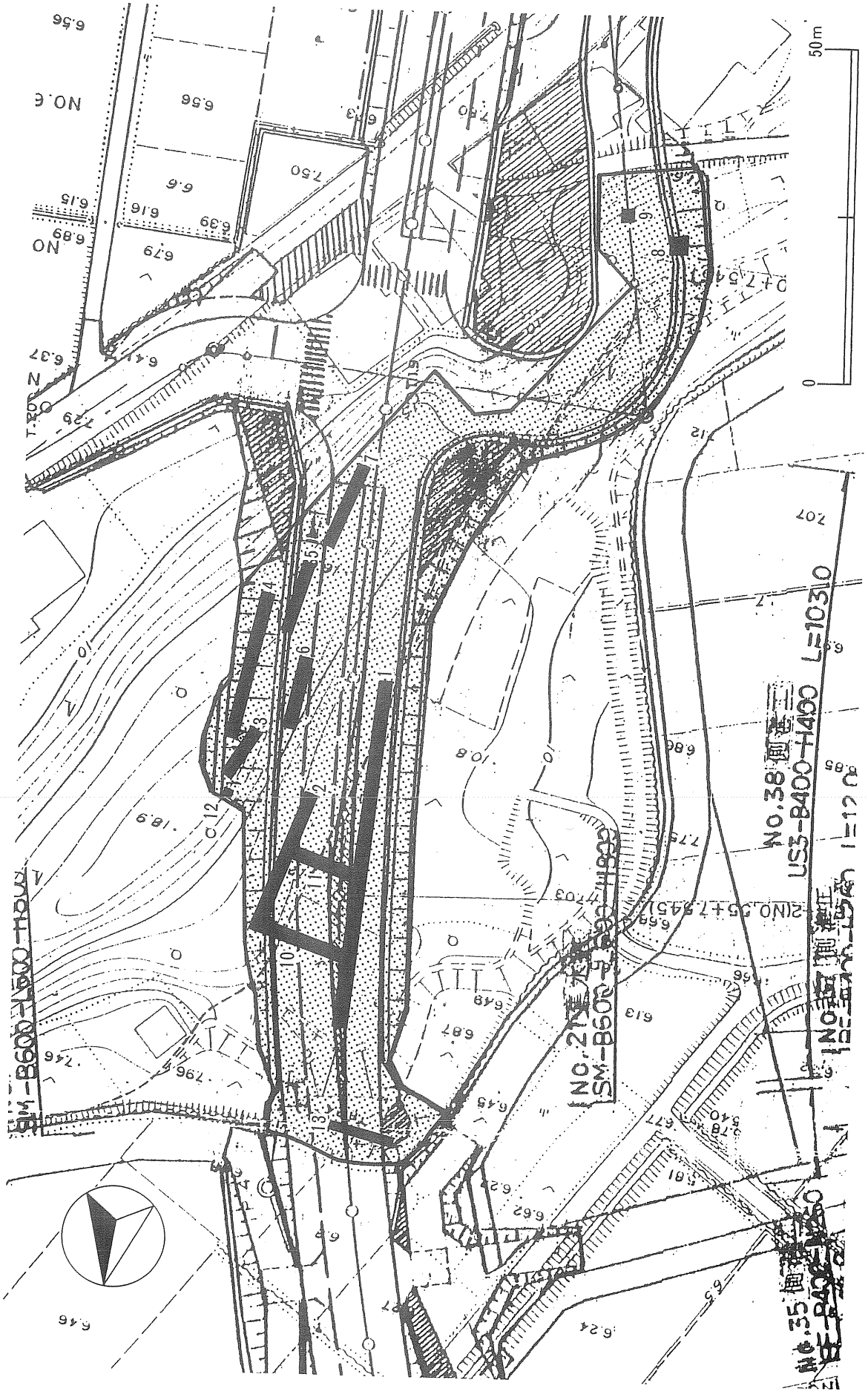
b　遺跡の範囲と工事区域

工事区域内では北西部平坦面に遺構が広がるものと考えられる。

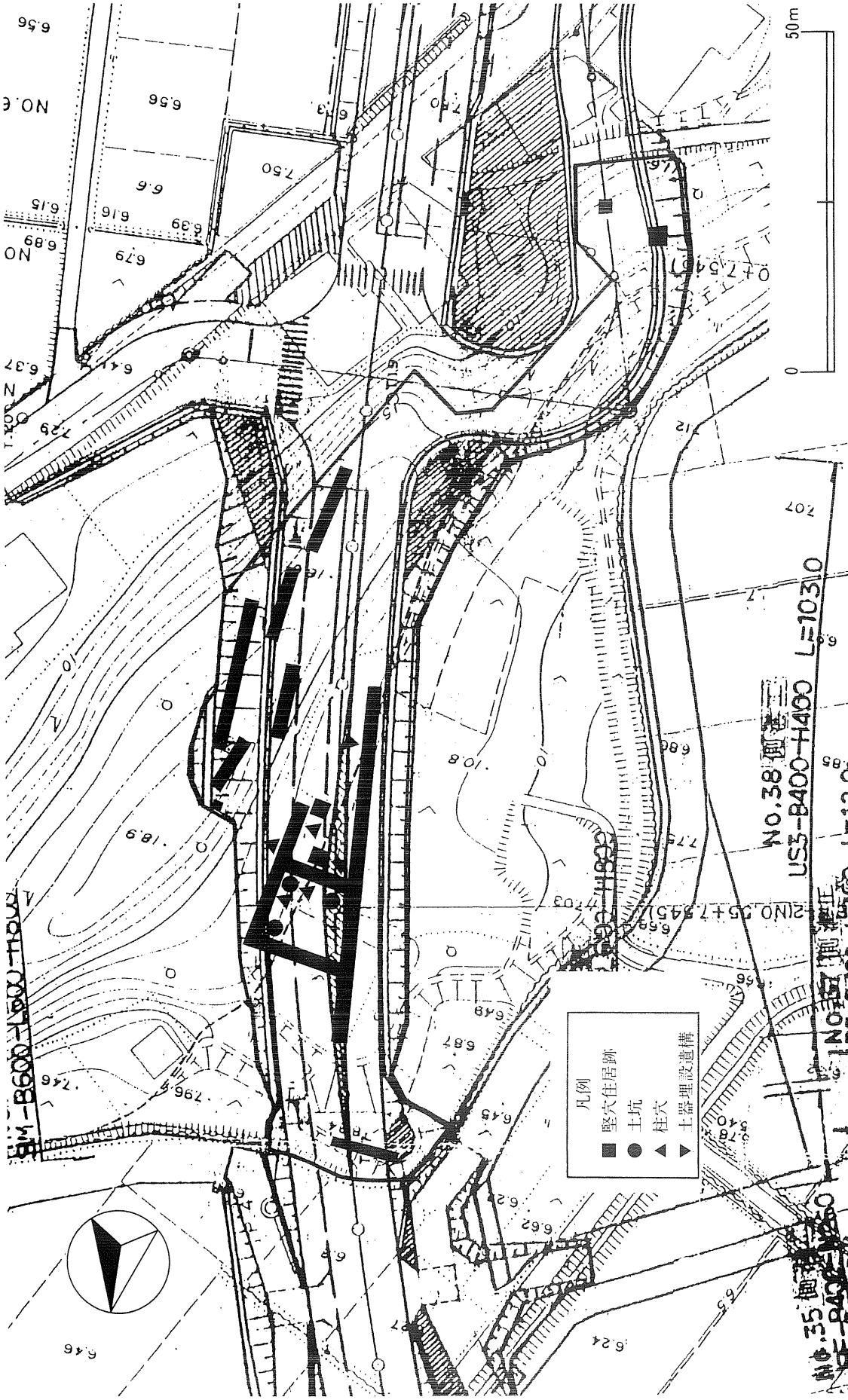
c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は北西部平坦面に竪穴住居跡・焼土遺構・土坑・柱穴が計数10基検出されるものと予想される。さらに鉄製品・鉄滓が出土していることから、平坦面からは鍛冶炉、北西部平坦面東側斜面からは炭窯跡が検出される可能性がある。遺物では土師器・須恵器等が遺構内と包含層から出土するものと考えられる。

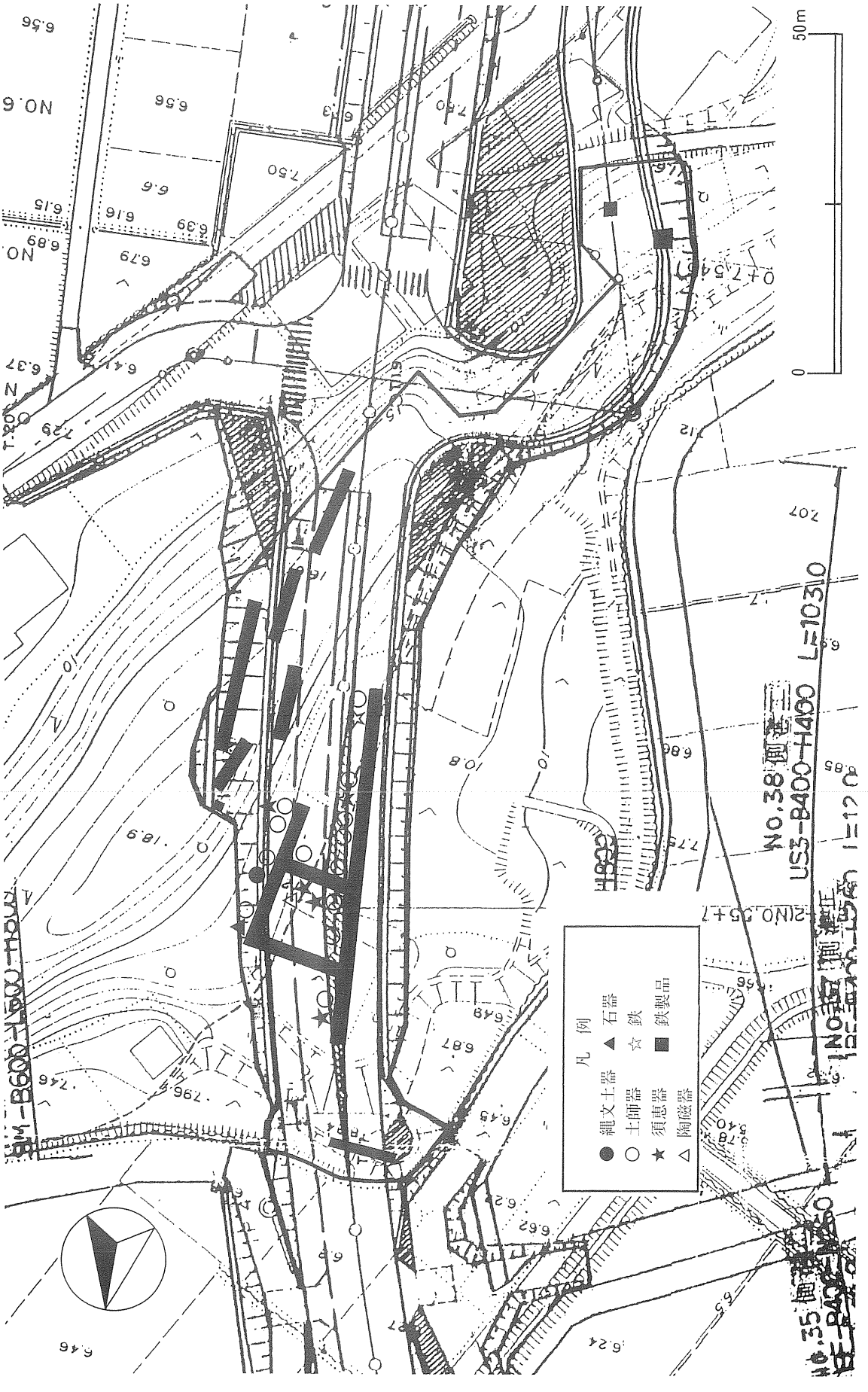
第58図　諏訪遺跡位置図



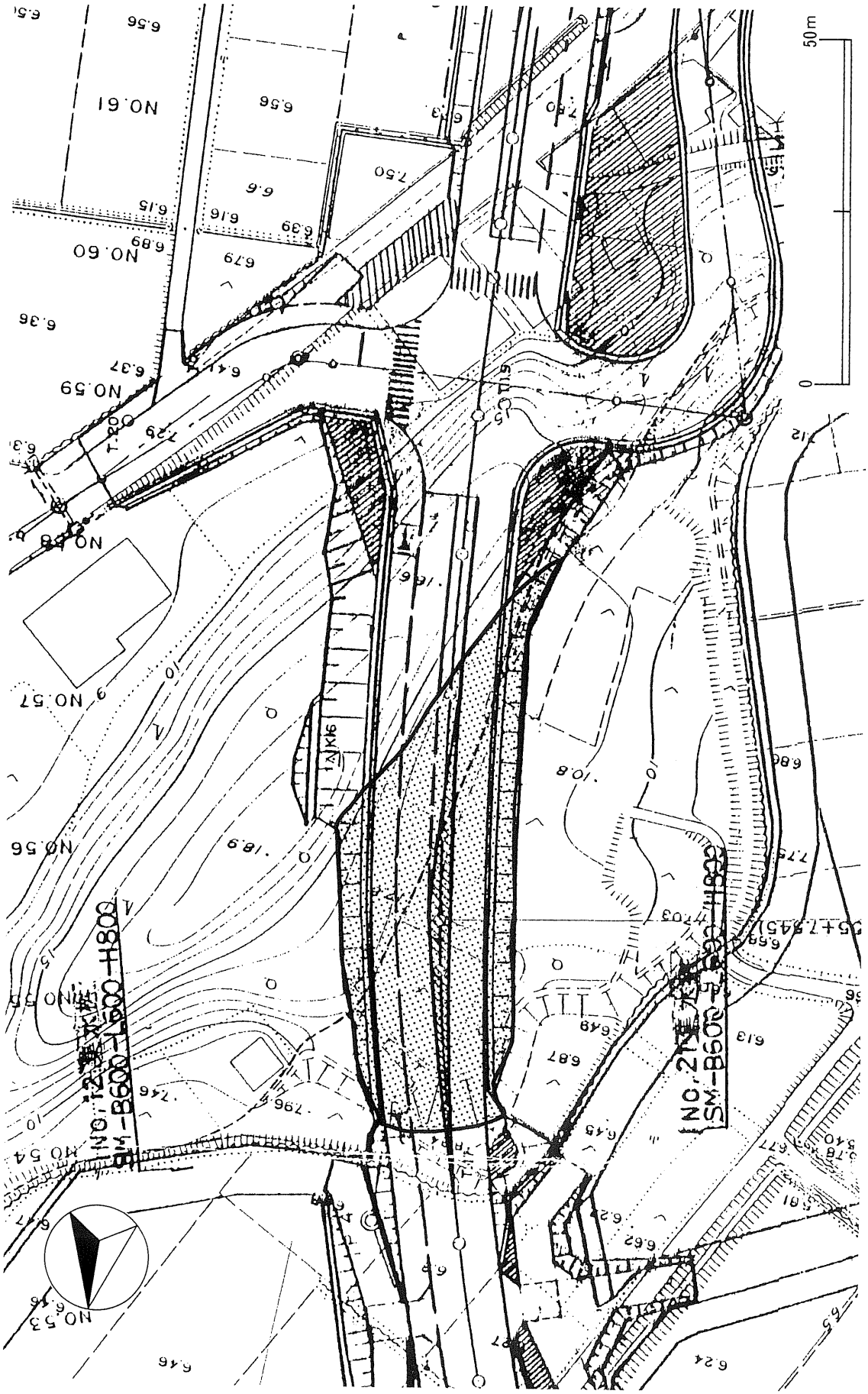
第59図　諏訪遺跡範囲確認調査範囲とトレンチ位置図



第60図　諏訪遺跡調査結果図（遺構検出地点）

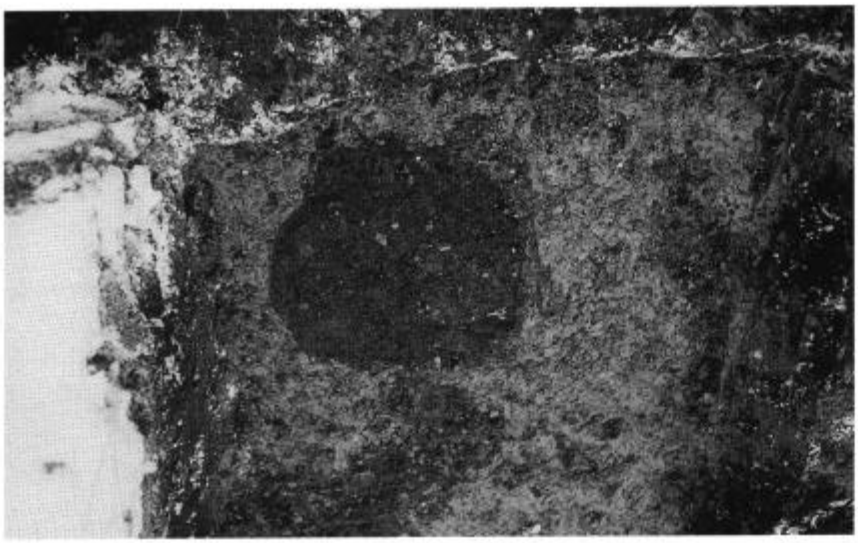


第61図　諏訪遺跡調査結果図（遺物出土地点）



第62図　諏訪遺跡範囲図

諏訪遺跡
調査区遠景(西から)



諏訪遺跡
柱穴検出状況(東から)

諏訪遺跡
遺物出土状況

2　平成12年度分

（１）主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業

①柴内館跡（しばないだてあと）

1　遺跡所在地　　秋田県鹿角市花輪字乳牛平100－２外

2　範囲確認調査期間　　平成12年９月25日～10月20日

3　範囲確認調査対象面積　　16,220㎡

4　工事区域内遺跡面積　　13,700㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

柴内館跡は、ＪＲ花輪線柴平駅の南東約2.5㎞の地点、標高160ｍの台地上に位置する。台地の北側には不動川、南側には乳牛川が西流しており、西方約2.5㎞を北流する米代川に合流する。遺跡範囲の南限は、県道十二所花輪大湯線に沿って台地下を流れる小川で区画されている。遺跡内は自然の谷を利用した空堀によって分けられ、各地点には２段から３段の曲輪が残されている。周辺には縄文時代から中世までの遺跡が点在する。特に、この地方には鹿角四十二館といわれるほど中世の館跡が多く、それらは縄文時代・古代の遺跡と複合する。本館跡内にも縄文土器や土師器を出土する深沢Ⅱ遺跡が存在し、南側には乳牛館跡が隣接する。

b　現況

調査前は果樹園・畑及び杉林だった場所である。現在、調査対象範囲のほとんどは伐採が終了している。北端に２台の乗用車が、南端には農業用資材（ドラム缶等）が廃棄されたままになっている。

6　範囲確認調査の方法

基本的に計画路線の延びる南北方向に、各地点１～３本のトレンチを設定し、およそ20ｍおきにそれに直交する東西方向にトレンチを設定し調査した。トレンチ幅は２ｍであるが、一部は遺構の広がりを確認するために拡張した。トレンチの掘削は重機によっておこなったが、空堀に区画された独立丘状の郭面、空堀として利用された谷底や帯郭の斜面は全て人力で掘った。遺物は出土位置と層位を記録した。実質調査面積は2,100㎡、12.9％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

調査対象範囲が南北に細長く、沢が２本入っているため、層序は地点毎の地形によって若干の違いがある。台地上平坦面（Loc.５、６付近）の層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　現地表。耕作土層。層厚10㎝。

第Ⅱ層　漸移層。層厚５～10㎝。

第Ⅲ層　埋没土壌層。層厚５㎝。

第Ⅳ層　十和田ａ火山灰層。層厚０～10㎝。

第Ⅴ層　埋没土壌層。５～10㎝。

第Ⅵ層　漸移層。層厚５～10㎝。

第Ⅶ層　火山灰層（鳥越火砕流）。

場所によってはⅣ層が薄い地点、Ⅴ・Ⅵ層の厚い地点もある。逆に十和田ａ火山灰層も黄褐色風化

パミスとして存在する場合と、白色未風化パミスとして存在する場合があり、後者の方が層位的には下となる。黄褐色風化パミスは、十和田a火山灰の再堆積層と考える。遺跡南側の斜面部は、地山までの土層堆積が2.5mある。

b　検出遺構と出土遺物

縄文時代の遺構としては陥し穴1基を検出した。平安時代もしくは中世の可能性がある遺構は多数検出され、竪穴住居跡7軒、土坑26基、火葬墓3基、鍛冶炉2基、堀・溝8条、段築1面、柱穴多数である。遺物は各時代数点ずつと非常に少ない。縄文時代晩期の土器片、平安時代の土師器片、刀子、鉄滓、中世の珠洲系陶器片、江戸時代の磁器片、寛永通宝が出土している。

8　所見

a　遺跡の種類

古代の集落であり、中世城館へ移行する時期の遺跡である。他に縄文時代の狩猟場が複合する。

b　遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は、13,700㎡である。

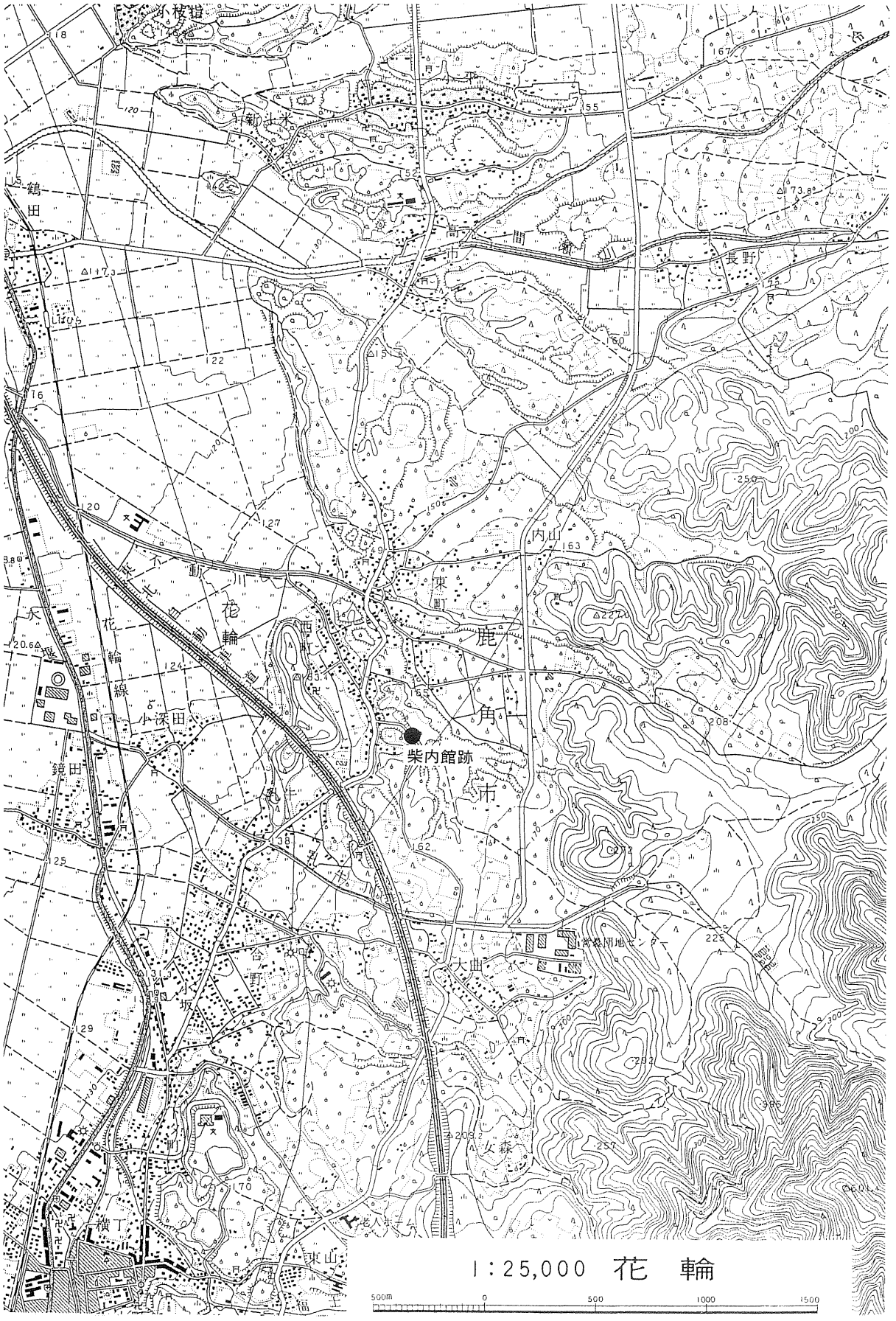
c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺跡南側の台地端部（Loc. 1）には大規模な3段の帯郭がまわっている。上部1段目の帯郭は台地平坦面の空堀とつながり環壕を形成している。環壕の内側では平安時代の竪穴住居跡が3軒あり、中世の遺物がなく、この範囲は古代末の「防御性集落跡」の可能性がある。ただし下部2段の帯郭は台地全体にまわり、本遺跡南の隣接台地にも延びている。これら2段の帯郭は中世段階に加えられ、中世城郭を構成した遺構と考えられる。

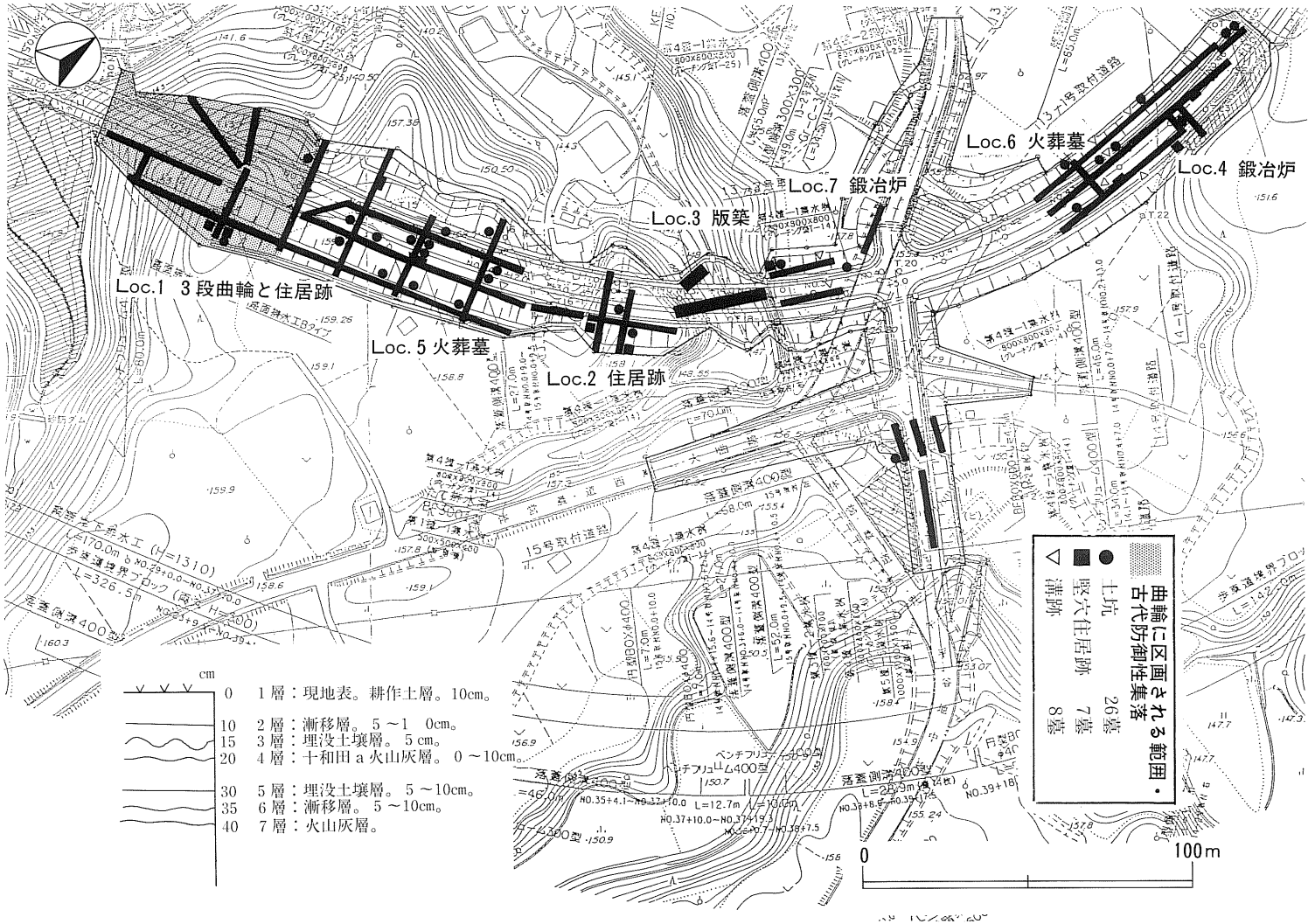
中央部独立丘状の部分（Loc. 2）は、肩部に溝が掘られた上に裾野のカーブがほぼ直角に切られているため、人為による地形改変である可能性が高い。南側の空堀内（Loc. 3）には3m以上版築して平坦面を構築している。版築工法をとるための土留め工事の痕跡が検出されると思われる。現在の農道西町・大曲線に切られた露頭には竪穴住居跡が露出している。遺物は少ないが、鉄製品が住居内から出る可能性がある。

また、北側端（Loc. 4）に1基、中央部（Loc. 7）に1基の鍛冶炉が見つかっている。他に、火葬墓が南側（Loc. 5）・北側（Loc. 6）に3～4基ずつ見つかっている。

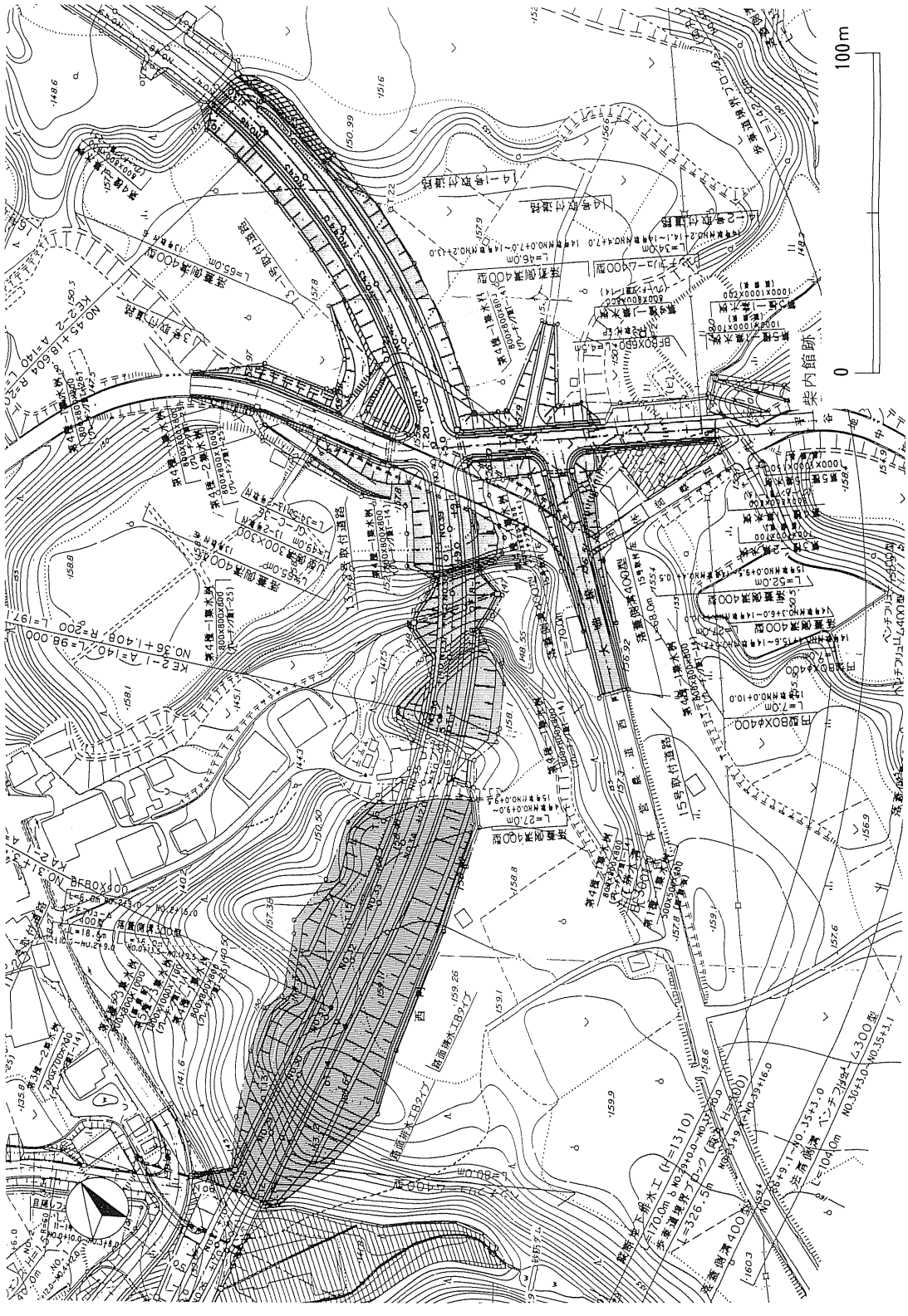
遺跡東側の農道下部分からも柱穴が見つかる可能性が強い。道路工事でアスファルトを剥がすときに確認する必要がある。また、東側谷底部分は3m以上埋没しており2mほど掘ったところで水が湧いてくる。遺物はないが曲輪の下を確認する必要がある。他に鍛冶炉があり、鍛造剥片が土壌内に含まれているので、土壌を回収し水洗する必要がある。



第63図　柴内館跡遺跡位置図



第64図　柴内館跡遺跡範囲確認調査結果（遺構検出地点）



第65図　柴内館跡遺遺跡範囲図

柴内館跡Loc. 3
空堀内調査状況

柴内館跡Loc. 3
版築断面

柴内館跡Loc. 1
空堀断面

（２）国道282号国道道路改築事業

①物見坂Ⅲ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県鹿角市十和田錦木字下野51－３外

2　範囲確認調査期間　　平成12年９月25日～10月13日

3　範囲確認調査対象面積　　12,650㎡

4　工事区域内遺跡面積　　5,500㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ花輪線十和田南駅から南東に約0.9km、通称風張台地の西側先端部に位置する。標高は133～138mで、遺跡のほぼ中央を東西に農道が通る。この農道を挟んで北側が一段低くなっている。遺跡の北端と南端はともに急峻な崖である。

b　現況

調査区域内はすべて伐採済みであるが、遺跡全体がリンゴ園である。

6　範囲確認調査の方法

調査区内には南北方向に幅１mのトレンチを、道路北側では10mおきに、南側では20mおきに設定し、これに直交する東西方向のトレンチを北側では20mおきに、南側では10mおきに設定した。トレンチは重機を用いて十和田ａ火山灰層上面まで掘り下げ精査した。遺構が確認できない場合は再び重機を用いて地山面まで掘り下げ精査した。また、重機による掘削ができなかった箇所は、人力でトレンチや試掘坑を掘削した。試掘面積は約1,260㎡で、調査対象面積の約10％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

第Ⅰ層　黒褐色土。表土。耕作土。層厚10～40cm。

第Ⅱ層　黒色土。層厚０～30cm。

第Ⅲ層　十和田ａ火山灰層。層厚０～20cm。

第Ⅳ層　黒色土。層厚10～100cm。

第Ⅴ層　黒褐色土。層厚０～10cm。

第Ⅵ層　黄褐色土。地山。

総層厚は、10～150cmとなる。全体的にⅡ・Ⅲ・Ⅴ層を欠いているところもあり、道路南側中央部の一部では地山面が削平されているところもある。

b　検出遺構と出土遺物

道路北側では土坑５基、大溝１条、性格不明遺構１基を検出した。大溝は十和田a火山灰層を掘り込んでいるが時代は不明である。土坑からは遺物が出土していないが、ほとんどは縄文時代の遺構と考えられる。道路南側は、竪穴住居跡が２軒、土坑13基、土坑墓１基、焼土遺構１基、性格不明遺構２基を検出した。竪穴住居跡からは土師器が出土しており平安時代の遺構である。土坑墓は後北式土器を共伴しており続縄文期の遺構である。土坑は、縄文時代あるいは古代いずれかの時期が考えられる。

遺物は、道路北側で縄文土器片が数点出土しただけで、その量は極端に少ない。道路南側では、住

居跡から土師器片、性格不明遺構より縄文土器片が出土したほか、東側で縄文土器片と土師器片が少量出土した。

8　所見

a　遺跡の種類

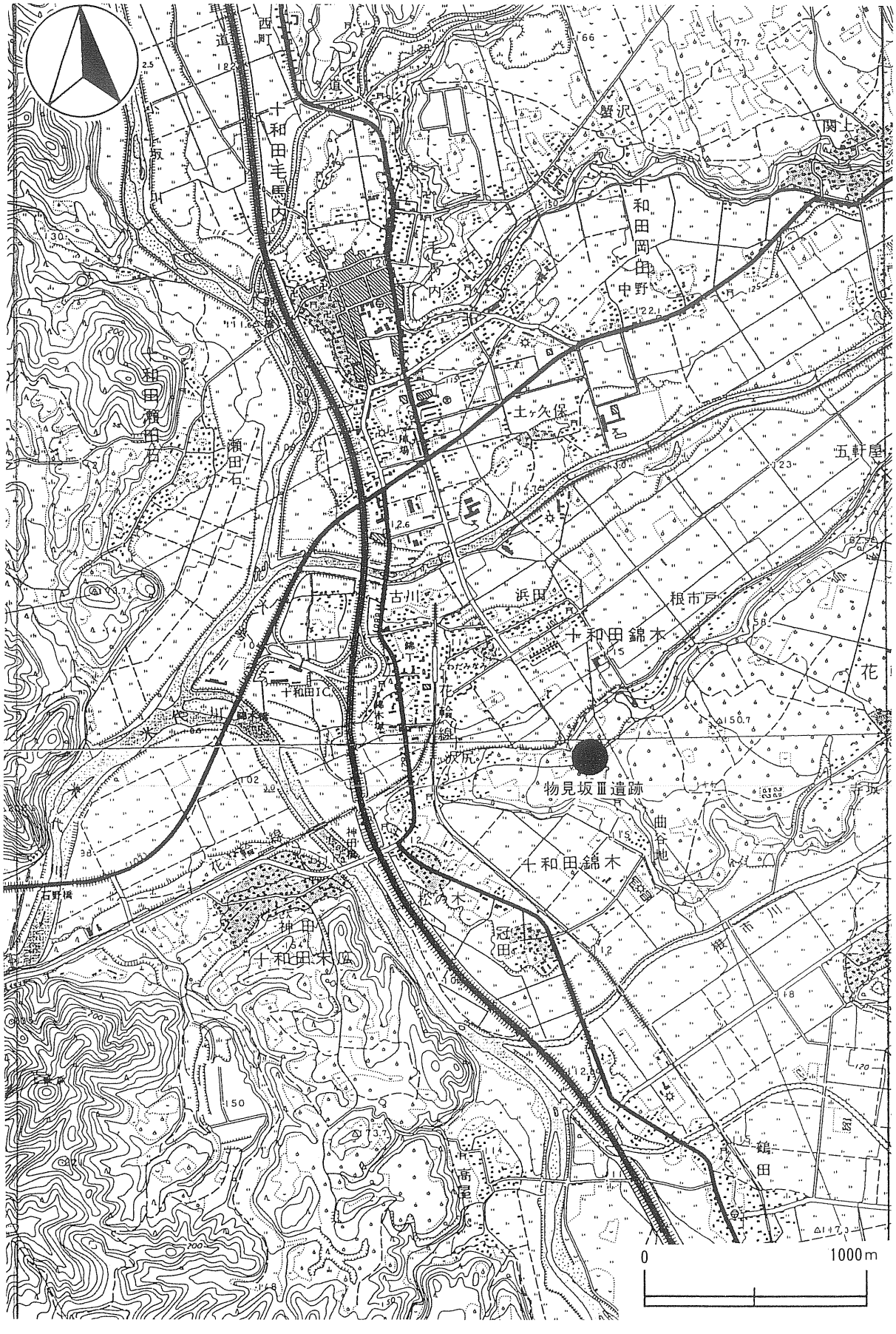
検出遺構と出土遺物より、平安時代の集落跡と考えられる。道路南側の南東付近は、土坑墓が検出されたことにより続縄文期の墓域が想定される。

b　遺跡の範囲と工事区域

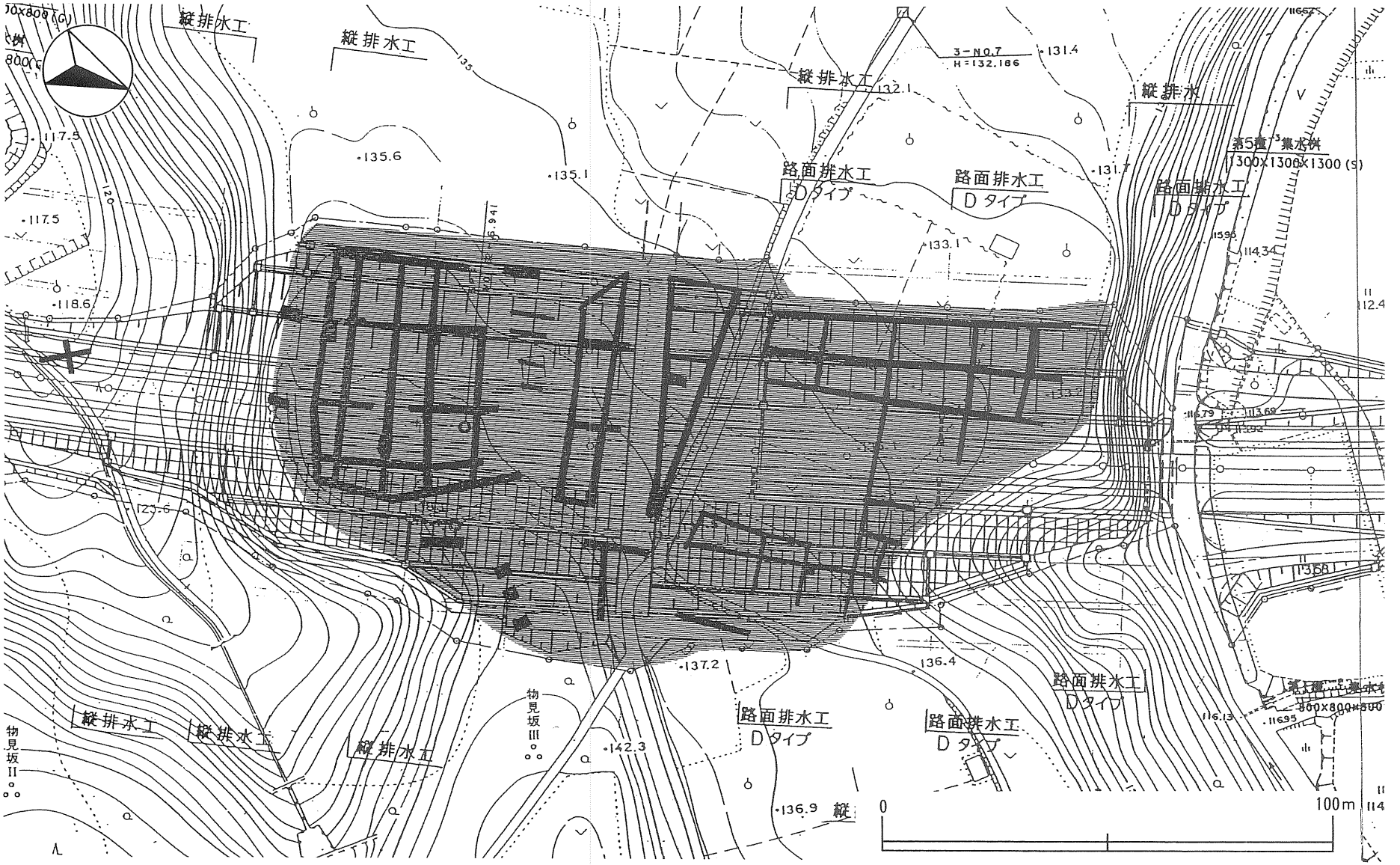
大溝が検出された道路北側の東寄1,600㎡、土坑が検出された道路をまたいだ中央部西寄の1,000㎡、竪穴住居跡や土坑墓が検出された道路南側の南寄2,900㎡の３ヶ所に分かれる。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

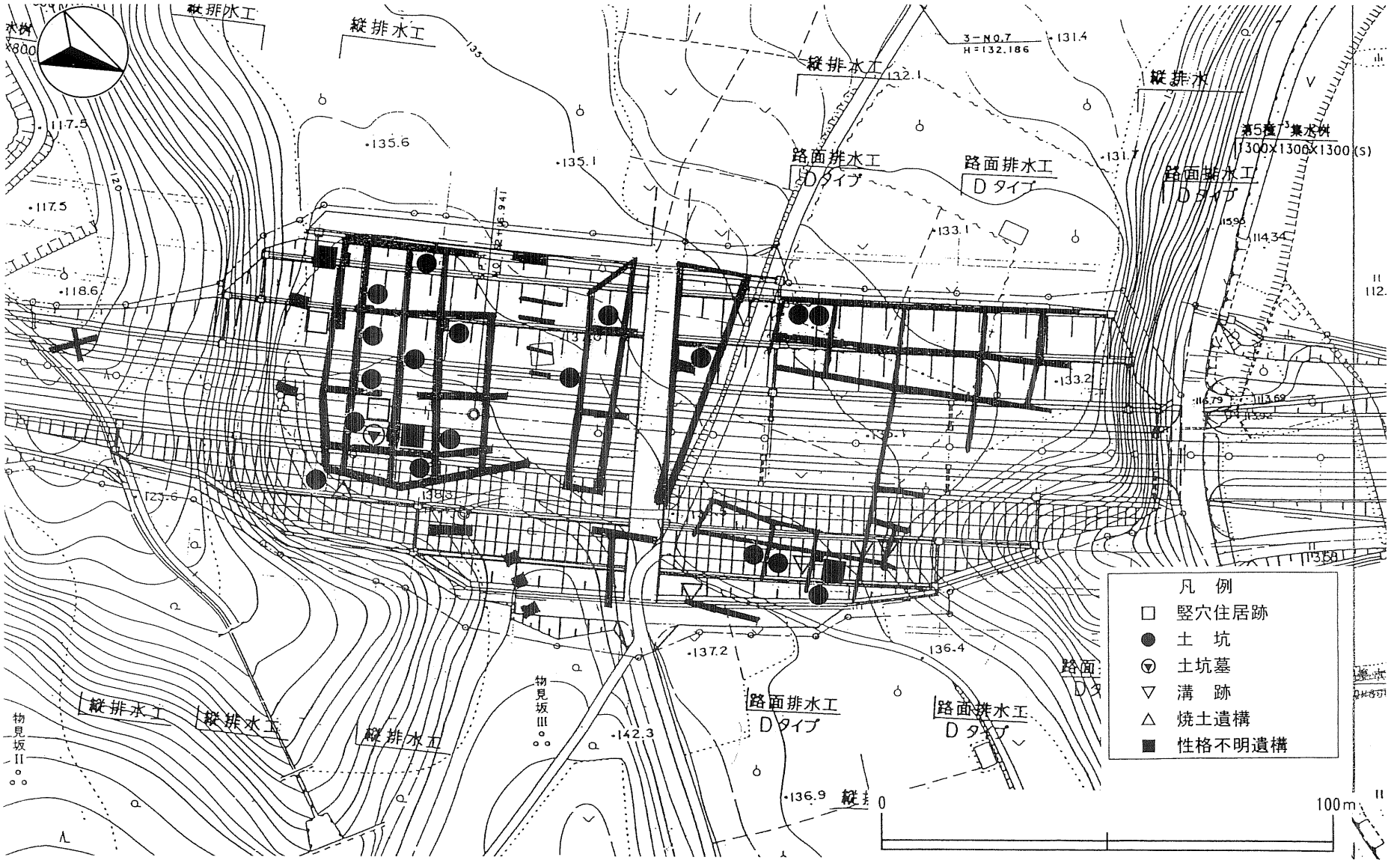
道路北側では大溝のほか土坑が10基程度、道路をまたいだ中央部では土坑が数基、道路南側は竪穴住居跡が３～４軒程度、土坑墓が数基、土坑が10基程度検出されると予想される。また、遺構以外からの遺物は僅少であると考えられる。



第66図　物見坂Ⅲ遺跡位置図



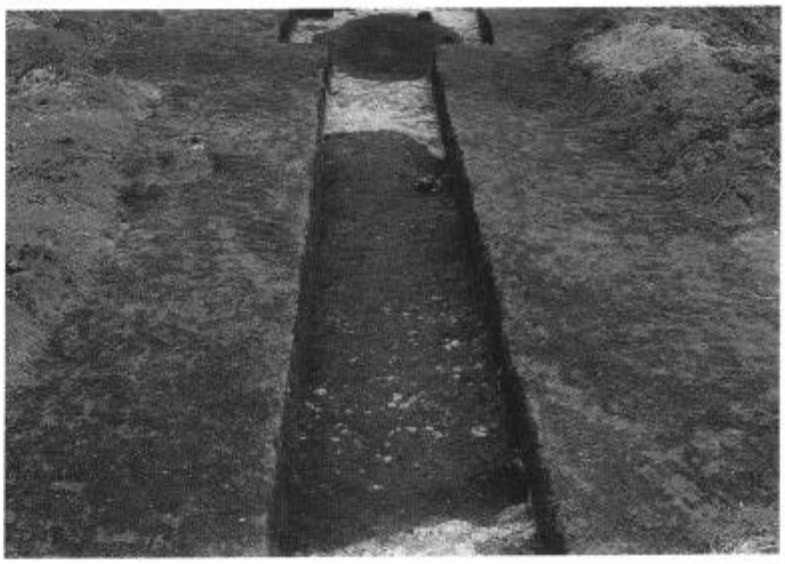
第67図　物見坂Ⅲ遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第68図　物見坂Ⅲ遺跡範囲確認調査結果図

第69図　物見坂Ⅲ遺跡範囲図

物見坂Ⅲ遺跡
大溝検出状況(西から)

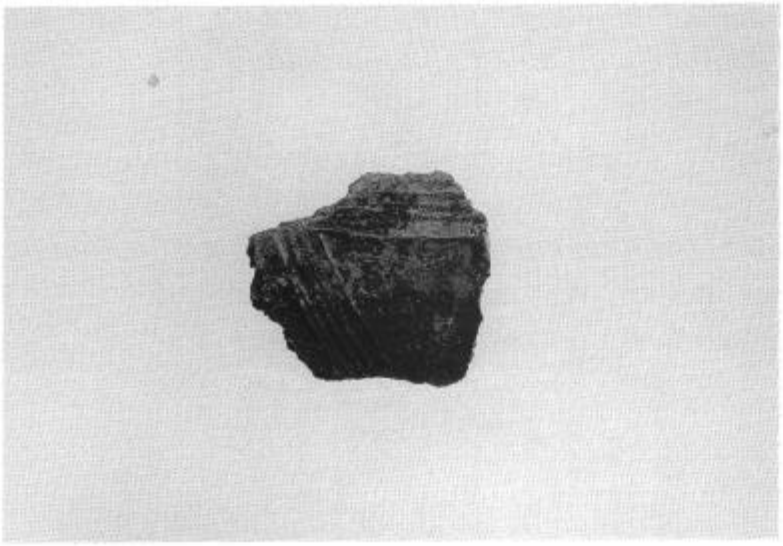


物見坂Ⅲ遺跡
竪穴住居跡検出状況(西から)

物見坂Ⅲ遺跡
竪穴住居跡検出状況(西から)

物見坂Ⅲ遺跡
土坑検出状況(南から)

物見坂Ⅲ遺跡
土坑墓検出状況(東から)



物見坂Ⅲ遺跡
土坑墓より出土した土器片

（３）琴丘能代道路建設事業

①西ノ沢（にしのさわ）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県能代市河戸川字西ノ沢24－１ほか

2　範囲確認調査期間　　平成12年９月25日～10月20日

3　範囲確認調査対象面積　　9,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　0㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡はＪＲ東能代駅から、南西に2.8㎞に位置している。遺跡の立地する浅内台地の縁辺部では、東西方向に深く開析された侵食谷が発達し、先端部は舌状台地となっている。遺跡は標高24m～45mの舌状台地北端にあり、遺跡内最高部の平坦面と、そこから北東、東、南東の三方に緩く傾斜する細尾根からなる。遺跡から北西0.5㎞には柏子所貝塚があるほか、浅内低地を望む台地西側には旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古代の遺跡が点在する。

b　現況

山林であるが伐採済みである。

6　範囲確認調査の方法

遺跡で最も標高の高い平坦面を中心に、そこから各尾根上とそこにある狭小な平坦面に地形を考慮した上でトレンチを設定し調査を行った。また、遺構の存在が予想されそうな部分についてはトレンチを拡張し、その検出に努めた。実質調査面積は1,066㎡で対象面積の11.8％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

［平坦面］

第Ⅰ層　黒褐色土。表土。層厚10㎝。

第Ⅱ層　にぶい黄褐色土。層厚５㎝。削平を受けたあとがある。

第Ⅲ層　褐色土。地山。

［北東部の尾根上平坦面］

第Ⅰ層　黒褐色土。表土。層厚３㎝。

第Ⅱ層　黒色土。層厚15㎝。

第Ⅲ層　暗褐色土。漸移層。層厚５㎝。

第Ⅳ層　褐色土。地山。

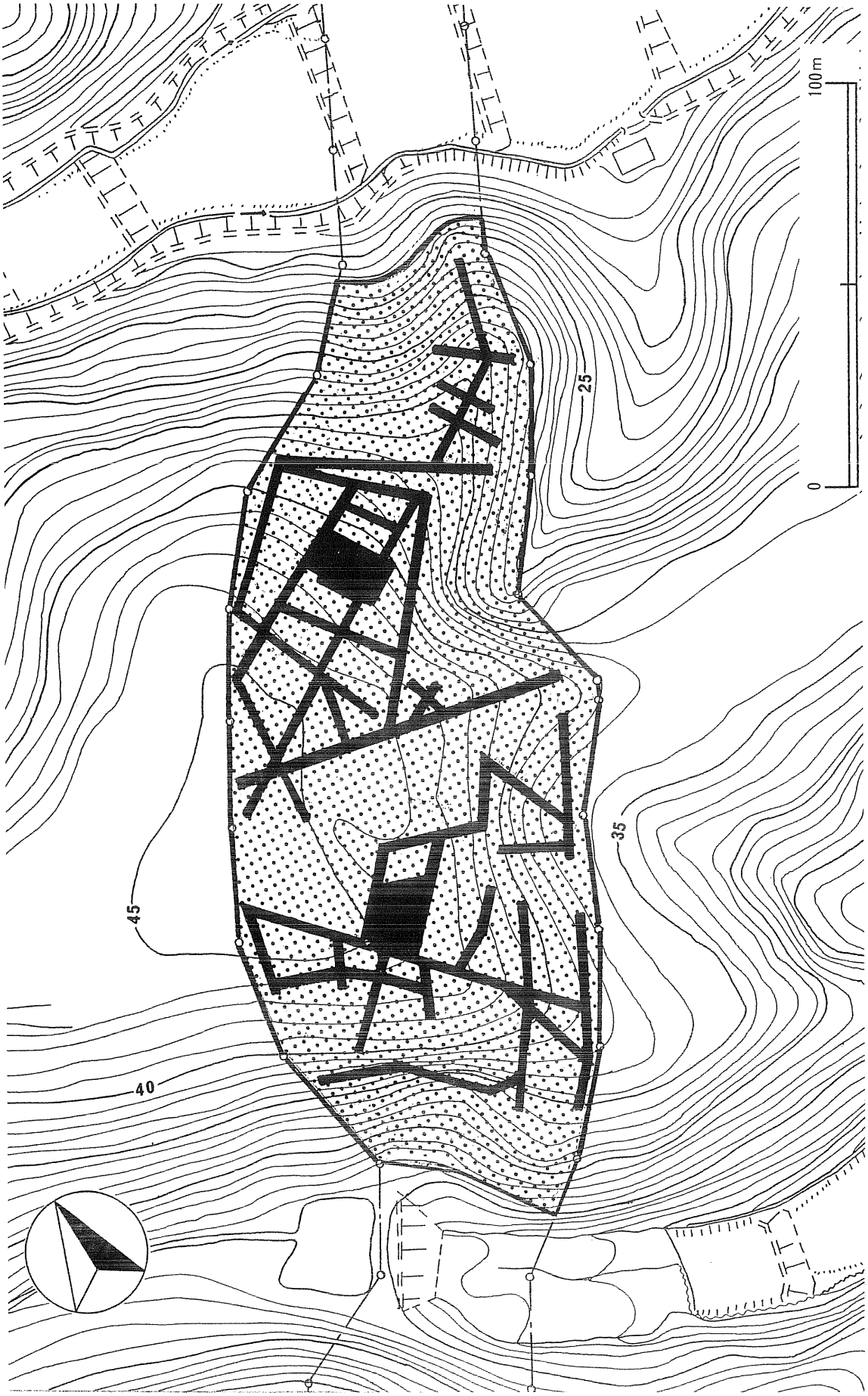
b　検出遺構と出土遺物

遺構は全く検出されなかった。遺物は尾根上の狭小な平坦面から縄文時代中期の土器、石器が出土した。これらの遺物の出土地点を中心にトレンチを拡張し精査した結果、遺物は斜面上部からの流れ込みによるものであること、遺物の広がりがごく狭い範囲（約15㎡）に留まることを確認した。

8　所見

遺構が検出されなかったこと、遺物包含層が存在しないことなどから、今回の対象範囲は、西ノ沢遺跡の東端に位置するとみられ、工事区域内での発掘調査の必要性はないと考えられる。

第70図　西ノ沢遺跡・塞ノ神遺跡位置図



第71図　西ノ沢遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図

②塞ノ神遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県能代市字塞ノ神82－７ほか

2　範囲確認調査期間　　平成12年９月25日～10月20日

3　範囲確認調査対象面積　　10,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　6,000㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡はＪＲ奥羽本線北金岡駅から北西約3.1㎞、相染森集落の南東約800ｍの地点、成合台地北部に位置する。調査区北側、中央、南側はそれぞれ沢地となっており、台地上とは北側と南側で約10ｍ、中央で約５ｍの比高差がある。これらの沢は、調査区の東約750ｍの一ノ沢堤に集まり、そこから北流する。遺跡の標高は約45～50ｍである。

本遺跡を含む米代川流域の地形は、更新世以降の海成・河成堆積物からなる台地、低地、砂丘で構成され、本遺跡の立地する成合台地は砂層および砂礫層からなる。遺跡の北0.7㎞には、縄文時代後・晩期の柏子所貝塚が立地する。

b　現況

調査範囲中央を市道が東西に横断する。道路北側は荒撫地であり、南側は雑木林であるが、木は全て伐採されている。

6　範囲確認調査の方法

計画路線巾杭を基点とし、地形に応じた幅１ｍのトレンチを設定した。また、遺構検出と遺物出土状況に応じてトレンチの増設、拡張を行った。

検出遺構と出土遺物については位置の記録と検出・出土状況の写真撮影を行い、基本層位は主要トレンチ24箇所で確認した。実質調査面積は1,320㎡、対象面積の13.2％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

第Ⅰ層　黒褐色土（10YR３/１）。表土。層厚３～70㎝。

第Ⅱ層　暗褐色土（10YR３/３）。層厚６～18㎝。

第Ⅲ層　褐色土（10YR４/４）。漸移層。層厚４～14㎝。

第Ⅳ層　褐色土（10YR４/６）。地山。

道路南側では部分的に第Ⅱ・Ⅲ層を欠く。北側では、表土に均一に地山粒子が混入し、耕作による近～現代の撹乱を約20㎝程の厚さで受ける区域がみられる。地山までの深さは、中央の沢地で最も深く約1.5ｍであるが、台地上では約20～30㎝と薄い。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、調査区南北端からそれぞれ炭窯１基づつ検出したほか、竪穴住居跡１軒、焼土遺構２基、土坑34基、柱穴様ピット８基、溝跡２条を検出した。土坑は道路北側に多いが、埋土が耕作土のものもあり、近・現代の撹乱も含まれる。

遺物は、主に土師器片が竪穴住居跡からと道路南側の西端部分から出土している。他に縄文土器片４点、フレイク２点が出土している。

8　所見

a　遺跡の種類

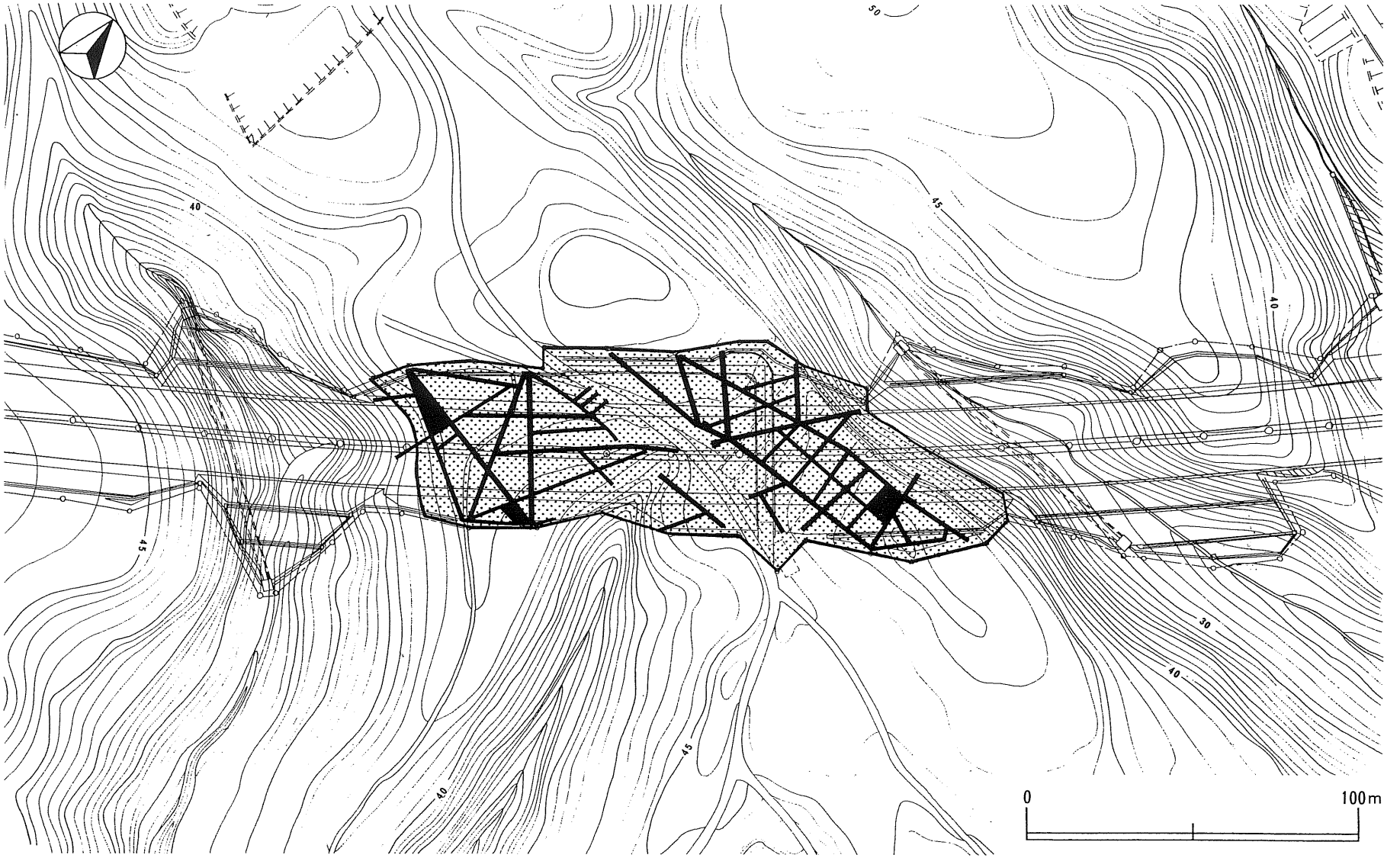
古代の集落跡である。

b 遺跡の範囲と工事区域

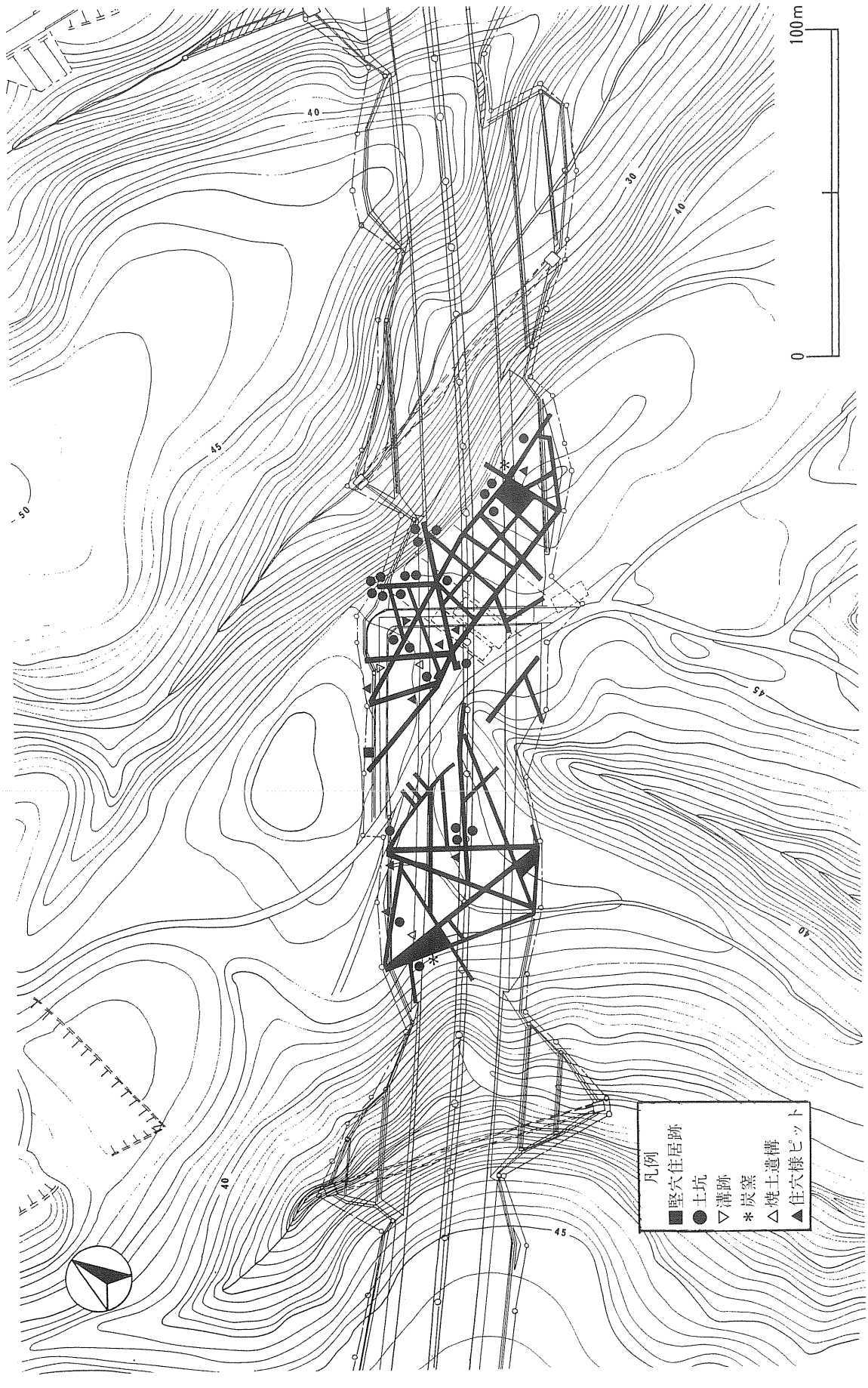
調査を要する範囲は北側と西側の標高約45m以上の区域、6,000㎡である。道路北側の耕作による撹乱層は薄く、地山面での調査が可能であり、調査を要する範囲に含まれる。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

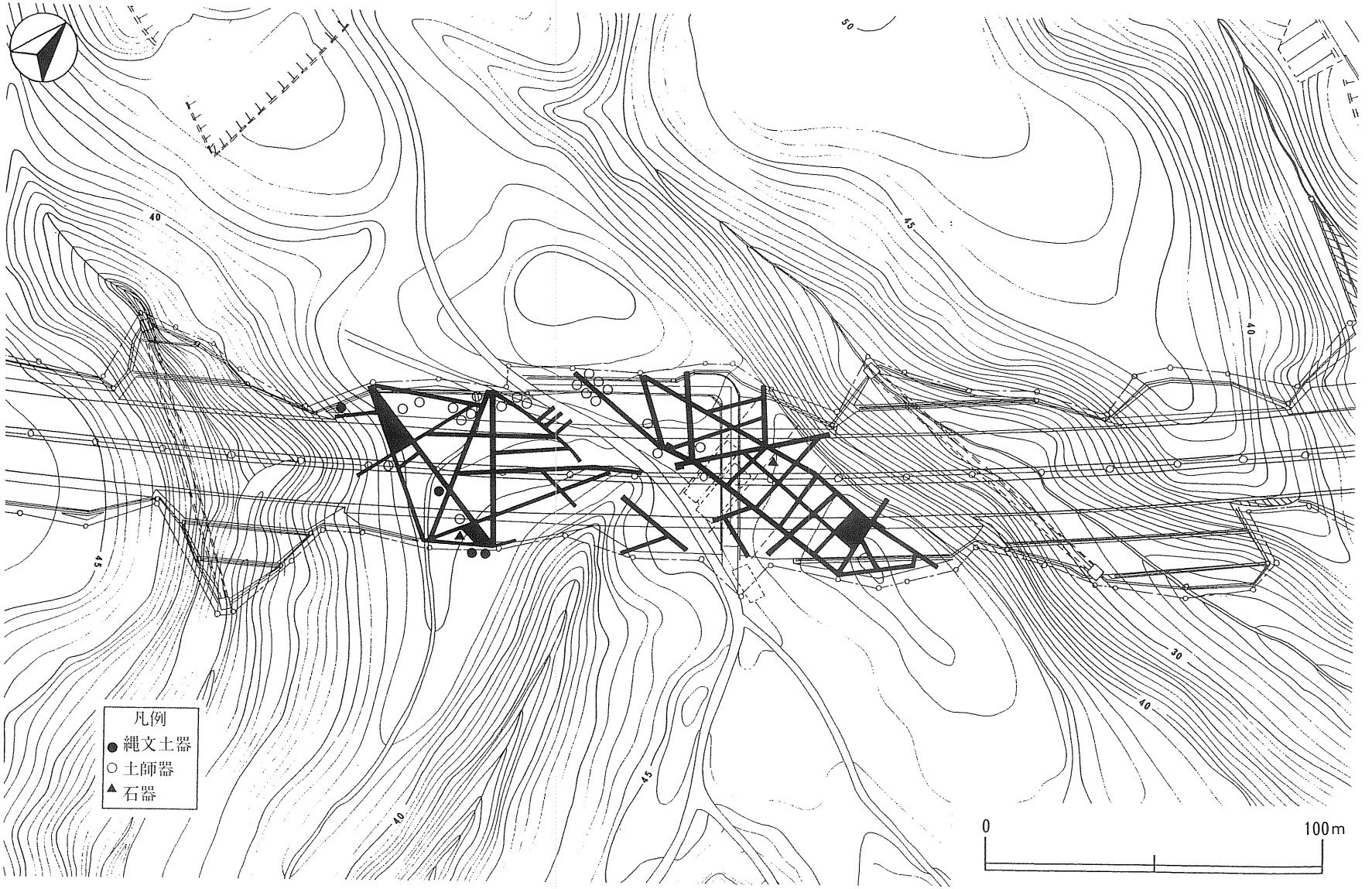
遺構は古代の竪穴住居跡、炭窯、焼土遺構、土坑等が検出されるものと予想される。遺物は土師器を中心に出土し、特に調査区西側の住居跡周辺で多量の出土が予想される。その他の区域では、遺構・遺物とも希薄である。



第72図　塞ノ神遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



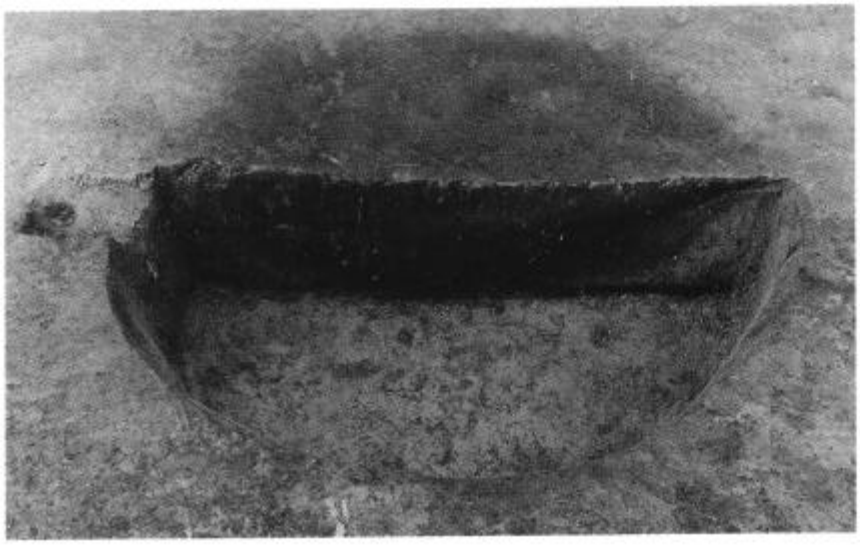
第73図　塞ノ神遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第74図　塞ノ神遺跡範囲確認調査結果図(遺物出土地点)

第75図　塞ノ神遺跡範囲図

塞ノ神遺跡
竪穴住居跡検出状況
（東から）



塞ノ神遺跡
炭窯検出状況（南から）

塞ノ神遺跡
土坑群検出状況
（東から）

（４）国道105号国道道路改築工事

①諏訪岱Ⅱ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町米内沢字諏訪岱111外

2　範囲確認調査期間　　平成12年11月13日～11月15日

3　範囲確認調査対象面積　　6,600㎡

4　工事区域内遺跡面積　　4,300㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は森吉町役場から北西に約300mの阿仁川左岸に所在する。阿仁川は南東から北西に向かって蛇行しながら流れ、沖積低地が両岸に河岸段丘を伴って発達している。遺跡はこの河岸段丘上に位置し、北は阿仁川に向かう急峻な斜面となっており、南には大森山丘陵がみられる。調査区周辺は水田として利用されている。調査区は周辺より１m程高い微高地に立地しており、標高は41～42mである。

b　現況

遺跡の現況は南側は畑地、他は荒蕪地である。

6　範囲確認調査の方法

現地形を考慮して等高線に直交する南北トレンチを設定し、これに交差するように東西トレンチを設け、法面切りバケットを装着したバックホーを使用して遺構の有無を確認した。その後遺構確認面を精査し、遺構・遺物の有無を詳細に記録した。

今回の調査区には、森吉町教育委員会が平成５年度におこなった諏訪岱Ⅱ遺跡の範囲確認調査区と一部重複する箇所がある（第77・78図スクリーントーン部分）。この部分については前回の調査記録があるため、今回はトレンチを設定しなかった。今回の範囲確認調査における試掘面積は486㎡で調査対象面積の7.4％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

調査区内の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層　黒色土。表土。層厚10～50cm。

第Ⅱ層　黒色土。層厚０～20cm。

第Ⅲ層　黒褐色土。層厚０～20cm。

第Ⅳ層　褐色土。遺構確認面。層厚30～100cm。

第Ⅴ層　灰白色土。地山。

調査区北部の１・４トレンチ北端部は阿仁川に向かって急峻な斜面となっており、Ⅰ層が10～20cm堆積し、Ⅰ層下には砂礫層が分布する。４トレンチ南端の試掘坑では、Ⅰ層が20～30cm、Ⅱ層が10～20cm、Ⅲ層が10～20cm、Ⅳ層が40cm、Ⅴ層が50～60cm堆積しており、さらにⅤ層下から砂礫層が確認されている。北側斜面で確認された砂礫層はこのⅤ層下の層と一致するものと考えられる。１トレンチは南側ではⅠ層が20～30cm、Ⅱ層が20cm、Ⅲ層が20cm、５トレンチ交点付近ではⅠ層40～50cm、Ⅱ層が20cm、Ⅲ層が10～20cm、北側斜面際ではⅠ層が10cm、Ⅱ層が10cm、Ⅲ層が５cm堆積している。２トレンチではⅠ層が20～35cm、Ⅱ層が10～20cm、Ⅲ層が10～20cm堆積する。

調査区南部の７トレンチ西側ではⅠ層が10～20cm堆積し、Ⅱ・Ⅲ層がなく、Ⅰ層下には耕作による撹乱層が10cm程確認されている。７・８トレンチ交点付近ではⅠ層が20～30cm、Ⅱ層が10～20cm、Ⅲ層が10～20cm、７トレンチ東側ではⅠ層が10～20cm、Ⅱ層が10cm、Ⅲ層が10～15cm堆積する。調査区南部は、畑地として利用されていたため、調査区北部とくらべて撹乱を多く受けている。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、１・２・４・５トレンチから土坑、焼土遺構が検出された。４トレンチで検出された土坑は径1.5m程の隅丸方形を呈する。１トレンチ東側に位置する1993年度調査区からは、平安時代の竪穴住居跡が２軒検出されている。

遺物は６トレンチから縄文土器片が１点出土したのみである。

8　所見

a　遺跡の種類

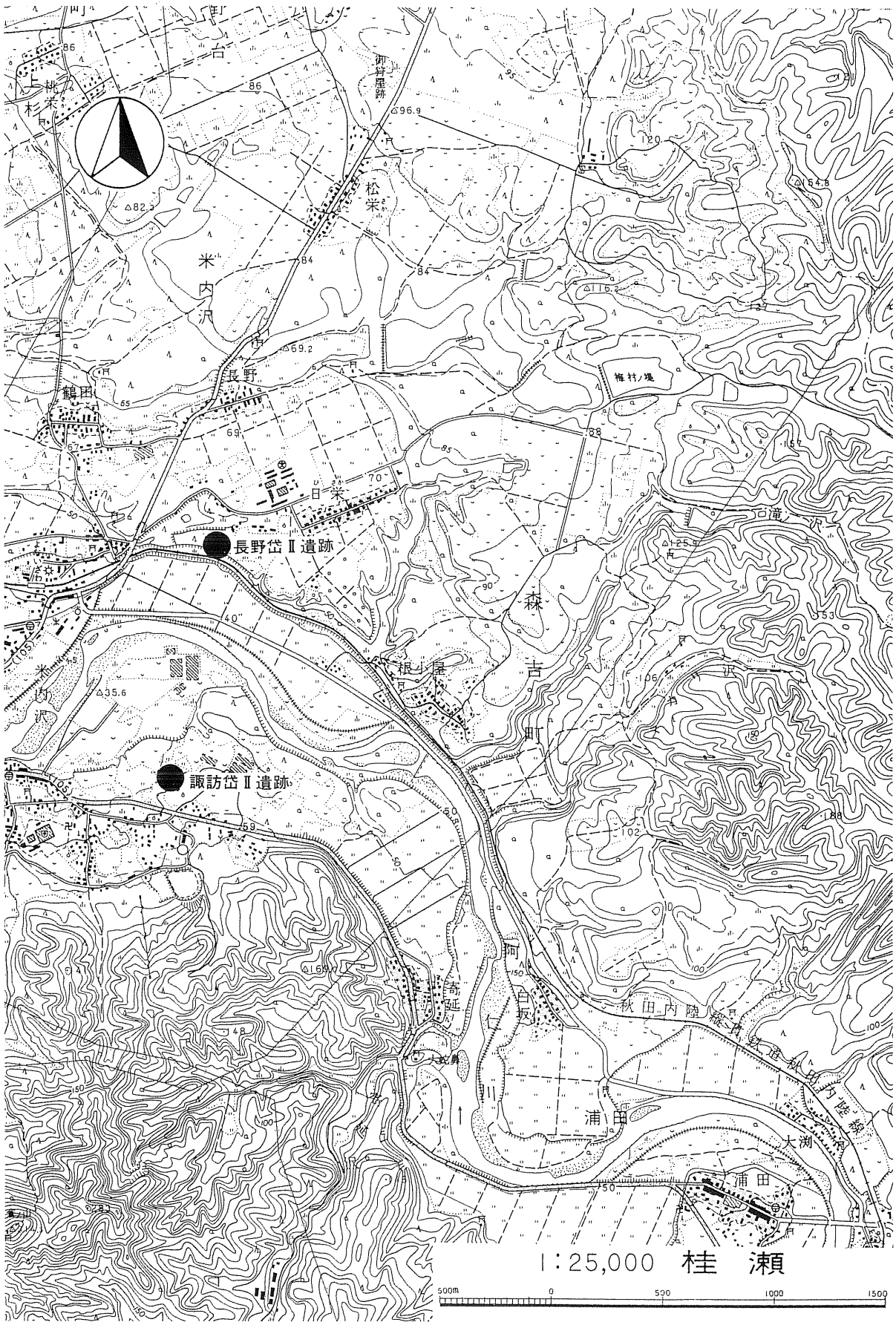
縄文時代の遺物包含地及び平安時代の集落跡であると考えられる。

b　遺跡の範囲と工事区域

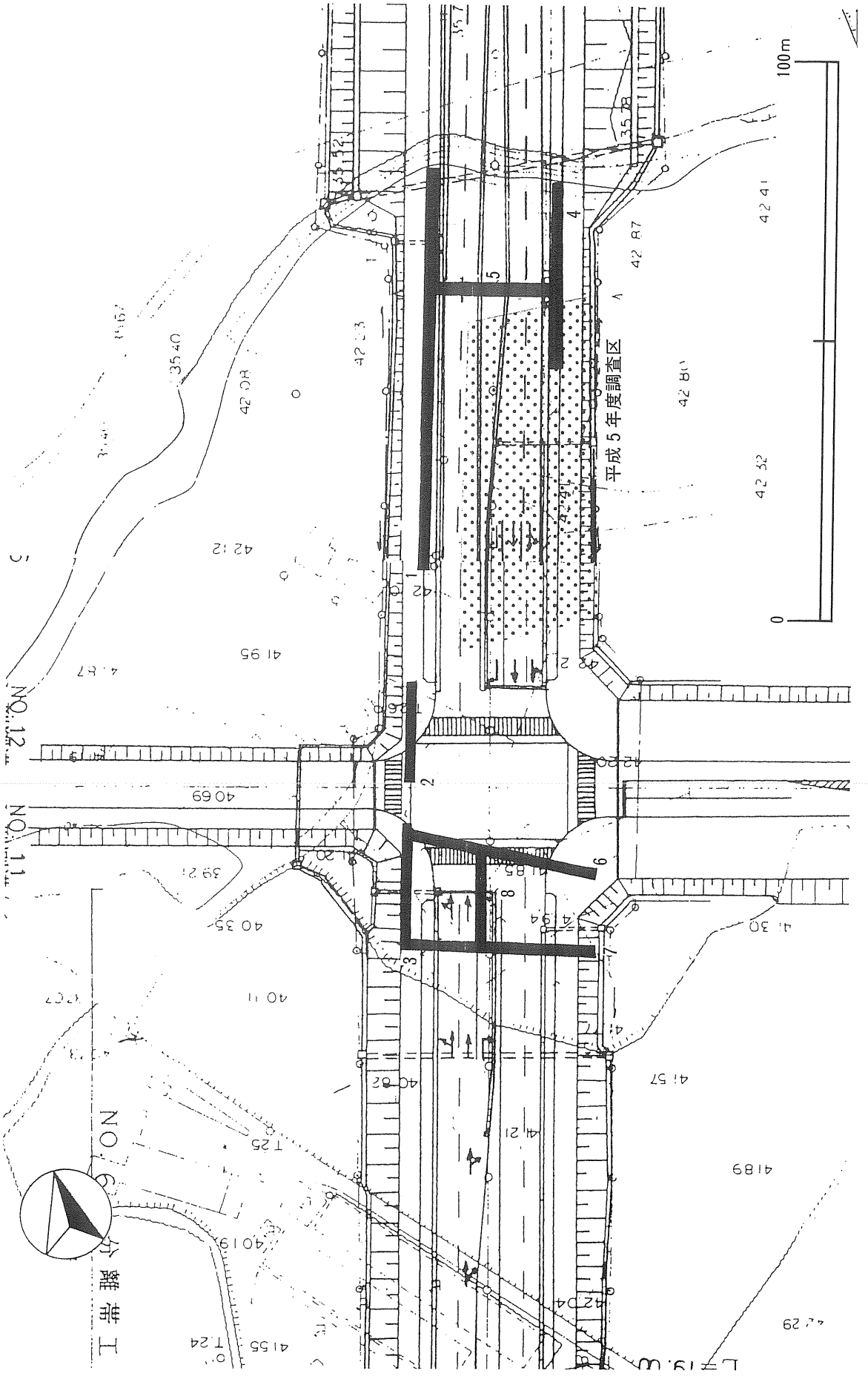
北側斜面と畑による撹乱を受けている南部（３・６～８トレンチ）を除く微高地が遺跡の範囲であると考えられる。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

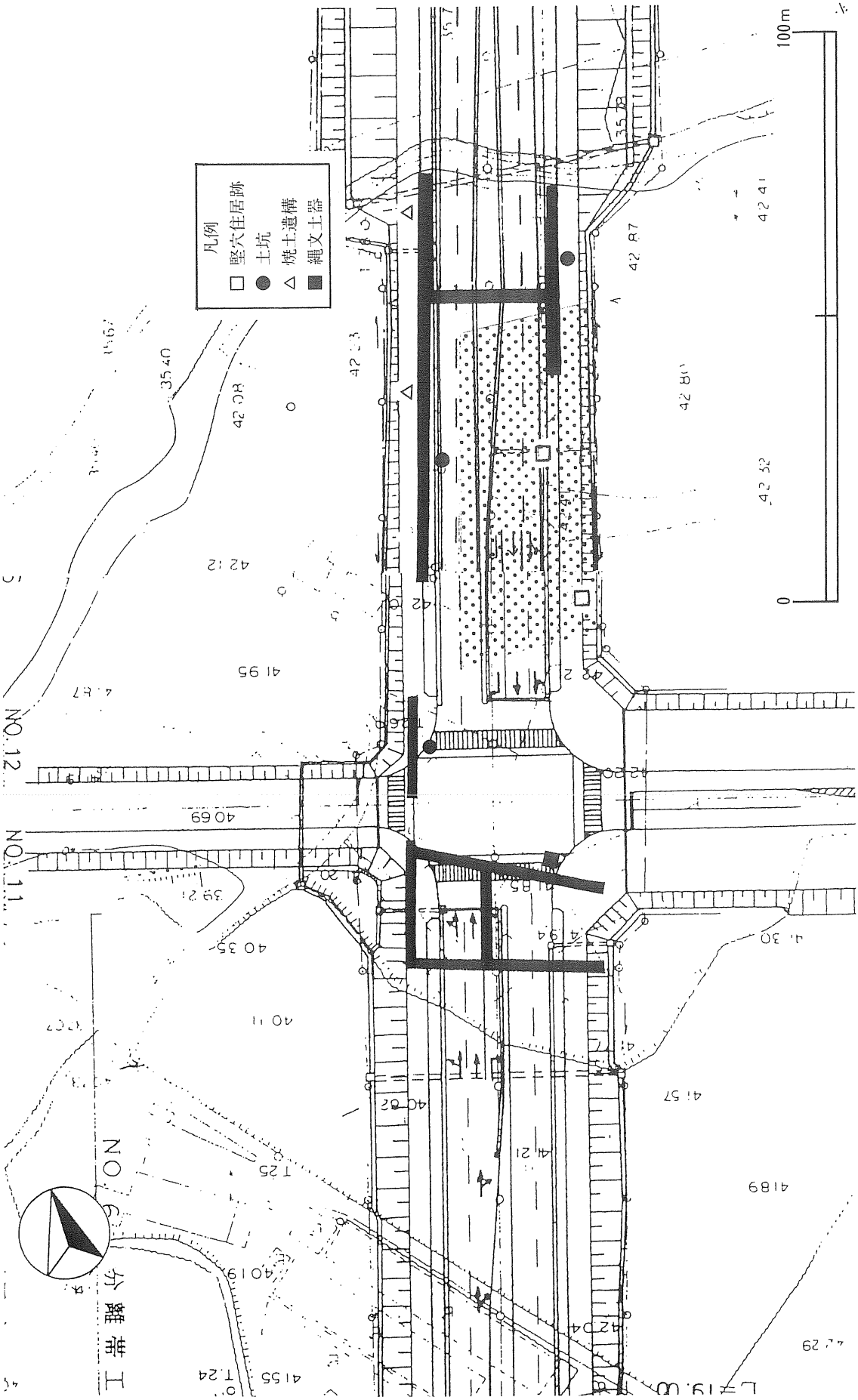
遺構では、平安時代の竪穴住居跡のほか、土坑・柱穴・焼土遺構等が検出され、遺物は縄文時代と平安時代の土器が出土するものと予想される。



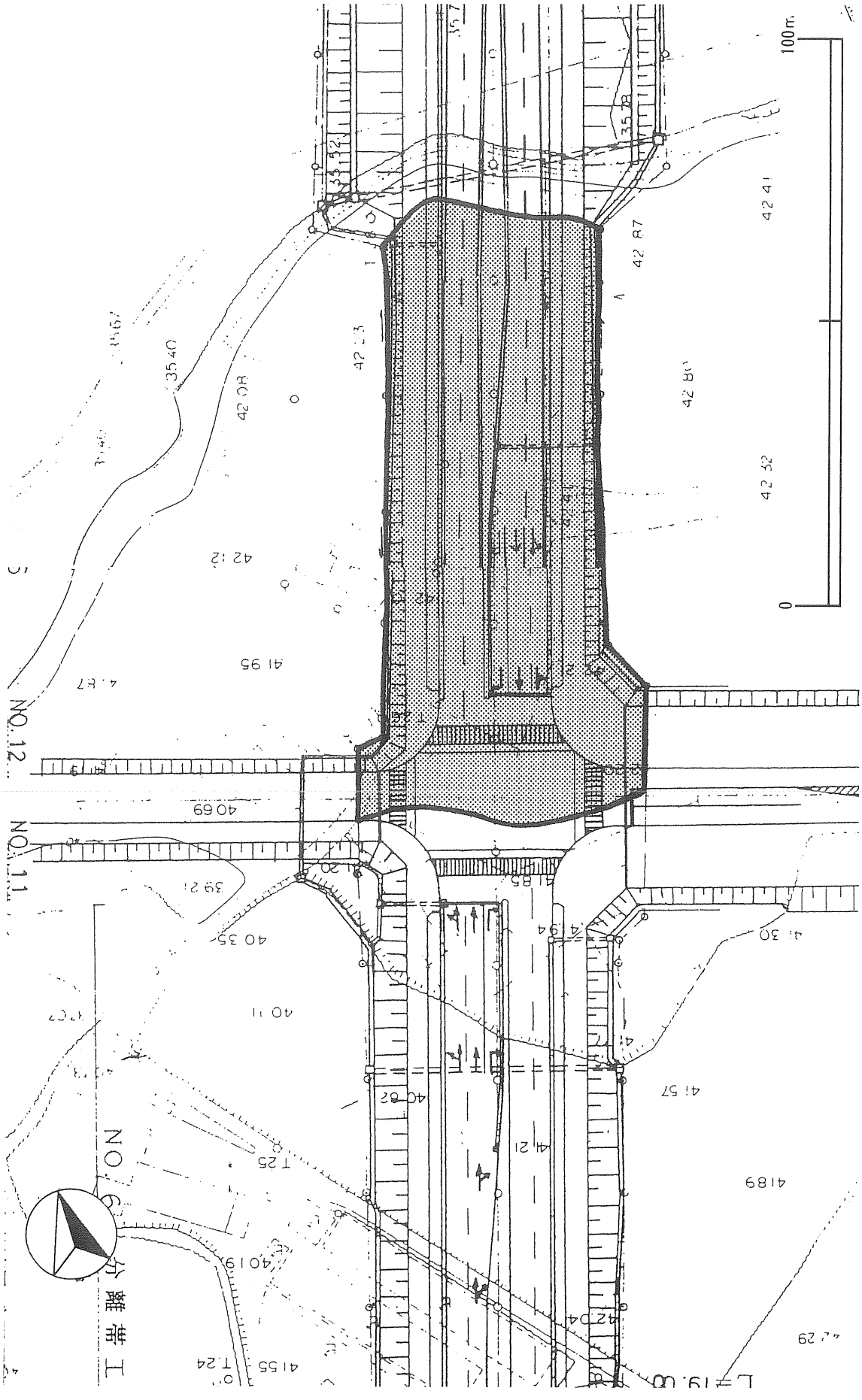
第76図　諏訪岱Ⅱ遺跡・長野岱Ⅲ遺跡位置図



第77図　諏訪岱Ⅱ遺跡トレンチ位置図

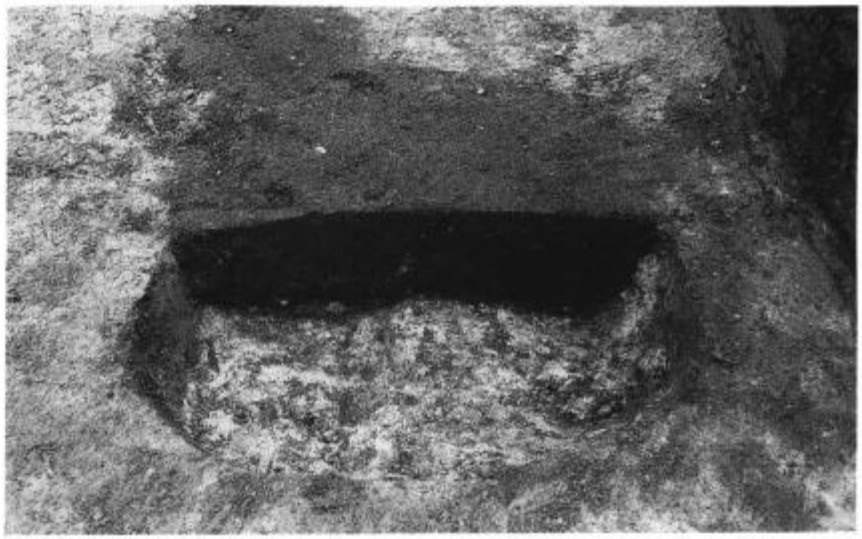


第78図　諏訪岱Ⅱ遺跡調査結果図（遺構検出地点・遺物出土地点）



第79図　諏訪岱Ⅱ遺跡範囲図

諏訪岱Ⅱ遺跡
調査区遠景(南から)



諏訪岱Ⅱ遺跡
土坑断面(南から)

諏訪岱Ⅱ遺跡
土坑検出状況(西から)

②長野岱（ながのたい）Ⅲ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町米内沢字長野岱149－２外

2　範囲確認調査期間　　平成12年11月８日～10日

3　範囲確認調査対象面積　　6,600㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,200㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

長野岱Ⅲ遺跡は、森吉町役場の北1.3km、阿仁川右岸の台地縁辺部に立地する。遺跡のある台地は、大野台台地の南東部にあたり、隣接する阿仁川低地との境界は比高20m前後の急崖をなしている。遺跡全体は西に突きだした舌状台地である。なお、本遺跡北東0.4kmには県立米内沢高校があり、本遺跡の南側の低地には台地末端との境界に沿って秋田内陸縦貫鉄道がほぼ東西に走っている。

大野台台地は阿仁川による河成段丘であるが、地表面は十和田火山灰が覆っているため、形態的にはローム段丘と称されることがある。本遺跡およびその周囲は、地形的には低中位砂礫段丘に属し、表層地質は第四紀更新世の火山灰および砂礫より成る未固結堆積物である。

b　現況

中央平坦部の北側は高さ70cmの地境堤をはさんでスギを主とする樹林地である。中央は荒蕪地で雑草が生い茂っており、一部は鉄道用の資材置場として利用されている。南側には未舗装道路が東西に走っている。南端の台地先端部は鉄道法面で削られている。

6　範囲確認調査の方法

地形に応じてトレンチを設定し、中央荒蕪地は重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。中央荒蕪地の南端では未舗装道路以南への遺跡の広がりを確かめるため、1.5×1.5mほどの試掘坑３箇所を設定し、人力で表土除去を行ったのち同じ作業を繰り返した。実際に範囲確認調査を行った部分は、用地買収済の中央荒蕪地4,140㎡のみであり、他は未買収のため実施していない。範囲確認調査における試掘面積は455㎡で範囲確認調査全対象面積の6.9％に相当する。

7　範囲確認調査結果

a　層序

遺跡の基本層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　黒色土。表土。層厚40～50cm。

第Ⅱ層　黒褐色土。層厚10～25cm。遺構確認面。

第Ⅲ層　黄褐色土。地山。

中央荒蕪地の北側、１トレンチ付近では北西に向かって開く沢があり、この部分では各層とも層厚を増し、地山までは２m以上の深さがある。表土下80～90cmに厚さ５～10cmの十和田ａ降下火山灰の堆積が認められ、また、地山であるⅢ層黄褐色土も白色粘土化している。中央荒蕪地の南側、未舗装道路との境界付近ではⅠ層の上に砕石を交えた道路造成土が盛られている。

b　検出遺構と出土遺物

検出した遺構は竪穴住居跡４軒、土坑２基、ピット10基である。すべて第４トレンチを含め舌状台

地の先端に近い西側から検出している。竪穴住居跡はいずれも隅丸方形のプランを呈し、若干ではあるが確認面から土師器を出土しているので、北側の沢に向かって開く沢の両側にまたがる平安時代の集落の存在が推定できる。

遺物は極めて少なく、前項に記した沢にも入っていない。古代竪穴住居にからんで土師器片2点、鉄滓2点を確認したほかは、縄文時代晩期から弥生時代にかけてのものと考えられる土器が第4トレンチ南側でまとまって出土しただけである。

8　所見

a　遺跡の種類

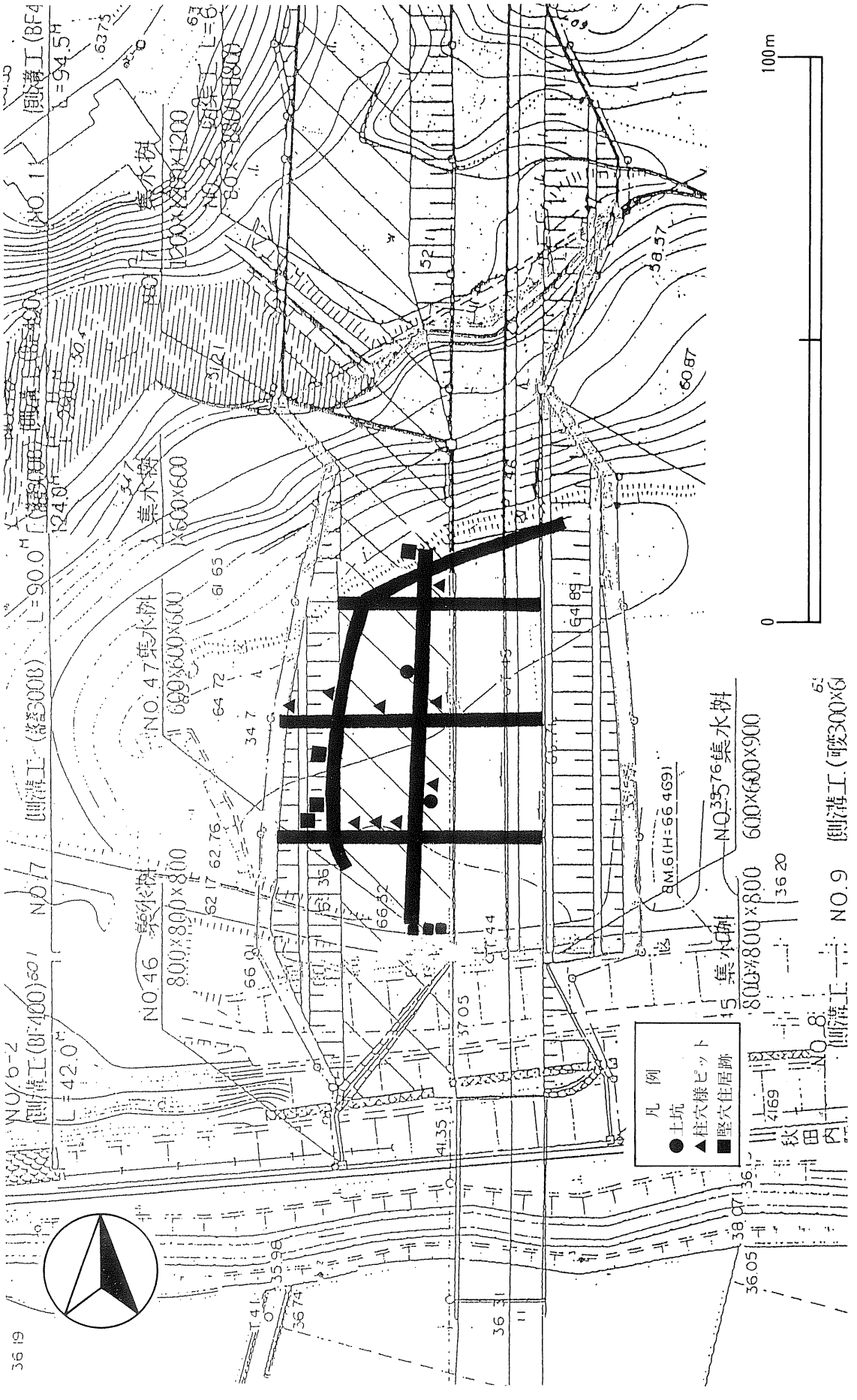
縄文時代晩期もしくは弥生時代の遺物包含地及び平安時代の集落跡であると考えられる。

b　遺跡の範囲と工事区域

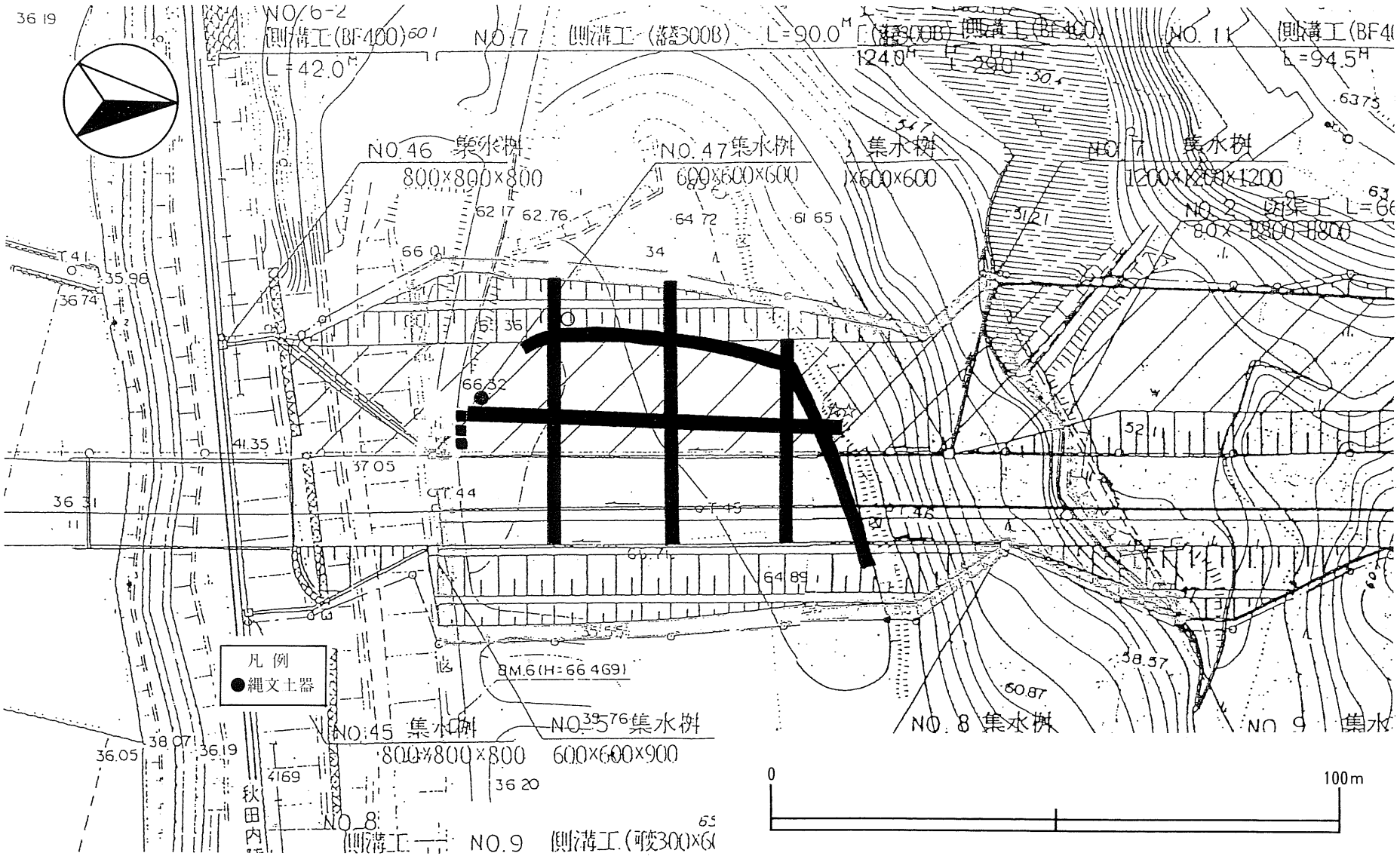
範囲確認調査の結果、計画路線中央の南北トレンチを境にしてその西側から遺構を検出したが、東側からの遺構・遺物の検出はなかった。したがって、中央荒蕪地の西側半分が本調査を要する範囲であり、その南北の広がりは北のスギ樹林地については、地境堤付近の平坦地まで、南側は未舗装道路までである。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

沢の南側を中心にして平安時代の集落跡が広がる可能性がある。

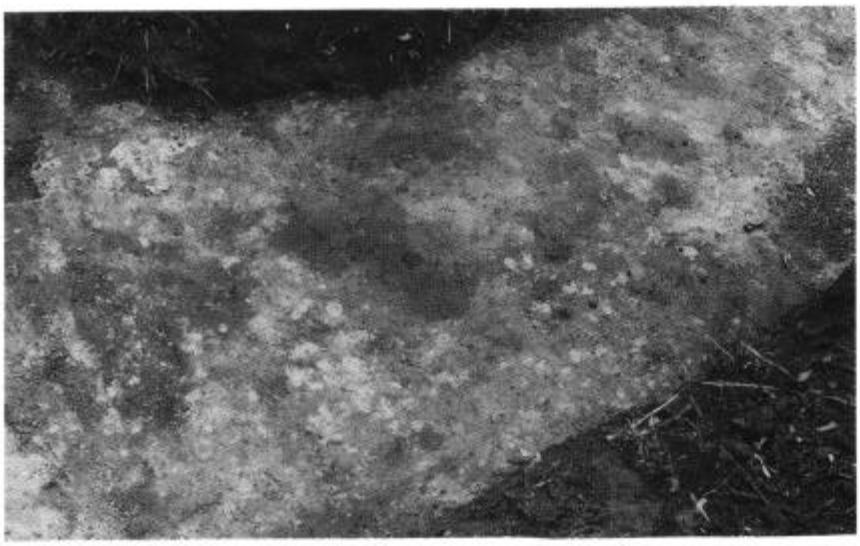


第80図　長野岱Ⅲ遺跡結果図(遺構検出地点)



第81図　長野岱Ⅲ遺跡結果図(遺物出土地点)

4トレンチ北端
竪穴住居跡の床面



3・5トレンチ交点
竪穴住居跡確認状況

4トレンチ南端
縄文晩期頃の土器

（５）主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業

①開防（かいぼう）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡五城目町小池字開防49－２外

2　範囲確認調査期間　　平成12年11月27日～12月１日

3　範囲確認調査対象面積　　16,600㎡

4　工事区域内遺跡面積　　7,400㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線八郎潟駅から東へ約1.8㎞の地点に位置する。太平山と馬場目岳を尾根で結ぶ東部丘陵から流れ出る馬場目川の旧河道（標高４～５ｍ）と両岸の沖積地（標高６～７ｍ）に立地し、現在の馬場目川の右岸からは北に約0.3㎞である。また遺跡から約1.2㎞南西の馬場目川左岸には古代の櫓を伴う柵列が確認された石崎遺跡がある。

b　現況

水田と一部が畑地である。

6　範囲確認調査の方法

調査は土地利用状況を考慮し、水田の区画に沿うように幅１ｍのトレンチとこれに直交するトレンチを設定した。一部２×３ｍの試掘坑を設けての調査も行った。また旧河道は計画路線に平行するトレンチを設定し、河床確認のため２～３ｍの深掘りを行った。遺構は位置と規模を記載するとともに可能な限り掘り込み面の把握に努めた。遺物は出土位置と層位を記録した。実質調査面積は459㎡で対象面積の2.8％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

遺跡の基本層序と層厚は以下のとおりである。

［旧河道］

第Ⅰ層　暗褐色土（10YR３/３）。耕作土。層厚20～30㎝。

第Ⅱ層　黄褐色土（10YR５/６～５/８）。層厚15㎝。場所によってはⅡ層は認められない。

第Ⅲ層　暗青灰色粘土（５BG３/１～４/１）。層厚１～２ｍ。遺物包含層。

［沖積地］

第Ⅰ層　暗褐色土（10YR３/３）。耕作土。層厚20～30㎝。

第Ⅱ層　オリーブ灰色土（10Y５/２）。旧耕作土。層厚５～10㎝。

第Ⅲ層　暗褐色土（10YR３/３）。層厚５～20㎝。遺物包含層。

第Ⅳ層　暗褐色土～褐色土（10YR３/３～４/４）。漸移層。層厚10㎝。遺構確認面。

第Ⅴ層　褐色土（10YR４/４）。地山。

Ⅲ層は土師器・須恵器が出土する遺物包含層である。遺構はⅣ層で確認したが、トレンチ壁面の土層観察からⅢ層を掘り込んでいることを確認した。標高が高い部分ではⅢ層・Ⅳ層は認められず、水田造成によって削平されたものと考えられる。表土からⅤ層までは20～30㎝であった。

b　検出遺構と出土遺物

調査対象範囲の中央部で方形の竪穴住居跡、円形の土坑、柱穴、焼土遺構を検出した。遺物は西側と中央部で土師器、須恵器が多く、他に鉄滓が２点出土している。中には内外面黒色研磨された土器もある。旧河道では遺構も遺物も検出されなかった。

8　所見

a　遺跡の種類

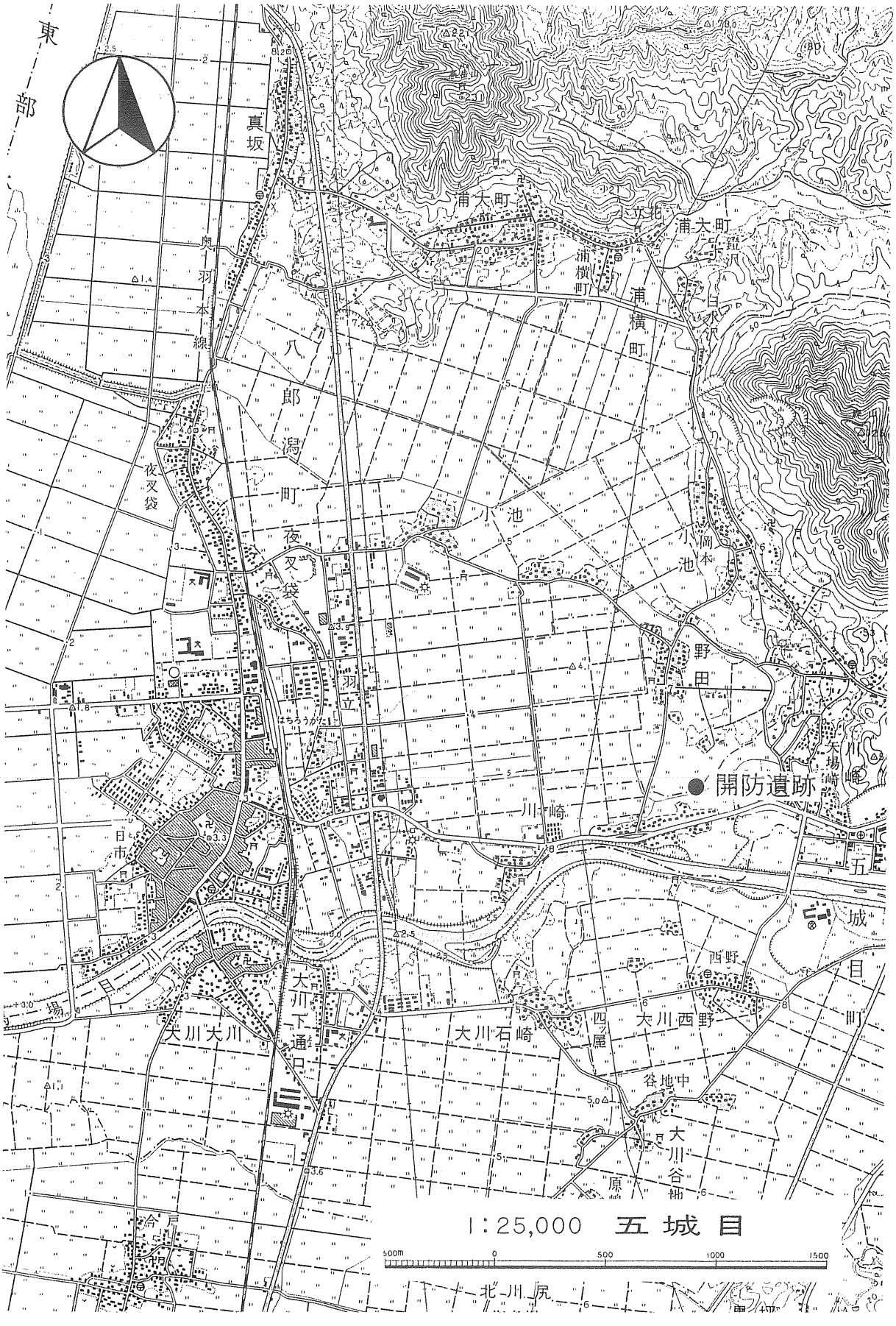
平安時代の集落跡である。

b　遺跡の範囲と工事区域

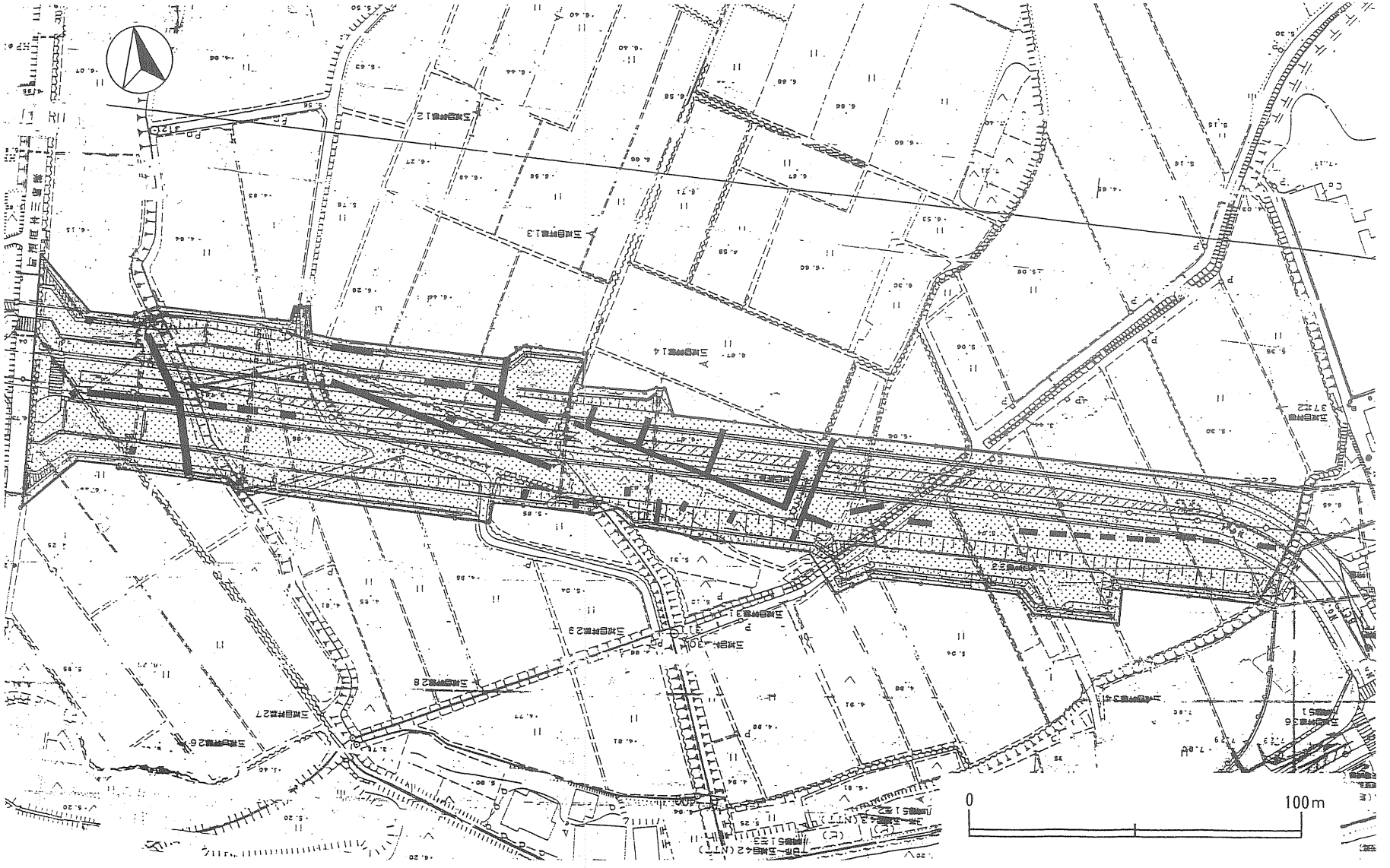
遺跡は旧河道に沿う水田部分（標高６ｍ以上）に広がるものと判断される。このうち工事区域内における遺跡範囲は遺跡全体の南端部と考えられる。

c　発掘調査時に予想される遺構遺物

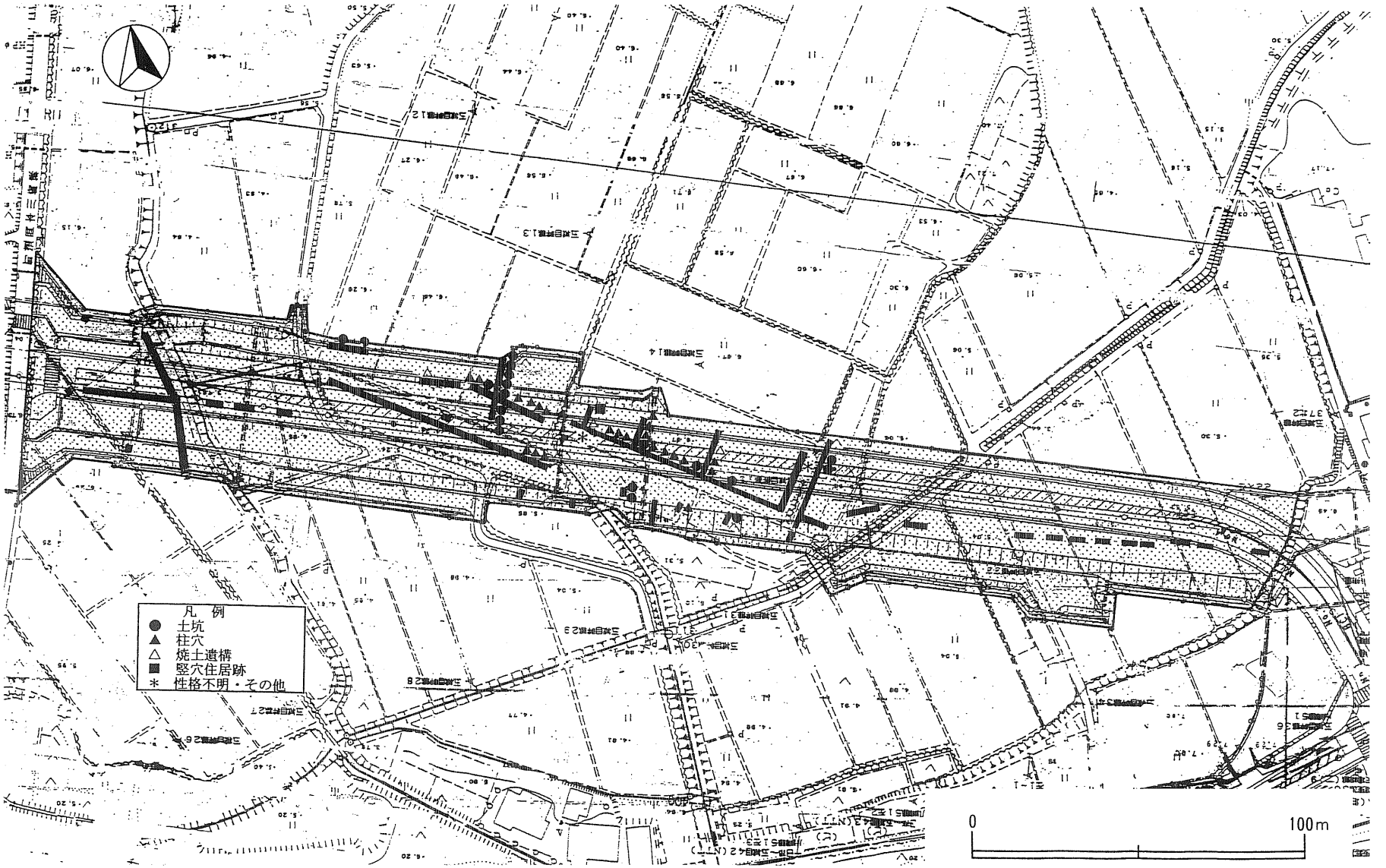
遺構は平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑などが100基、遺物は土師器、須恵器を主体に70箱ほど出土するものと予想される。



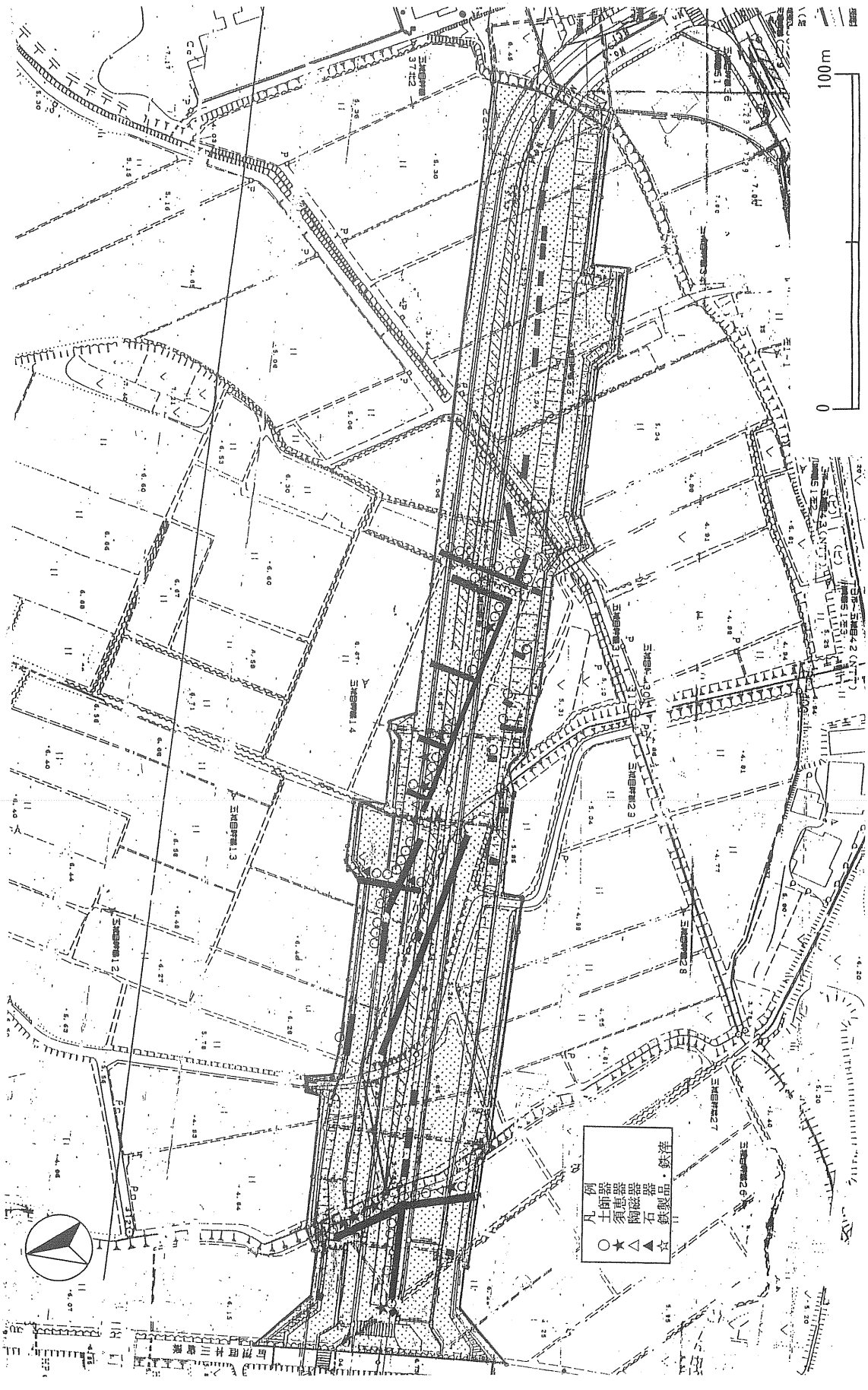
第82図　開防遺跡位置図



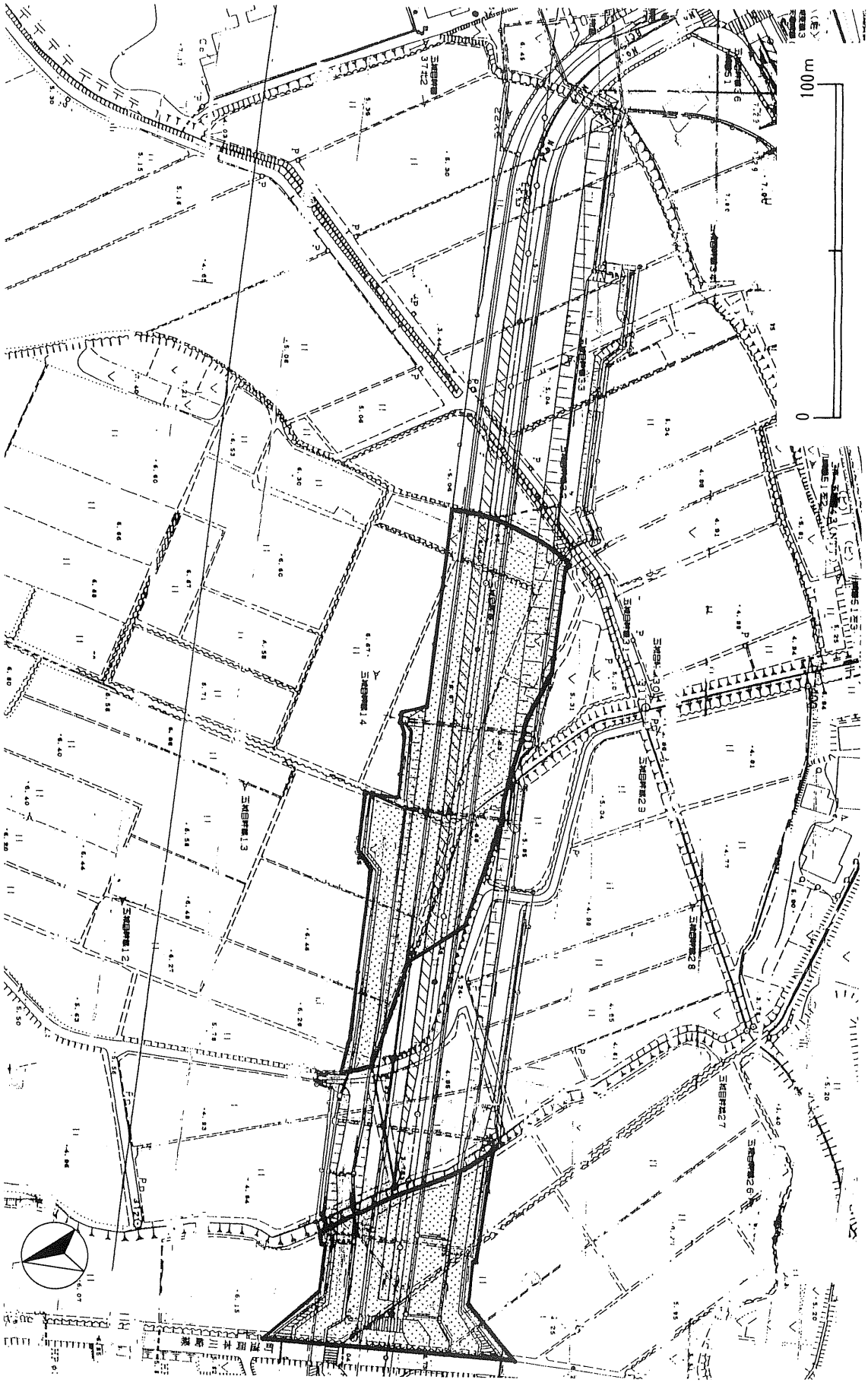
第83図　開防遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第84図　開防遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第85図　開防遺跡範囲確認調査結果図(遺物出土地点)



第86図　開防遺跡範囲図

開防遺跡
遺跡遠景（北東から）

開防遺跡
土坑検出状況（南から）

開防遺跡
遺物検出状況（西から）

（６）主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業

①一ノ関（いちのせき）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県秋田市太平山谷字一ノ関52－１

2　範囲確認調査期間　　平成12年12月11日～12月15日

3　範囲確認調査対象面積　　2,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　0㎡

5　遺跡の立地と現状

a　立地

遺跡は、秋田市太平山谷地区上皿見内集落の西側、一ノ関橋に面する太平川右岸の河岸段丘上に位置する。調査対象範囲は、主要地方道秋田・岩見・船岡線に沿って北西～南東に細長く延び、標高はこの道路より３ｍ程度高く、40ｍ前後である。周辺の太平川流域には、縄文時代の遺物包含地が点在している。

b　現状

調査対象範囲の東側は畑地、西側は原野、中央は土取りされている。

6　範囲確認調査の方法

細長く延びる調査対象範囲の長軸方向および、それに直交するように10本のトレンチを設定し、地山面まで掘り下げて遺構・遺物の有無を確認した。出土遺物はトレンチ名と出土地点を付し、位置を記録した。実質調査面積は144㎡で対象面積の7.2％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

基本層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　黒褐色土（7.5ＹＲ３/２）。表土（耕作土）。層厚20～40㎝。

第Ⅱ層　暗褐色土（10ＹＲ３/３）～褐色（10ＹＲ４/４）。地山漸移層。層厚10～20㎝。

第Ⅲ層　褐色（10ＹＲ４/６）。地山。

畑地についても耕作の深さはそれほどではなく、Ⅱ層までは達していない。また、Ⅰ層下半からⅢ層には拳大～人頭大程の円礫が多く見られた。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は全く検出されなかった。遺物は調査範囲全般にわたって主にⅠ層から縄文後期の土器片とスクレーパー・剥片・残核などの石器が出土した。

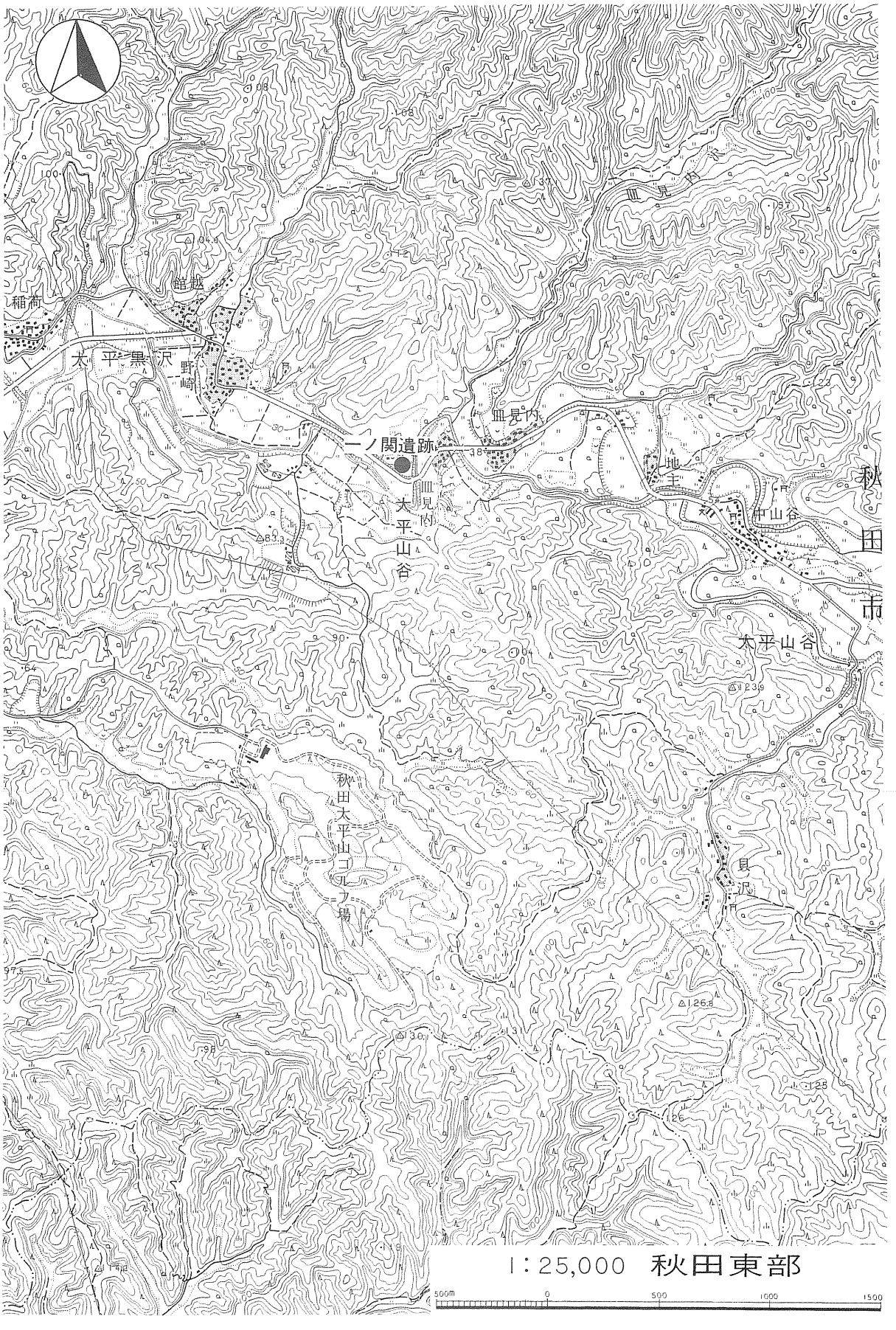
8　所見

a　遺跡の種類

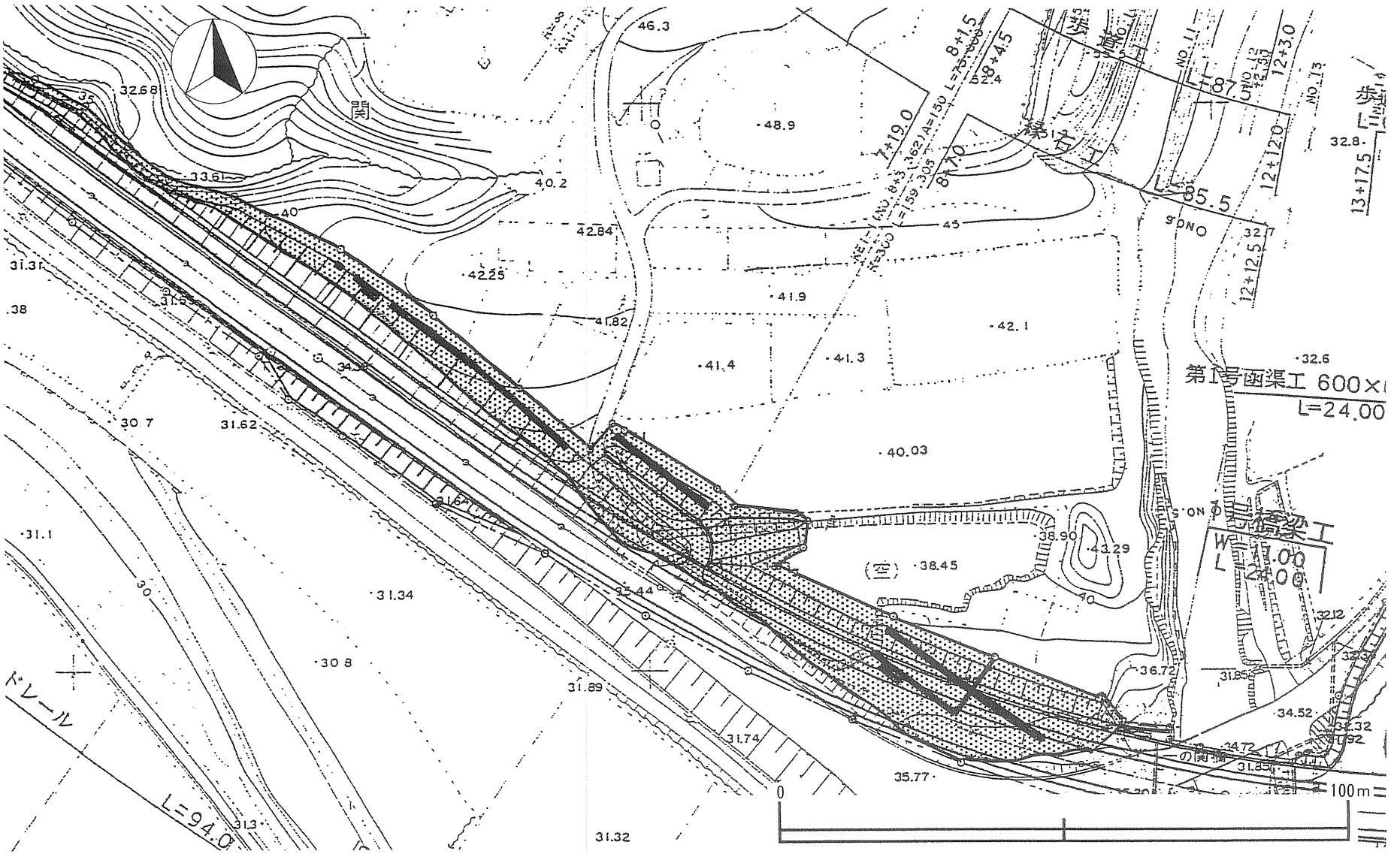
縄文時代後期の遺物包含地である。

b　遺跡の範囲と工事区域

遺構が検出されなかったこと、遺物は耕作土中から出土し、斜面上部からの流れ込みによると考えられることから、工事区域内での発掘調査の必要性はないと考えられる。



第87図　一ノ関遺跡位置図



第88図　一ノ関遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図

（７）県営ほ場整備事業　土崎・小荒川地区

①厨川谷地（くりやがわやち）・厨川谷地Ⅱ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県仙北郡千畑町土崎字厨川谷地11－１外

2　範囲確認調査期間　　平成12年12月４日～12月15日

3　範囲確認調査対象面積　　65,900㎡

4　工事区域内遺跡面積　　厨川谷地：14,000㎡　　厨川谷地Ⅱ：1,200㎡

（未調査区域を除く）

5　遺跡の立地と現況

a　立地

厨川谷地遺跡は、ＪＲ奥羽本線大曲駅から真東へ6.5㎞にあり、北西に位置する国指定史跡の払田柵跡から約500ｍの距離に位置する。

遺跡は、横手盆地北側の仙北平野中央部にあり、南側は雄物川の支流である丸子川に、北側は丸子川に合流する川口川に挟まれた低地に立地する。周辺は奥羽山脈に隣接した扇状地で、東から西側にかけて緩やかな等高線を示す肥沃な水田地帯である。明治の終わり頃から、耕地整理や暗渠排水の設置など、水田開発が行われている。

北西部に近接する払田柵跡の調査で、外柵の内外は古代における旧河道跡が広範に確認されており、調査対象地も旧河川跡とその氾濫原が存在することが予想される。

b　現況

整然と区画整理された水田跡で、所々に幹線としての用排水路と農道が東西、南北に付設されている。対象区の西境は、幅１ｍ程の用水路が仙北町との市町村境をなしており、北西側の一角は休耕田である。そこは湿原状のぬかるみで、背丈の高い雑草が密集している。

6　範囲確認調査の方法

調査対象面積は、千畑町にかかるほ場整備範囲の約３分の１にも満たない。対象範囲は、周知の遺跡を中心にした部分と、この東側で明治から大正時代作図とされる古地図の荒地と畑（水田を除く）部分を合わせた地区である。排水路やパイプラインなどは、当初より掘削対象外とした。

調査は、全域に約50ｍ間隔の格子目状のトレンチを設定し、バックホーで約1.5ｍ幅の表土除去を行い遺構や遺物の有無を確認した。遺構・遺物が検出できない場合は、更に掘り下げた。調査対象範囲以外であっても遺構・遺物の予想される場合は、トレンチを延長したり新しく設定したりした。ただし、東端部分は調査中に地権者の同意が得られなくなり、未調査地区になってしまった。

トレンチの総延長は2,676ｍ、調査面積は4,014㎡である。調査面積は対象面積の約６％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

遺跡の基本層序は、以下の通りである。

第Ⅰ層　黒褐色土（10ＹＲ３/１）。表土・耕作土で盛り土を含む。層厚10～20㎝。

第Ⅱ層　黒褐色土（10ＹＲ２/２）。酸化鉄の粒子を含む所もある。遺物包含層。層厚20～30㎝。

第Ⅲ層　緑灰色土（7.5ＧＹ６/１）。粘性の強いグライ化土。砂質の所もある。

Ⅰ層は殆どが水田の耕作土である。ただし調査区北西部では、深さ20㎝前後の濁った青灰色土に酸

化鉄分を含む層が、広範に認められた。これを明治末頃の耕地整理層と捉え、Ⅰ層に含んである。Ⅱ層は、西側の本調査の必要な地区を除いて、20～30cmの深さで認められる。古代・中世の遺物包含層である。Ⅲ層では、縄文時代土器片1点を確認している。16　トレンチ西端で灰白色火山灰を検出したところ、一部火山灰の上部にグライ化土を確認した。さらに、調査対象区北西地区でグライ化土上面から古代の土器が出土した。第Ⅲ層は、古代以前の堆積層で縄文時代の遺物を含む層と考えられる。

b　検出遺構と出土遺物

確認できた遺構は、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構4基、土坑9基、溝跡3条、性格不明遺構4基、柱穴様ピット1基である。検出された遺構は、調査区南西側と東側にまとまる。前者は、覆土に炭化物を含む平安時代の竪穴住居跡や土坑がある。他に、黒色土を覆土とする竪穴状遺構や中世に属する可能性がある溝跡が見つかった。後者では時代は不明であるが、竪穴状遺構や溝跡が検出された。

遺物は古代の土師器や須恵器が中心で、中コンテナ3箱分が出土した。器種は坏・甕が殆どで、中に転用硯や墨書土器の破片も見られる。他に調査区南西端側の溝から、中世の擂り鉢や箸・クルミが1点づつ出土した。

8　所見

a　遺跡の種類

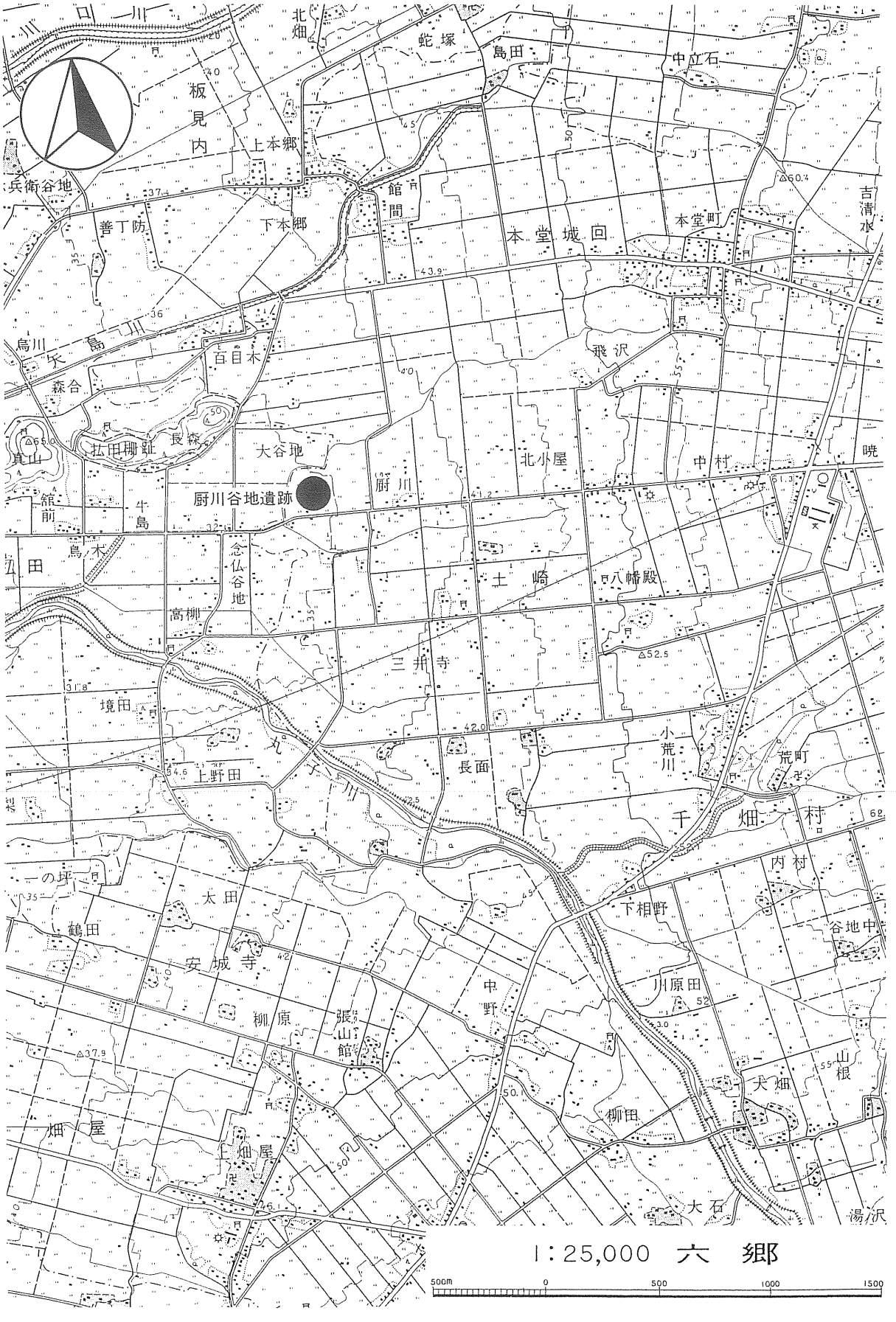
調査の結果、調査対象区南西側と東端地区の2遺跡の存在を確認し、前者を厨川谷地遺跡後者を厨川谷地Ⅱ遺跡とした。厨川谷地遺跡は古代・中世の集落跡で、厨川谷地Ⅱ遺跡も集落跡と考えられる。

b　遺跡の範囲と工事区域

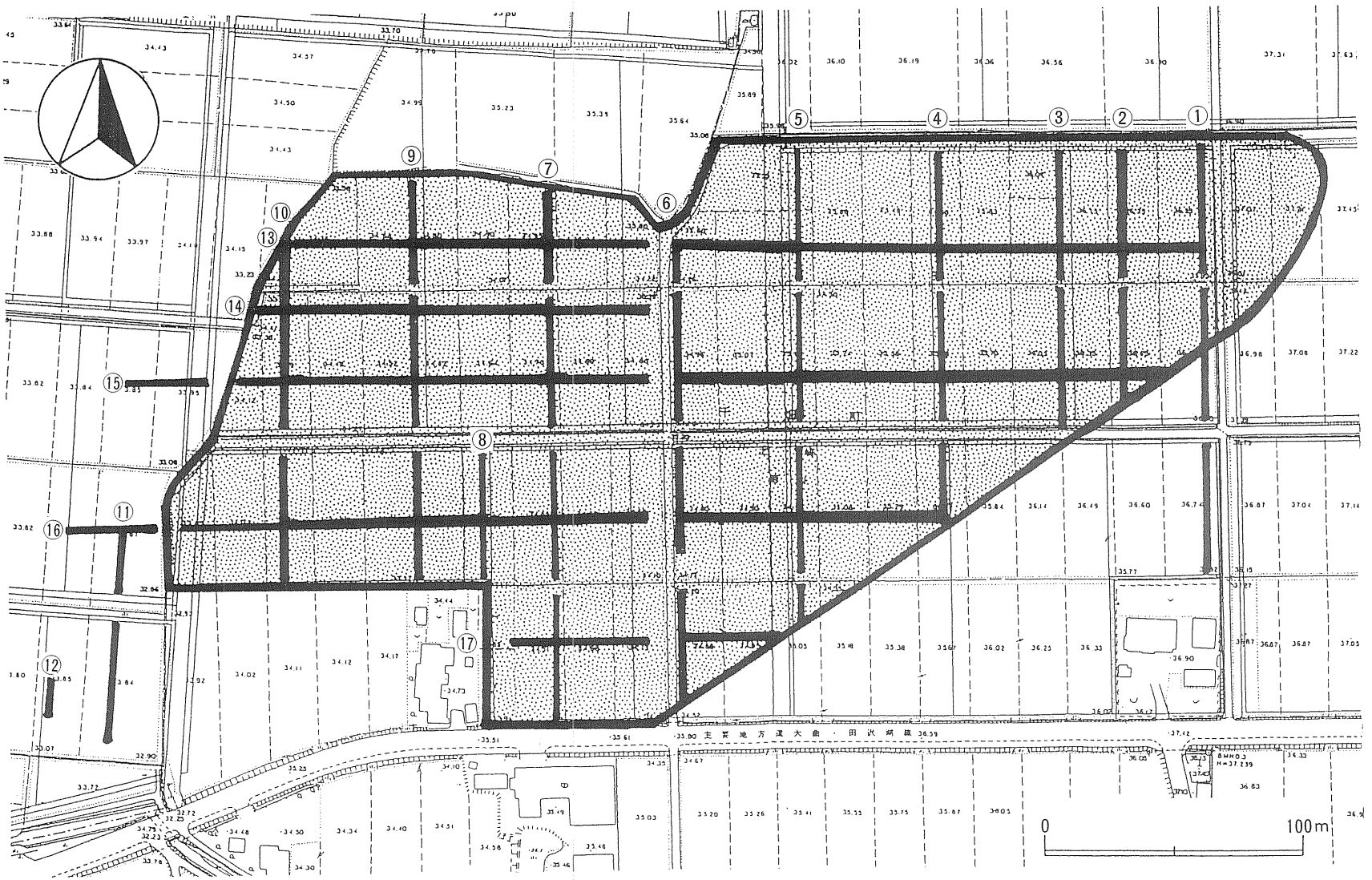
厨川谷地遺跡は調査区南西地区のうち、西を市町村界で区切られた東側の東西約100m×南北約50mの範囲が中心と考えられる。しかし、その周辺からも遺構・遺物が希薄ながら検出されるため、周辺も遺跡の範囲に含めてある。厨川谷地Ⅱ遺跡からは、竪穴状遺構や土坑・溝跡が比較的近接した地点から検出された。これらを基に遺跡の範囲を推定した。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

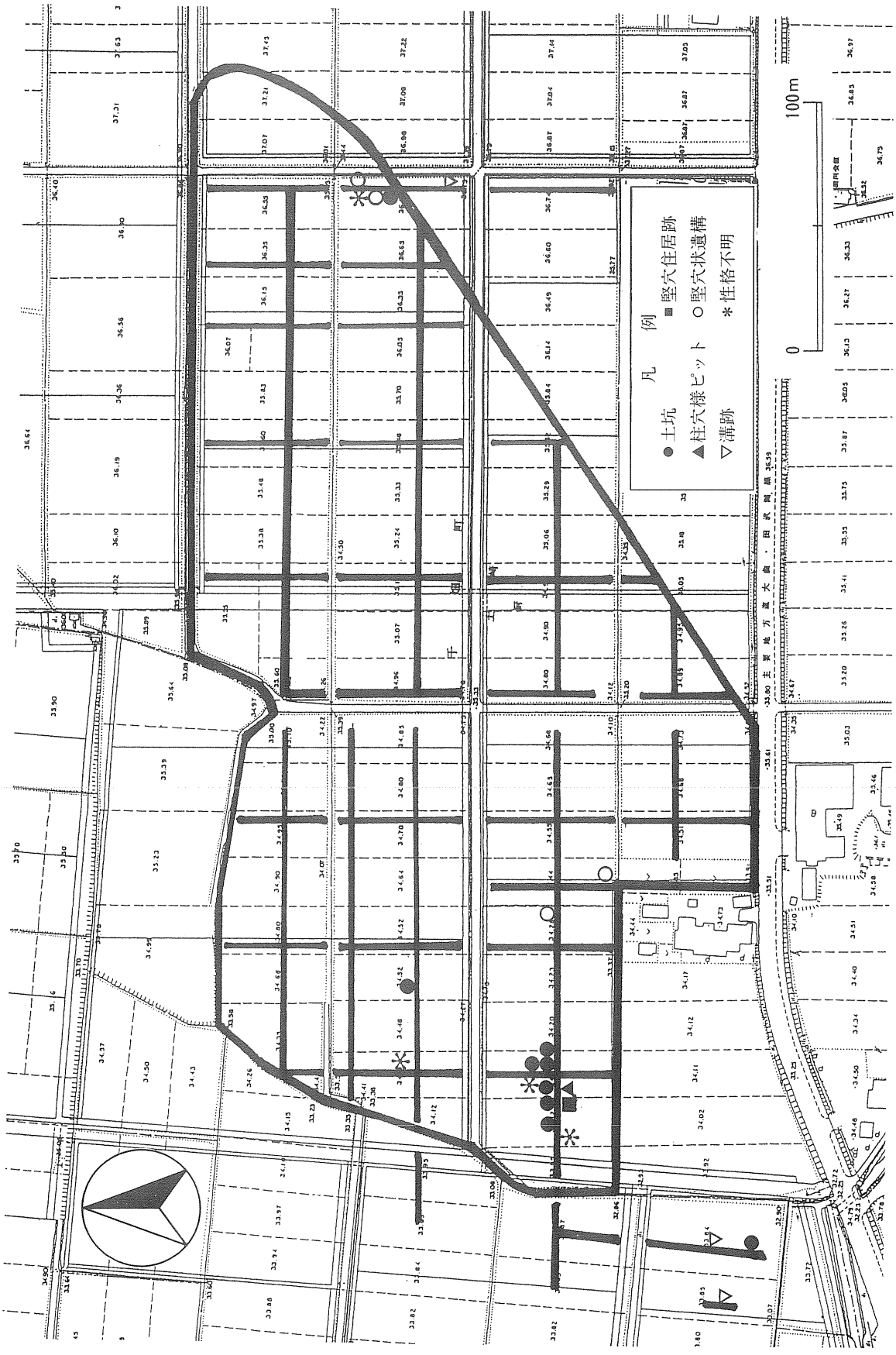
厨川谷地遺跡からは、竪穴住居跡10軒以上、土坑20基以上が検出されると考えられる。遺物も相当出土すると思われる。土坑の中には、隅丸方形状を呈するものも含んでおり、転用硯や墨書土器の存在から、掘立柱建物跡が検出される可能性もある。また、この地区から古銭が多量に検出され、周知の遺跡に登録された経緯がある。中世と推定される溝や箸の存在など、中世集落に関わる竪穴状遺構や土坑あるいは掘立柱建物跡などが検出されると考えられる。



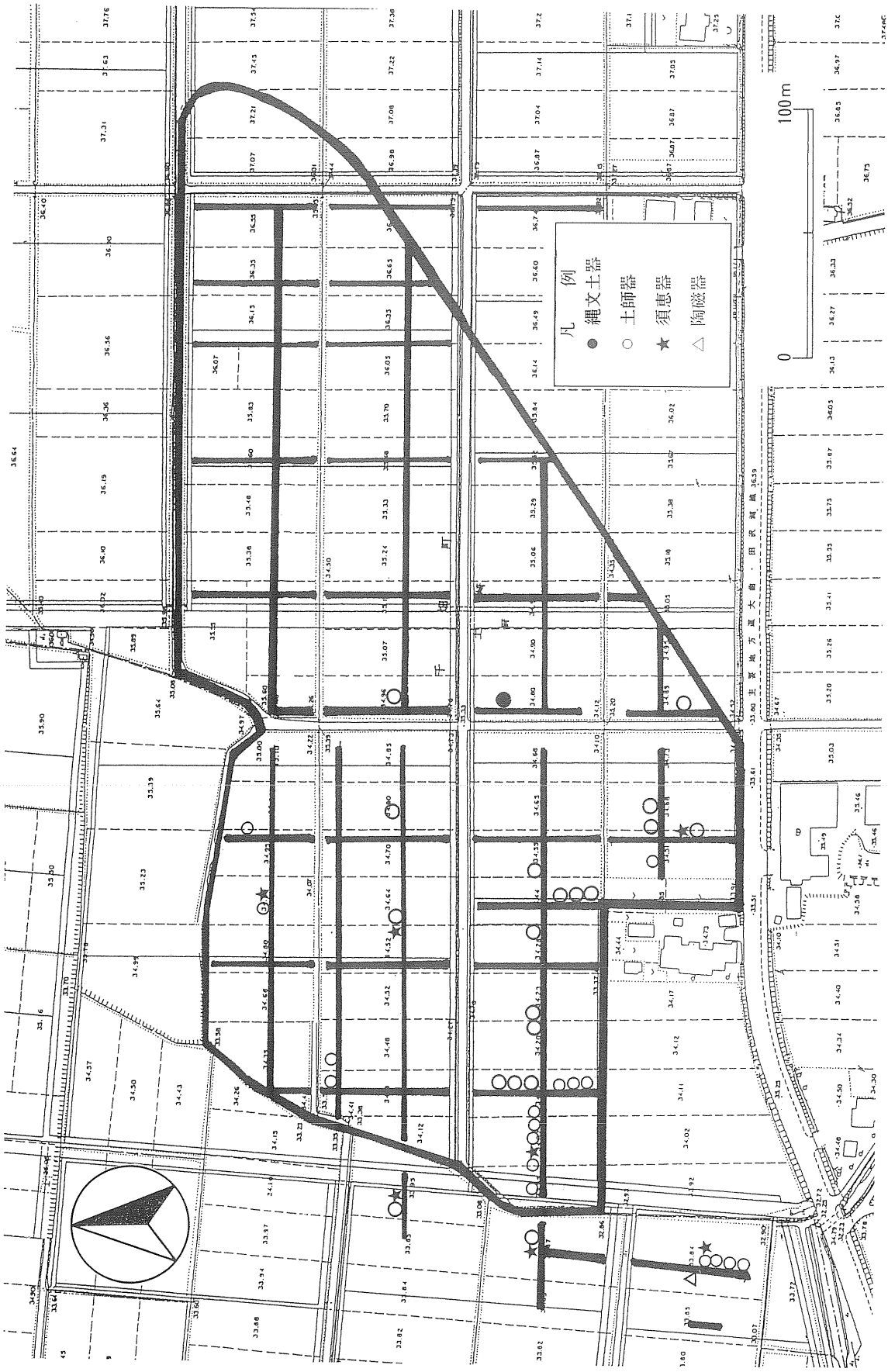
第89図　厨川谷地遺跡位置図



第90図　厨川谷地遺跡範囲確認調査範囲とトレンチ位置図



第91図　厨川谷地遺跡調査結果図（遺構検出地点）



第92図　厨川谷地遺跡調査結果図(遺物出土地点)

第93図　厨川谷地遺跡範囲図

厨川谷地遺跡
土坑(西から)

厨川谷地遺跡
遺物出土状況(北から)

厨川谷地Ⅱ遺跡
竪穴状遺構(南西から)

（８）日本海沿岸東北自動車道建設事業

①中ノ目（なかのめ）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県本荘市内越字中ノ目136外

2　範囲確認調査期間　　平成12年11月15日～11月16日

3　範囲確認調査対象面積　　21,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　0㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

中ノ目遺跡は、本荘市北部の内越地区に所在し、ＪＲ羽越本線羽後岩谷駅の南南西約2.5㎞に位置する。大内町から本荘市を蛇行して流れる芋川の左岸に広がる沖積地に立地し、標高は10ｍ前後で、南西に向かって緩く傾斜している。芋川流域の沖積地および段丘上には中世の集落跡、館跡が点在している。

b　現況

調査区のほぼ全域が水田である。

6　範囲確認調査の方法

路線中心に沿ってトレンチを南北方向に設定し、重機により表土を除去した後、地山面およびトレンチ断面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。礫層を確認するため深さ３ｍ前後の試掘坑を数箇所で掘削した。路線中心№332以南では水の湧出が激しくかつ土が軟弱であったため、トレンチ内の精査が終了した後、重機により埋め戻しを行った。試掘した調査面積は325㎡で、対象面積の約1.5％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

遺跡の層序は、路線中心№332＋40付近を境に南北で大きく異なる。

［南側］

第Ⅰ層　褐色土（7.5YR４/６）。耕作土。層厚30～40㎝。

第Ⅱ層　青灰色粘土（５B５/１）。層厚40～50㎝。

第Ⅲ層　灰白色粘土（N７/）。地山。

［北側］

第Ⅰ層　褐色土（7.5YR４/６）。耕作土。層厚15～20㎝。

第Ⅱ層　黄褐色粘土（10YR５/８）。地山。

第Ⅲ層　青灰色粘土（５B５/１）。地山。

南側では黄褐色粘土が存在せず、水田造成の際に削平されたと推測される。

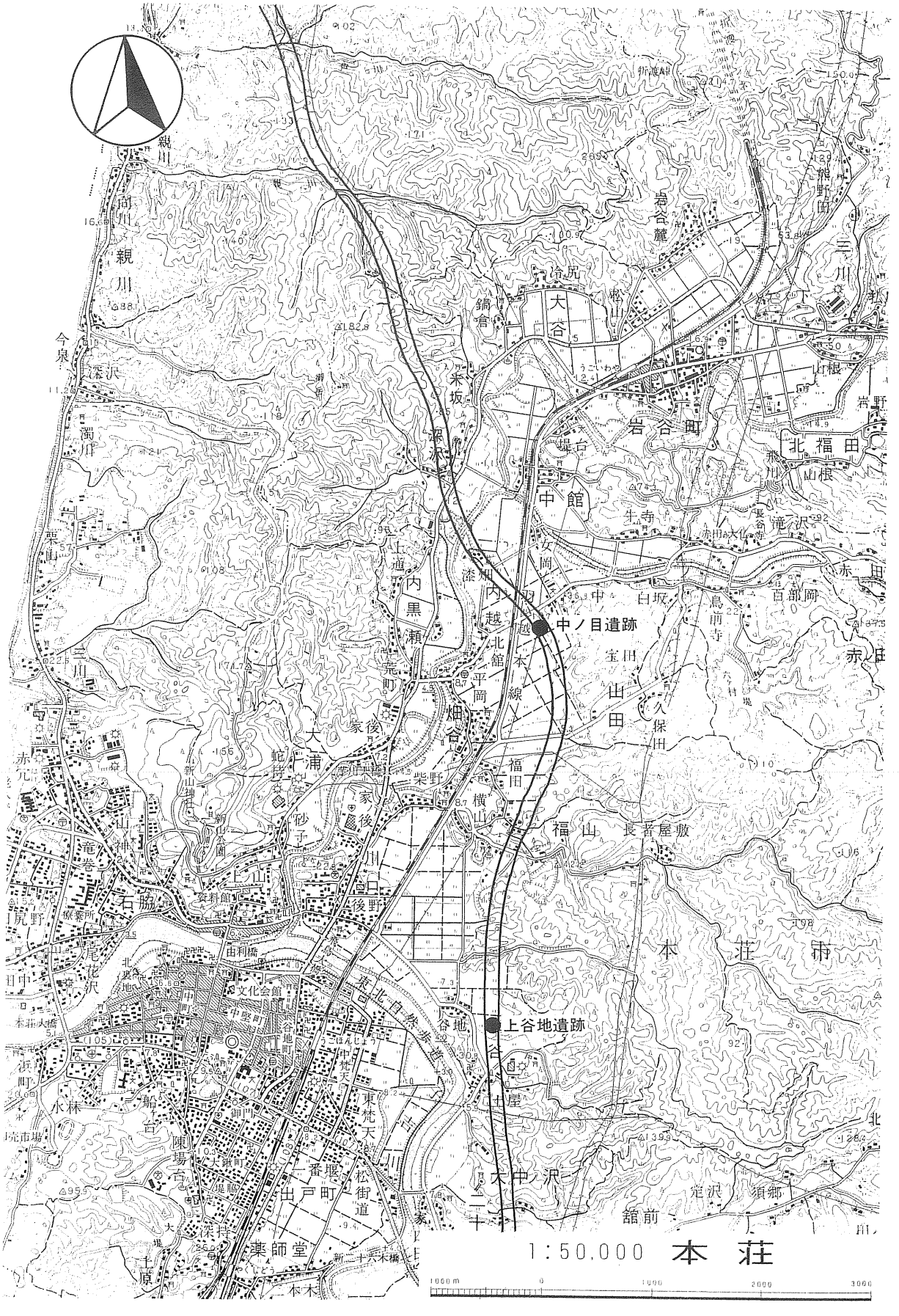
b　検出遺構と出土遺物

遺構は全く検出されなかった。遺物は地山面が残存している調査区北側から出土した。土師器・須恵器のほか、縄文時代に属すると考えられる剥片が混在した状況で出土しており、いずれも器表面の摩滅が著しい。

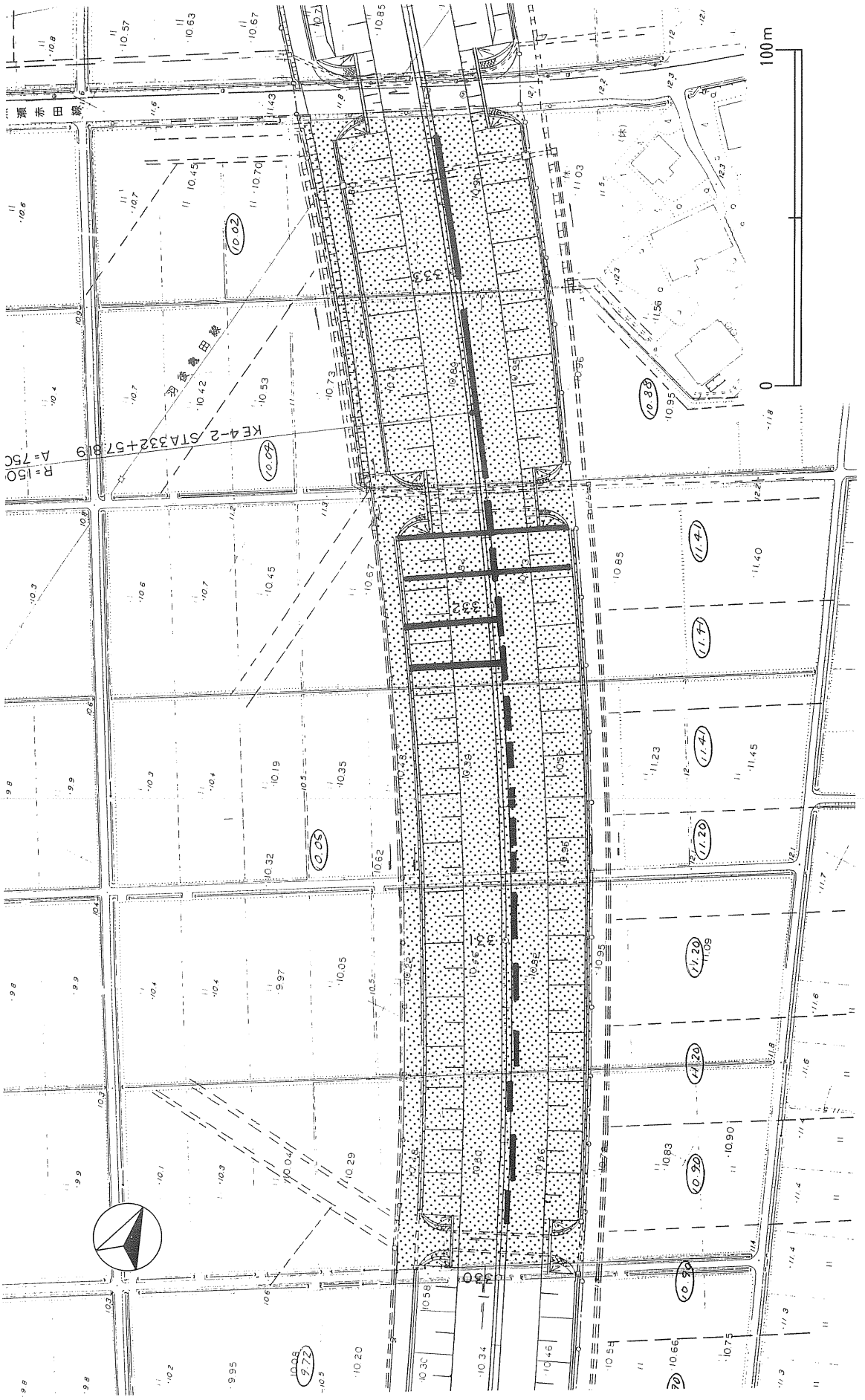
8　所見

今回の範囲確認調査対象範囲内は、表土層と地山面との層理面が明確であり、漸移層も存在しないことから、本来古代の遺跡であったところが最近の耕地整理や造成により遺構面まで削平を受けたと考えられる。

したがって、工事区域内での発掘調査の必要性はないと考えられる。



第94図　中ノ目遺跡・上谷地遺跡位置図



第95図　中ノ目遺跡範囲確認調査範囲とトレンチ位置図

②上谷地（かみやち）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県本荘市土谷字上谷地２外

2　範囲確認調査期間　　平成12年11月16日～11月21日

3　範囲確認調査対象面積　　32,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　11,500㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

上谷地遺跡は本荘市東部の土谷地区にあり、ＪＲ羽越線羽後本荘駅の東約1.5kmに位置し、北側に秋田県立大学本荘キャンパスを臨み、南側は本荘工業団地に接している。遺跡の範囲は子吉川東側の標高８ｍ前後の沖積地と、それに続く標高約20ｍ～25ｍの丘陵地にかけてである。丘陵部の西側は、標高約25ｍの二つの丘陵頂部から緩斜面を経て沖積地へ急傾斜しており、東側は同丘陵頂部から標高21ｍ前後まで緩く傾斜している。

b　現況

調査区の29,400㎡が水田で、2,600㎡が山林である。

6　範囲確認調査の方法

水田については、路線中心№294以北および№293以南では、トレンチを南北方向に設定した。重機により掘り下げを行い、地山面およびトレンチ断面を観察して、遺構・遺物の有無を確認した。礫層を確認するため深さ３ｍ前後の試掘坑を数カ所掘削した。水の湧出が激しくかつ土が軟弱であったため、トレンチ内の精査が終了した後、重機により埋め戻しを行った。№293～294はトレンチを東西方向に路線幅杭に合わせて設定し、人力により掘り下げを行った。

丘陵は立木の間を縫うようにトレンチを設定し、人力で調査した。

試掘した調査面積は516㎡で、対象面積の約1.6％である。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

遺跡の層序は、以下の通りである。

［水田］

第Ⅰ層　褐色粘土（10YR４/１）。耕作土（表土層）。層厚15～20cm。

第Ⅱ層　黒褐色粘土（10YR３/１）。旧耕作土。層厚20～25cm。

第Ⅲ層　オリーブ黒色土（7.5Y３/１）。遺物包含層。層厚20～40cm。

第Ⅳ層　灰色粘土（10Y４/１）。地山。

［丘陵］

第Ⅰ層　暗褐色土（7.5YR３/３）。表土層。層厚10～15cm。

第Ⅱ層　黒褐色土（7.5YR３/１）。層厚30～40cm。

第Ⅲ層　褐色土（7.5YR４/６）。漸移層。層厚10cm。

第Ⅳ層　黄褐色粘土（10YR５/８）。地山。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は、丘陵寄りの水田で、炭化物粒子を含む柱穴様ピットを検出した。丘陵では、館の郭と考え

られる平坦地が等高線に平行して数段確認でき、それぞれの地山面で溝跡、土坑、柱穴様ピットを検出した。

遺物は縄文土器、石器、平安時代の土師器・須恵器、中世陶磁器、漆器、木製品などが水田から出土した。

8　所見

［水田］

a　遺跡の種類

包含層出土遺物から平安時代の集落跡と推定される。

b　遺跡の範囲と工事区域

遺跡範囲は南北の水田を除いた部分で、面積は8,900㎡である。

c　発掘調査時に予想される遺構と遺物

遺構は平安時代の竪穴住居跡、柱穴様ピット、土坑などが検出され、遺物は主に平安時代の土師器、須恵器が出土するものと予想される。

［丘陵］

a　遺跡の種類

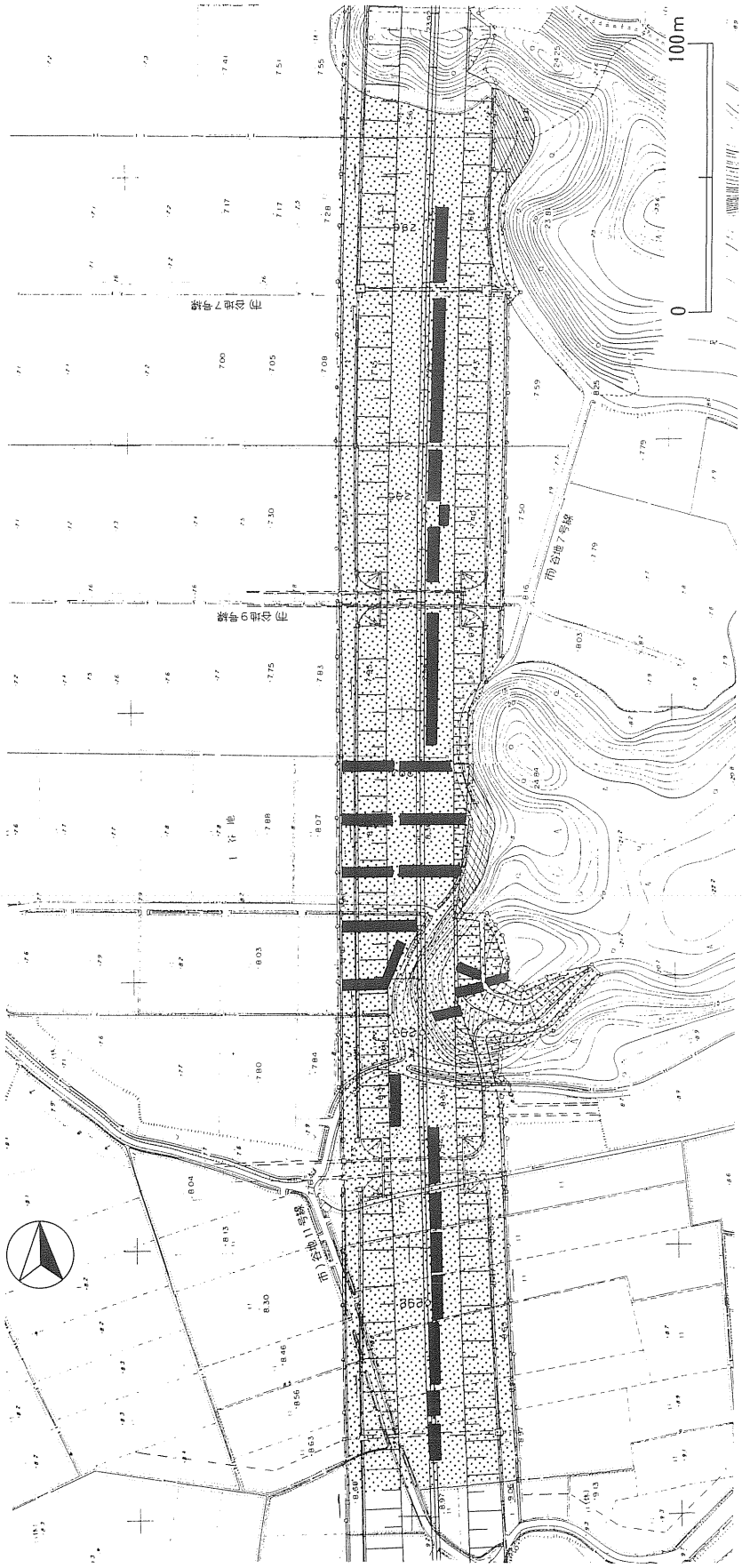
中世の城館跡と推定される。

b　遺跡の範囲と工事区域

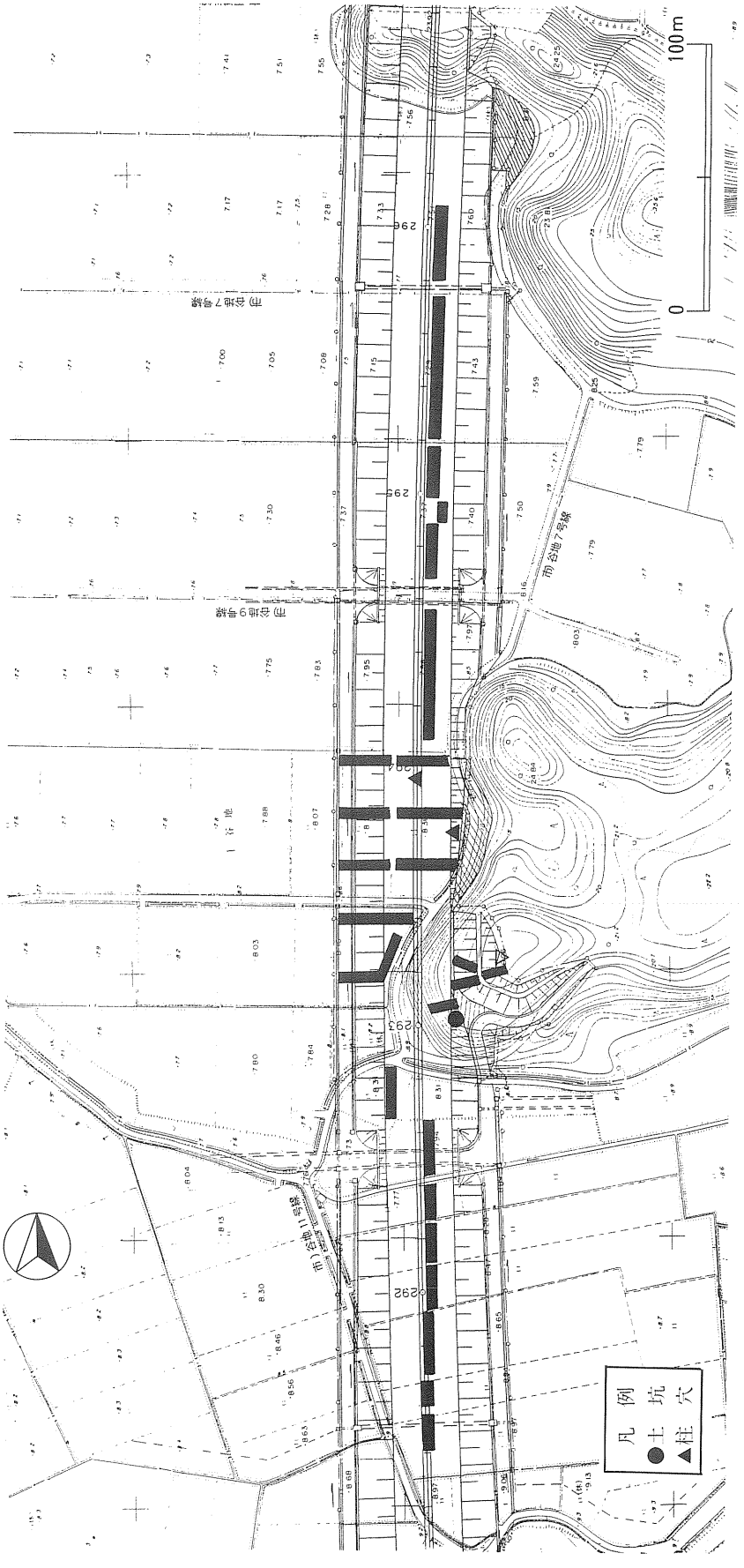
遺跡範囲は丘陵全域で、面積は2,600㎡である。

c　発掘調査時に予想される遺構と遺物

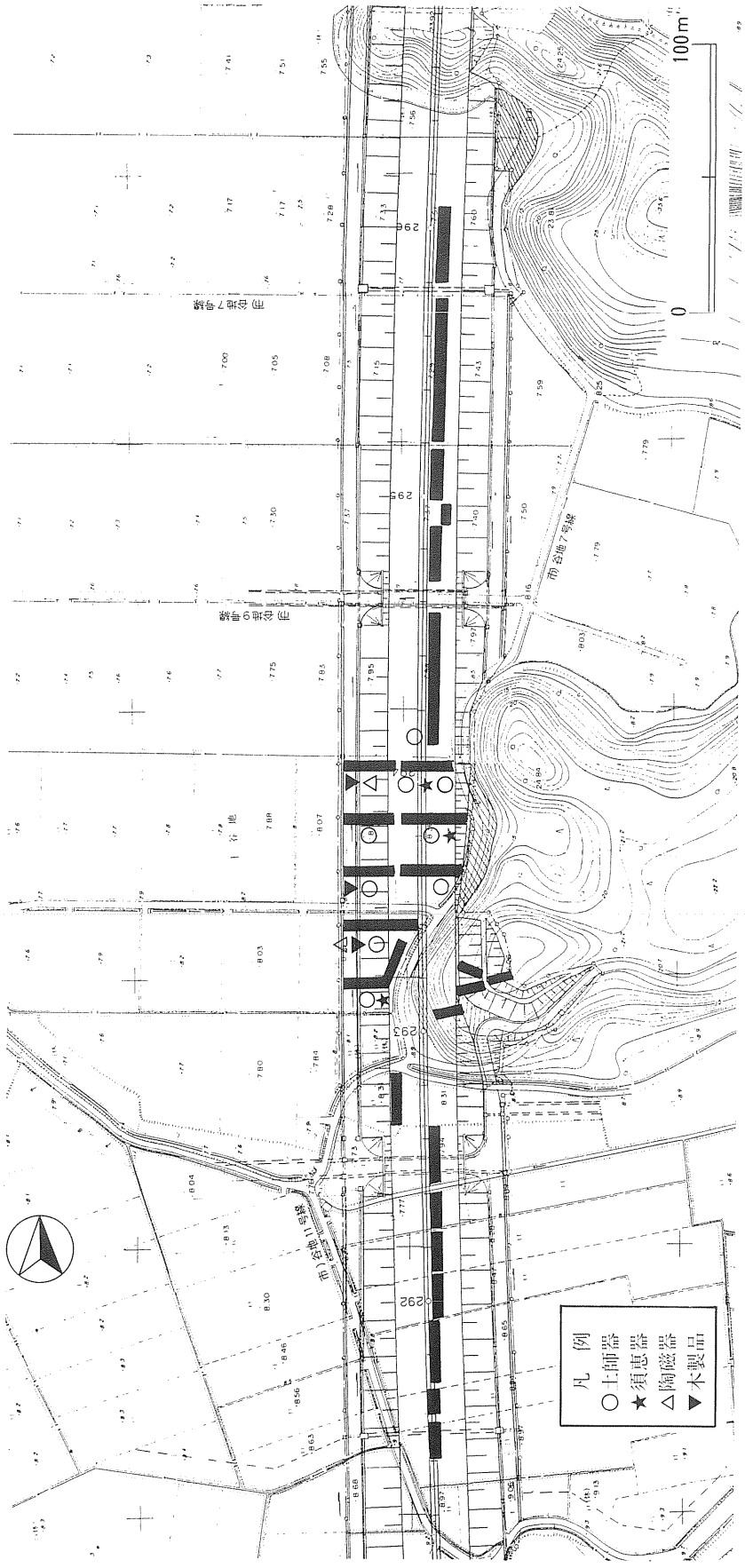
遺構は柱穴様ピット、溝跡、土坑などが検出されるものと予想される。



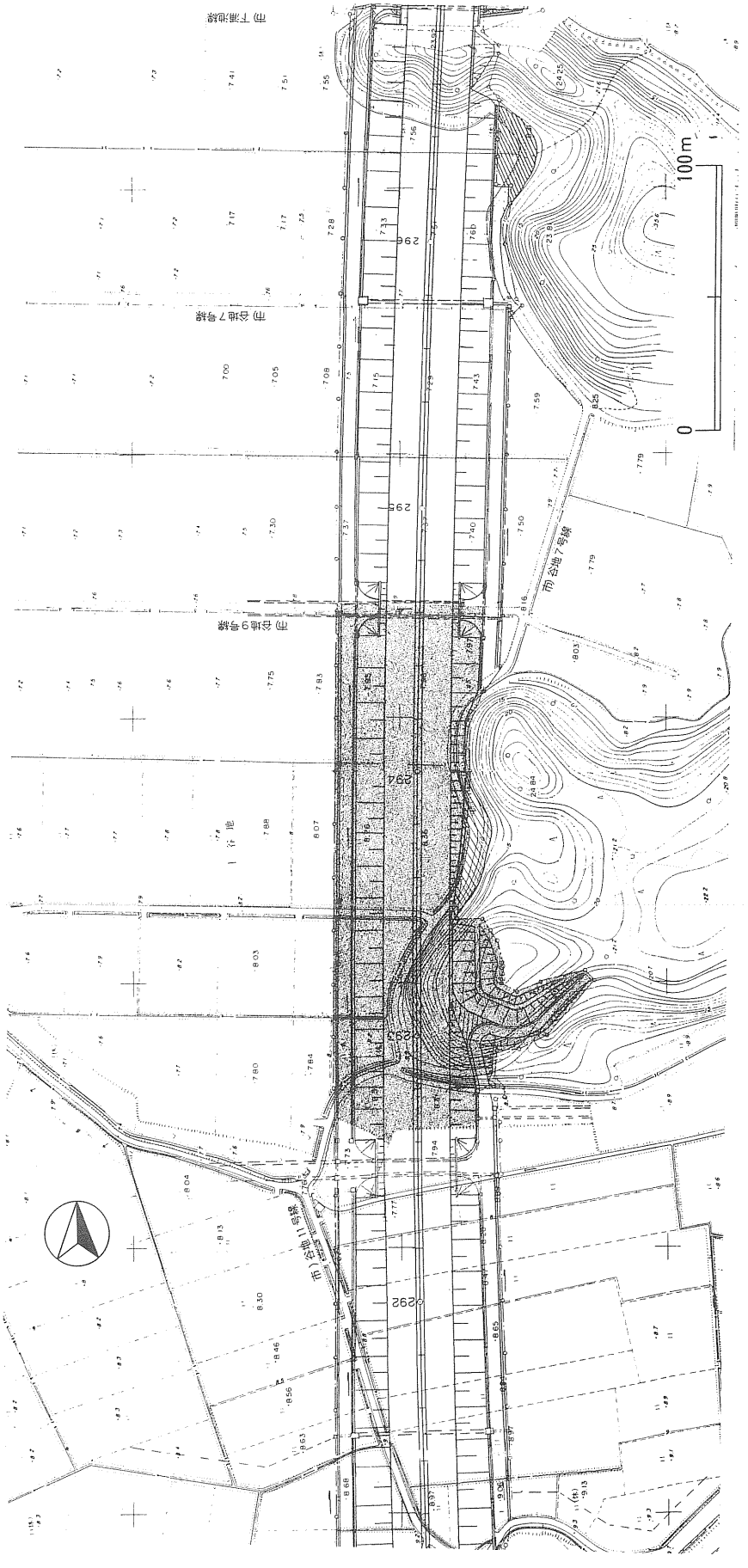
第96図　上谷地遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第97図　上谷地遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第98図　上谷地遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



第99図　上谷地遺跡範囲図

上谷地遺跡
遠景(北西から)

上谷地遺跡
柱穴検出状況
(水田　東から)

上谷地遺跡
土坑検出状況
(丘陵　西から)

（９）湯沢横手道路建設事業

①堀量（ほうりょう）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県湯沢市関口字堀量113外

2　範囲確認調査期間　　平成12年９月11日～９月29日

3　範囲確認調査対象面積　　16,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,300㎡

5　遺跡の立地と現況

a　立地

遺跡は、ＪＲ奥羽本線上湯沢駅から南西に約0.2㎞の雄物川右岸に位置する。雄物川は南北に延びる湯沢断層群によって方向を支配され、北から南に向かって流れる。この雄物川に沿って低地が発達し、段丘堆積物と広い面積を占める沖積層がみられる。遺跡は河岸段丘上に位置し、東には山地が北に向かって傾斜している。東の山地からは雄長子内岳（470.1m）に水源を発し、三本槍山（496.6m）南麓を西流する戸沢川が雄物川に流れ込む。遺跡の範囲は戸沢川が雄物川の段丘上に形成した扇状地端から雄物川の氾濫源にかけてである。標高は94～99mである。

b　現況

遺跡の現況は荒蕪地である。

6　調査の方法

現地形を考慮して等高線に直交する東西トレンチを設定し、これに交差するように南北トレンチを設け、バックホーを使用して遺構の有無を確認した。その後遺構確認面を精査し、遺構・遺物の有無を詳細に記録した。

調査区は段丘及び旧沢跡から３地区に分けられる。南北を旧沢跡により挟まれた段丘上に位置する南区（１～13トレンチ）、南区北側の旧沢跡を挟んだ段丘上に位置する北区（19～34トレンチ）、南区・北区の西側に位置し、一段低い段丘上に位置する西区（14～18トレンチ）である。調査対象面積は南区が3,300㎡、北区・西区が12,700㎡である。

範囲確認調査における試掘面積は南区が約780㎡で調査対象面積の23.6％、北区・西区が約1,200㎡で調査対象面積の9.4％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

a　層序

調査区内の基本土層は以下の通りである。

第Ⅰ層　黒褐色土（表土）。層厚20～30㎝。

第Ⅱ層　暗褐色土（10YR３/３）。遺構確認面。層厚20～60㎝。

第Ⅲ層　暗赤褐色砂礫（2.5Y３/３）。地山。

南区の南側（４～８、11～13トレンチ）は、５・６トレンチ間に西に向かって１m程下がる段があり、この段を境に東と西では層序が異なる。東側（南区南東部）ではⅠ層が黒褐色土（表土、層厚20～30㎝）、Ⅱ層が暗褐色土であり、Ⅱ層上面が遺構確認面である。西側（南区南西部）の８・13トレンチ及び６・７トレンチ南側では、Ⅰ層が黒褐色土（表土、層厚20～30㎝）、Ⅱ層が砂礫（層厚30～40㎝）、Ⅲ層が暗褐色土であり、Ⅱ層の砂礫層上面が遺構確認面となる。

西区ではⅡ層の暗褐色土中に小礫が混じり、砂礫が溝状に分布することから、旧沢跡が埋没したものと考えられる。

北区の19～27、30～34トレンチではⅠ層が黒褐色土（表土、層厚20～30㎝）、Ⅱ層が暗褐色土（層厚20～60㎝）であり、東側の28・29トレンチでⅡ層が40～60㎝と厚く堆積する。

b　検出遺構と出土遺物

遺構は南区Ⅱ層上面から竪穴住居跡、土坑、配石遺構、焼土遺構、溝跡、柱穴を検出した。特に南東部４・５トレンチに集中していることが確認された。４トレンチの竪穴住居跡からは埋設土器が検出されており、周辺には焼土・炭化物が分布している。また、土坑の中には確認面にこぶし大の礫が検出されたものがあり、土坑墓である可能性が考えられる。南区南西部６・12トレンチ交点付近で検出された竪穴住居跡は埋土中に小礫を含み、周囲の遺構確認面にも礫が広く分布する。南区北東部１・２トレンチからは柱穴が集中して検出された。２トレンチ北側からは人頭大の礫が数個一ヶ所にまとまって検出され、礫の周囲に黒褐色のプランがみられることから、配石遺構であると考えられる。

西区・北区では、河川の影響や畑の耕作による撹乱を受けており、遺構と断定できるものは検出されなかった。

遺物は南区から縄文土器・石器が出土した。遺構が密に分布する南東部では遺構確認面及び排土から土器・石器とも多量に出土している。西区からは陶磁器や縄文土器片が数点出土したが、すべて摩滅しており、河川により流れ込んだものと考えられる。

8　所見

a　遺跡の種類

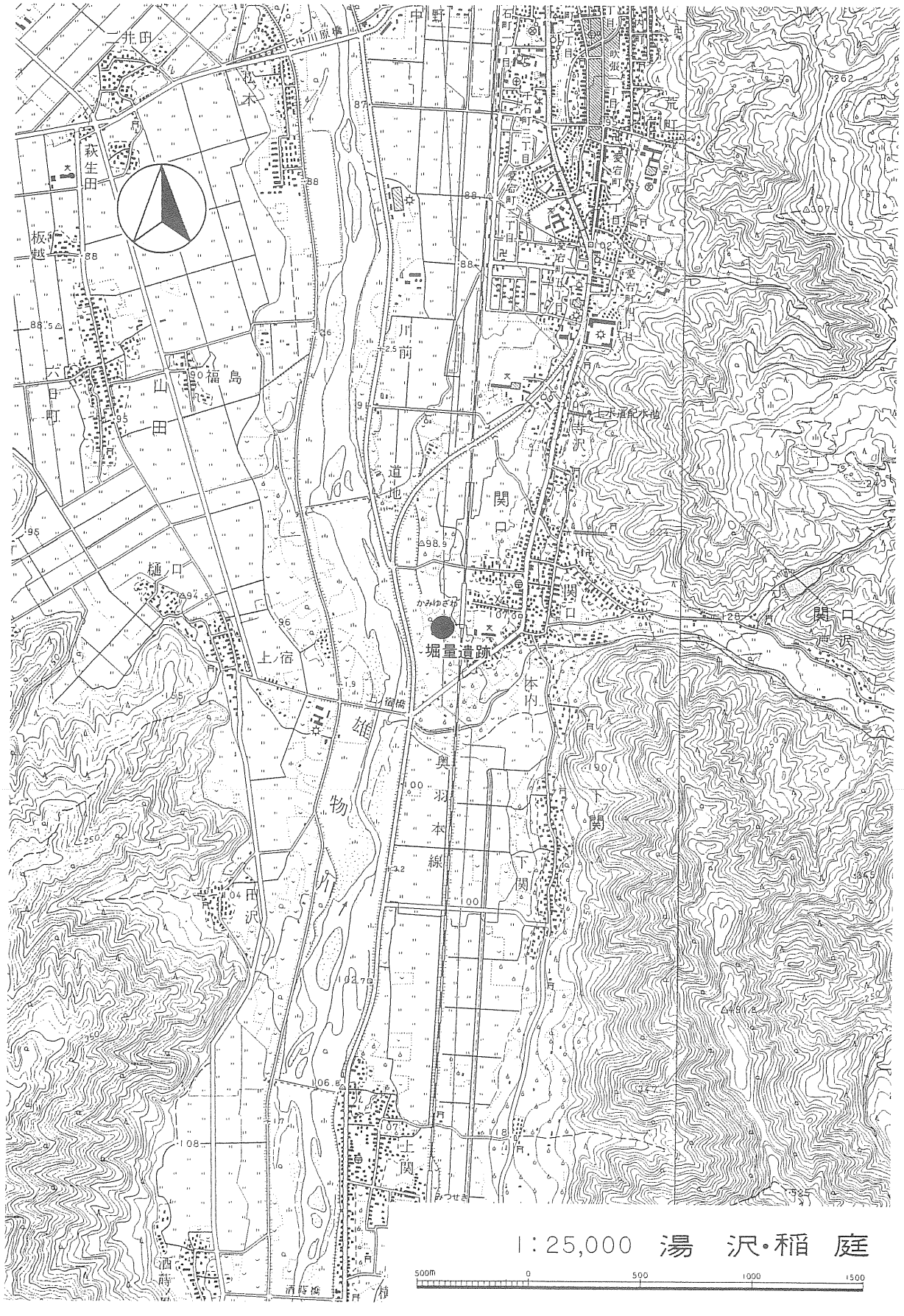
縄文時代中期の集落跡である。

b　遺跡の範囲と工事区域

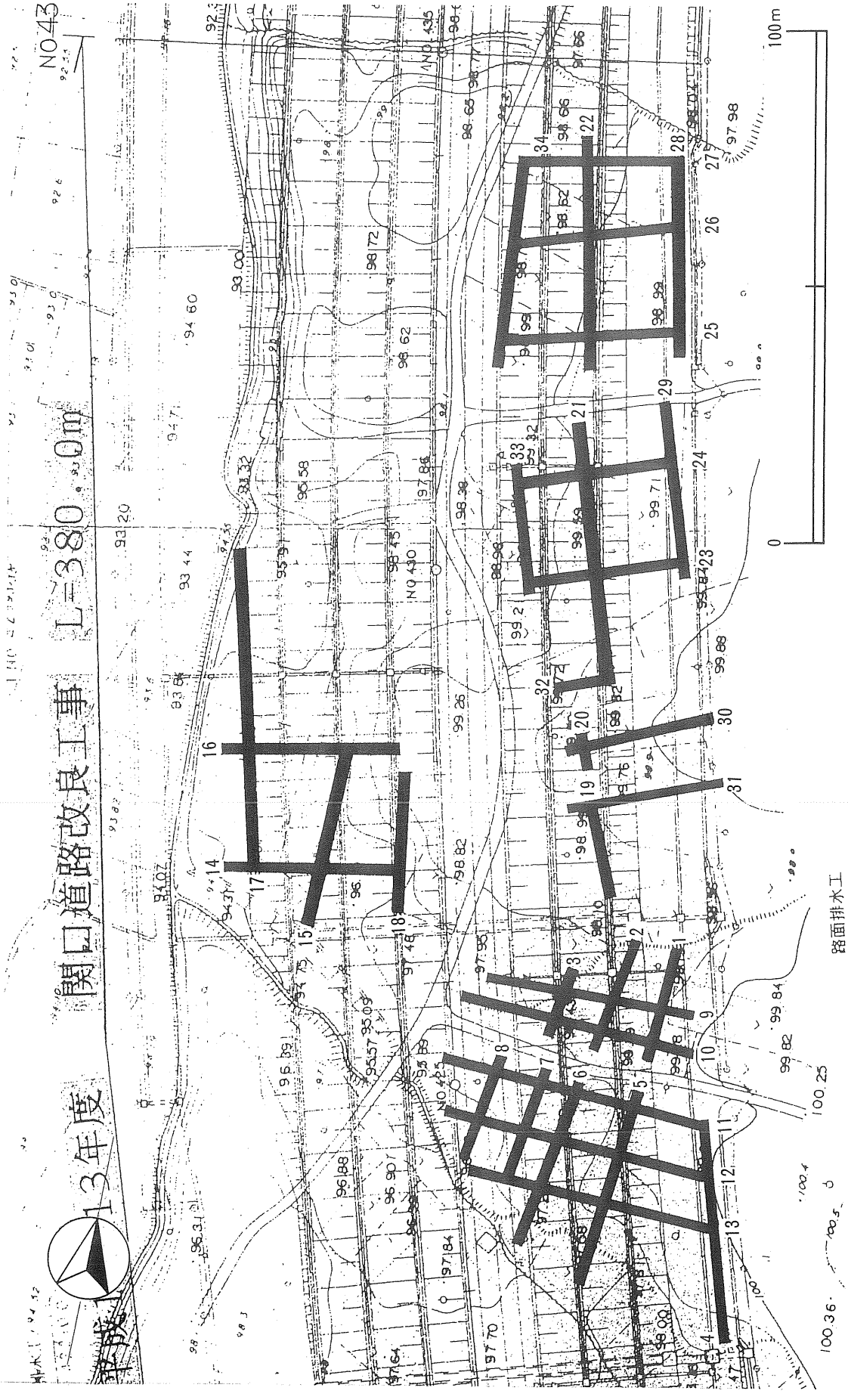
工事区域内の遺跡範囲は南区の河岸段丘である。遺構・遺物の検出状況から、遺跡は工事区域外の東側に広がるものと推定される。

c　発掘調査時に予想される遺構・遺物

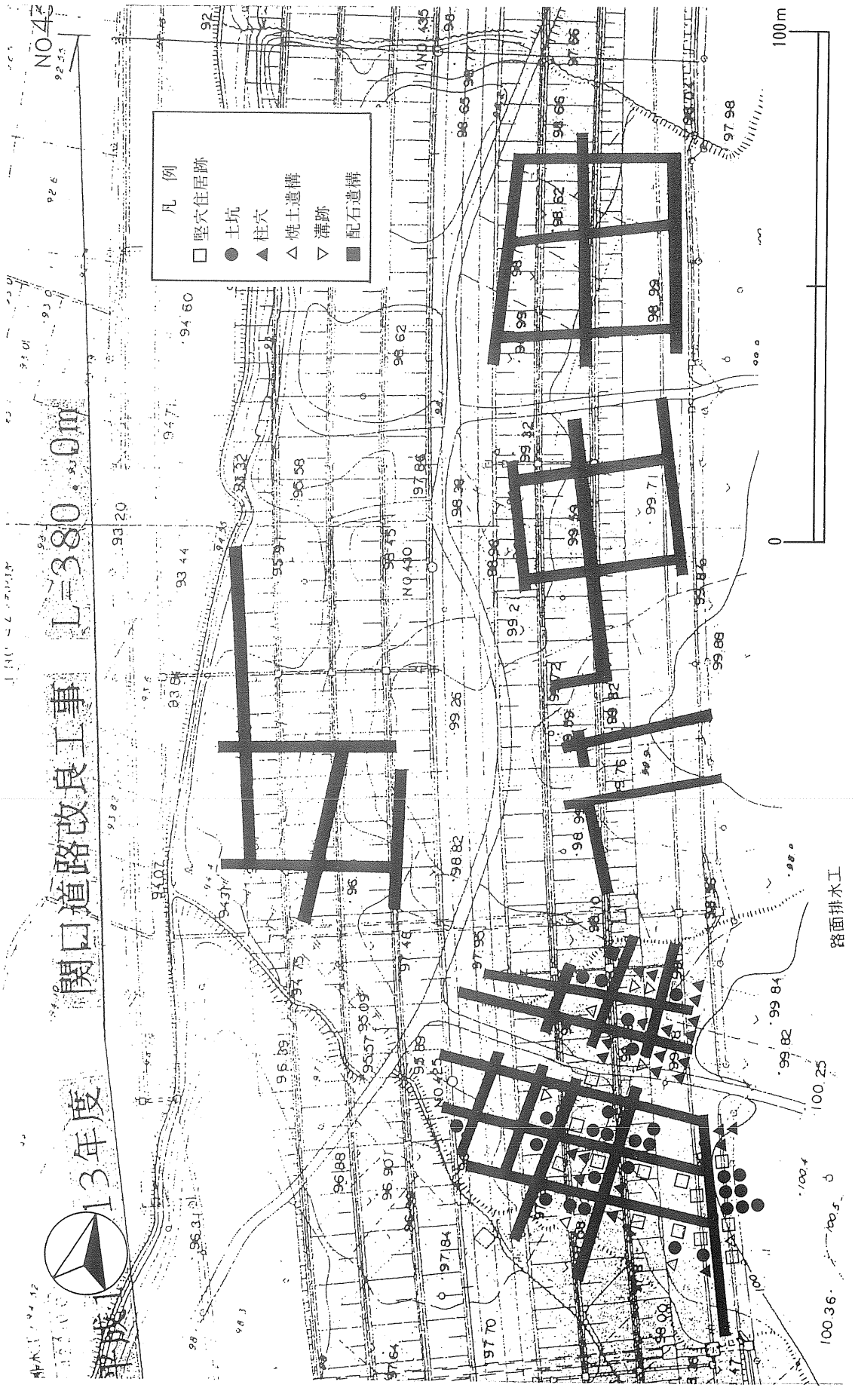
縄文時代中期の竪穴住居跡、土坑、配石遺構、焼土遺構、溝跡、柱穴等が南区南東部を中心に密集して検出されるものと予想される。遺物は、当該期の土器・石器が出土するものと考えられる。



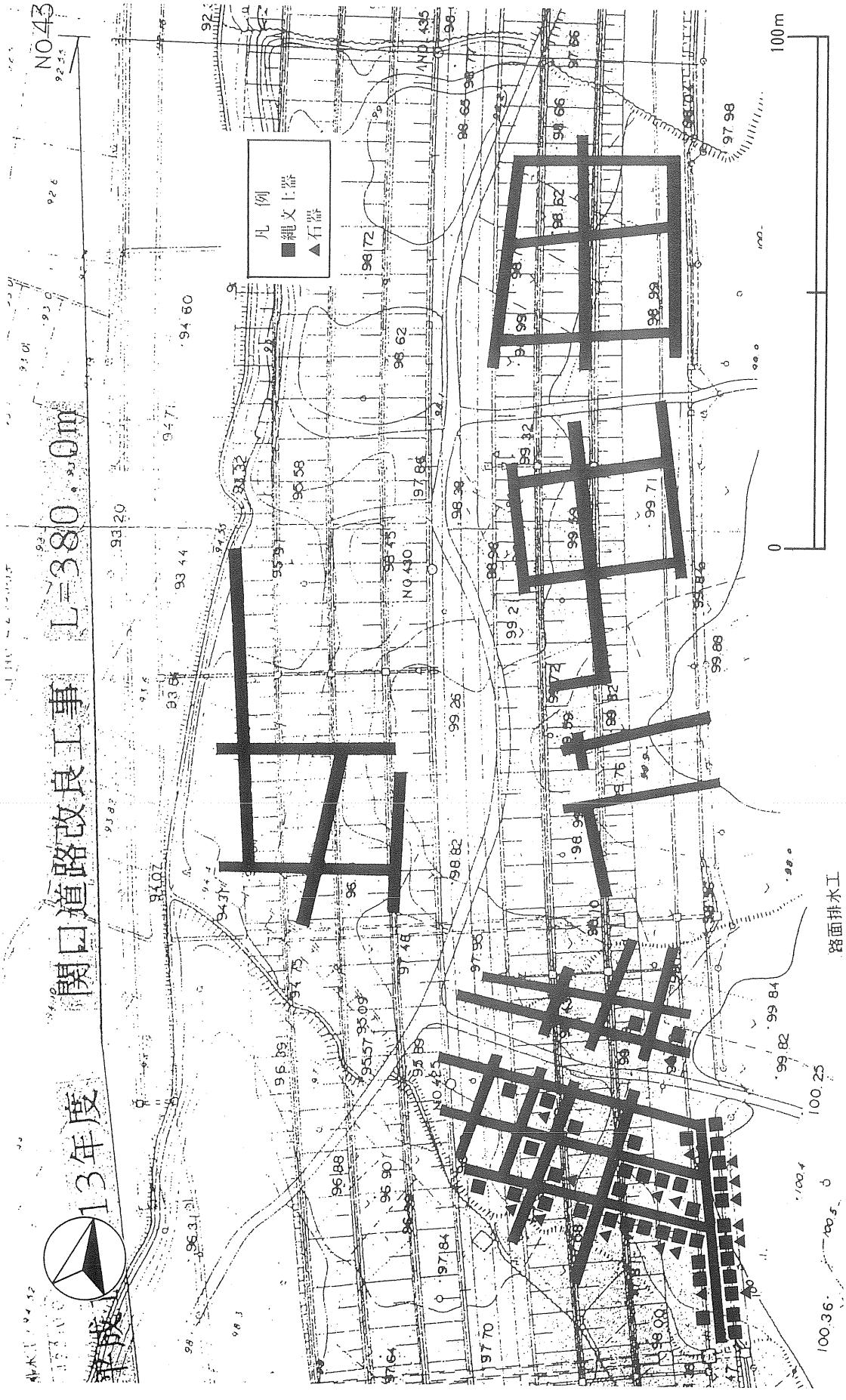
第100図　堀量遺跡位置図



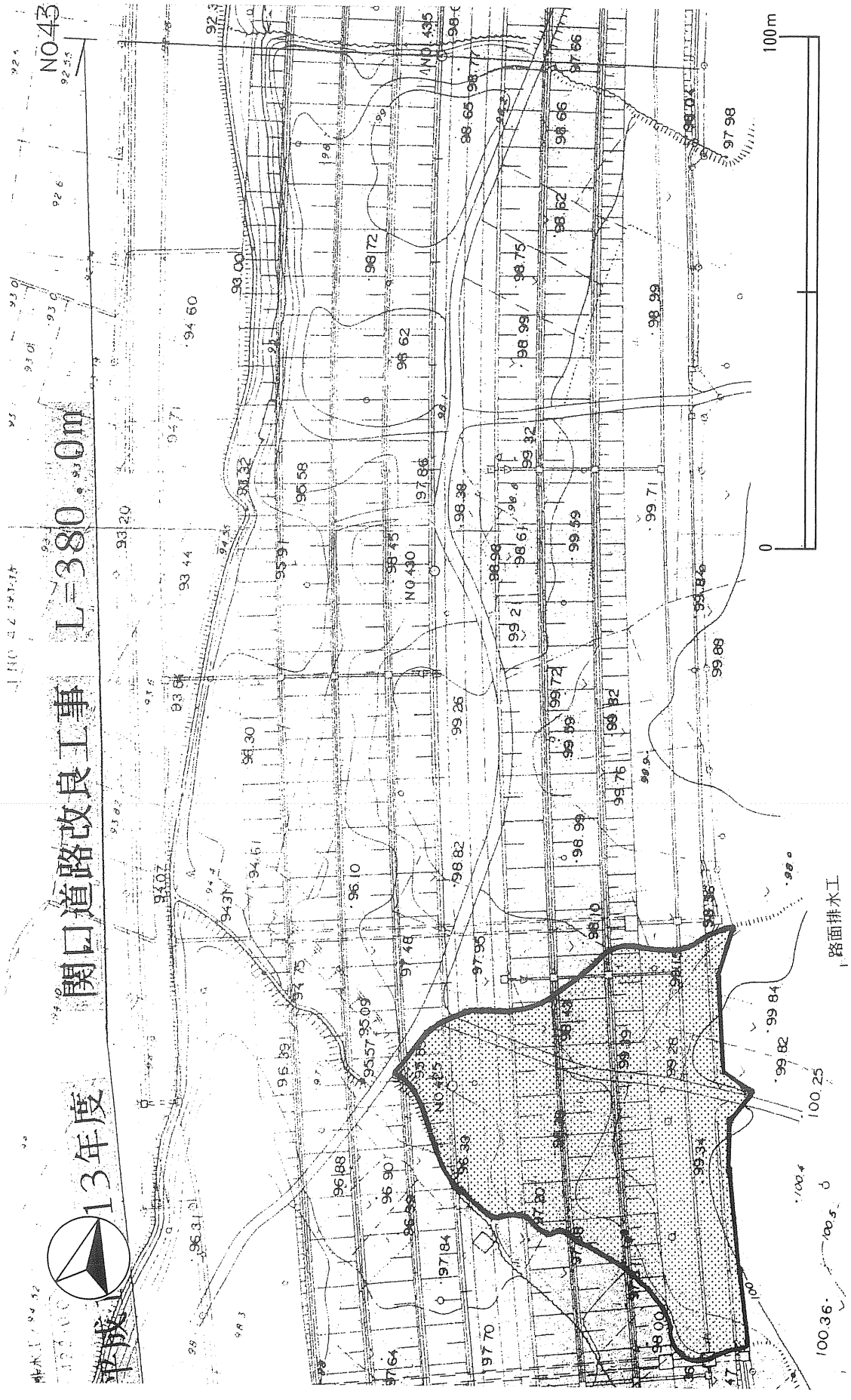
第101図　堀量遺跡トレンチ位置図



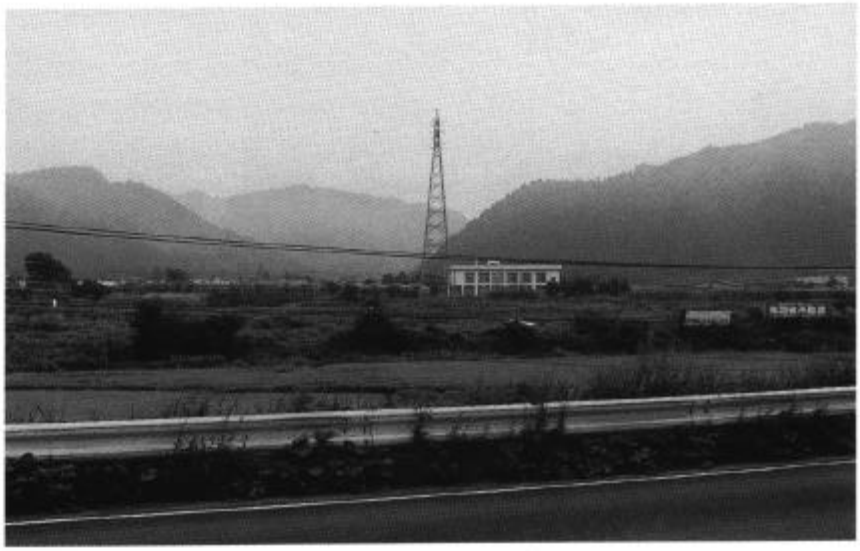
第102図　掘量遺跡調査結果図（遺構検出地点）



第103図　堀量遺跡調査結果図（遺物出土地点）



第104図　堀量遺跡範囲図



堀量遺跡
調査区遠景(西から)

堀量遺跡
土坑検出状況(南から)

堀量遺跡
配石遺構検出状況
(西から)